

奈良国立大学機構

国際戦略センター年報
2023

奈良教育大学・奈良女子大学

巻 頭 言

国際戦略センター 吉村雅仁

令和4年の法人統合により設立された国立大学法人奈良国立大学機構の下で、奈良教育大学「国際交流留学センター」と奈良女子大学「国際交流センター」は令和5年に統合され、「国際戦略センター（Nara ISC）」として生まれ変わりました。それに伴い、従来各大学単位でのみ実施されてきた留学生の派遣・受入、海外協定校との関係構築、共同研究などの国際交流事業は、Nara ISCの下、機構全体の総合的な国際化を目指すことになりました。

Nara ISCに求められることは多々あります。機構の国際化の方針をその名の通り戦略的に策定すること、その方針に沿う事業を新規に開始すること、各大学の協定大学を見直し・新規開拓すること、両大学が独自に築き上げてきた国際交流の取組の共同運用や国際的な学術研究の共同推進を促進することなどが挙げられます。このような取組により、両大学の国際的教育・研究活動の大幅な拡充発展を図ろうとしています。また、両大学が位置する奈良の環境、例えば国を代表する文化資源や文化施設、我が国最先端の科学技術に関わる企業や研究所との連携を活かしながら、機構の国際化を量的・質的に拡充させることも中長期的な目標となります。

令和7年3月現在でNara ISC設置後2年が経過しますが、最初に我々が取り組んだことは機構の国際戦略構想でした。各大学の教育・研究の特性、地域との関係等が同一ではないため時間がかかりましたが、次のような国際戦略が策定されました。

国際的な知の循環基盤を整備することにより、専門分野を究めると同時に、国際理解と異分野理解を深め、学びの地である奈良についても知見を有し、よりよい国際社会の建設に貢献できる人材、特に教員となりうる人材ならびに高度女性人材を育成する。異言語・異文化を横断する学びを拡充するとともに、奈良カレッジズ各機関および奈良県内の多様な団体・組織・企業等と連携した国際共修プログラム、全学生対象の国際交流体験プログラム等の各種プログラムを展開し、多様な文化的背景を持つ学生・研究者・教育者・社会人が交流する「国際キャンパス奈良」を整備する。こうして国際的に開かれたキャンパスに育つ知的風土の中で、高度な研究活動を推進する。

この国際戦略の下、設定された数値指標を意識しながら、Nara ISCのキックオフシンポジウムを始め多くの事業に取り組んできました。本報告書は、過去2年間の取組をまとめたものです。充分整理されているように見えない部分もありますが、各大学がこれまで積み上げてきた事業の多くを両大学に開放してきたこと、両大学学生が共に参加できる多様な新規プログラムを開発してきたことはご理解いただけるでしょう。その結果、国際交流活動や留学プログラムへの参加学生数が目標指標をほぼ達成しています。また、数値だけでなく、深い学びにつながるプログラム（例えばカンボジアスタディツアー）やセンターではなく部局主導のプログラムも現れてきており、国際的事業の質の高まりも期待されます。さらに、英語運用能力向上のための女子大の多様なプログラムも注目すべきでしょう。

今後Nara ISCは、各部局主導、奈良カレッジズや地域との連携、教職員・院生の国際共同研究などの取組を計画・支援していく予定です。本報告書をその一過程としてご覧いただければ幸いです。

目 次

年次報告（奈良教育大学）

1. 受け入れ留学生教育の運営	7
2. 学内における異文化交流の活性化	12
3. 日本語・日本文化研修留学生 / 協定校交換留学生 / 教員研修留学生プログラム	15
4. 短期派遣留学プログラム	17
5. ホームページ記事より抜粋	38

年次報告（奈良女子大学）

I. 学生の海外派遣事業

1.1. グローバル女性人材養成プログラム（フィリピン）	59
1.2. グローバル女性人材養成プログラム（ニュージーランド）	71
2.1. 夏休み Nara ISC 研修（オーストラリア・ハワイ）	92
2.2. 春休み Nara ISC 研修（カンボジア・ヨーロッパ）	100
3.1. 夏休み海外オンライン研修 ※アンケートあり	102
3.2. 春休み海外オンライン研修	118
4. 交換留学（派遣）	119
5. 官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」	120
6. 奈良女子大学国際学術交流奨励事業（学生の国際学会等での発表）	121
7. 全体評価	122

II. 留学生の受入事業

1. 奈良女子大学日本語サマープログラム「万葉」	124
2. 奈良女子大学日本語オンラインプログラム「そらみつ」夏・冬 ※アンケートあり	125
3. 交換留学（受入）	141
4. 日本語・日本文化研修留学生	142
5. 修士ダブルディグリープログラム（受入）	151
6. 全体評価	151

III. その他事業

1. 国際戦略センター開講科目	153
2. 奈良女子大学国際空間 CotoQue（ことーく）	161
3. 留学生のための実地見学旅行	164
4. 日本語学習ボランティア	164
5. 留学生のための就職支援	164
6. 留学サポート制度	165
7. 国際戦略センターキックオフシンポジウム	166
8. 外務省対日理解促進交流プログラム「MIRAI」	167

資料

・国際戦略センター奈良女子大学部会 2023 年度活動一覧	168
・外国人留学生数	169
・大学間交流協定及び学生交流締結一覧	169
・部局間交流協定及び学生交流締結一覧	171
・ダブルディグリー他	172
・国際戦略センター	173
・国際戦略センター運営委員会	173

国際戦略センター（奈良教育大学） 年次報告

2023年4月1日に奈良教育大学国際交流センターと奈良女子大学国際留学センターが統合され、奈良国立大学機構の元に新たに国際戦略センターが設置されたことで、これまで各大学で行われてきた各種国際交流イベントの多くが両学の学生に開放され、また新た取組として夏季・春季休業期間中に海外合同研修を企画・運営し、本学学生の国際交流の機会を大幅に増やすことができました。本学の活動の詳細は、以下の通りです。

1. 受け入れ留学生教育の運営

前期は45名、後期は44名の留学生を受け入れました。
在籍留学生数、内訳は以下のとおりです。

前期	学部正規生 3 名、大学院正規生 14 名、学部研究生 6 名、教員研修留学生 5 名、日本語・日本文化研修留学生 6 名、交換留学生 11 名
後期	学部正規生 3 名、大学院正規生 13 名、学部研究生 8 名、日本語・日本文化研修留学生 5 名、交換留学生 8 名、教員研修留学生 7 名（うち 2 名は日本語予備教育期間）

受け入れ留学生のうち日本語・日本文化研修留学生は、世界各国で日本語・日本文化を学んでいる大学生を対象とした、文部科学省奨学金プログラムによる留学生です。

また本学が国際交流協定を結んでいる大学からは、前期はセントラルミシガン大学から2名、ハイデルベルク大学から2名、西安外国語大学から3名、嶺南大学から3名、華東師範大学から1名を、後期はセントラルミシガン大学から1名、リヨン第3大学から1名、ハイデルベルク大学から2名、西安外国語大学から4名を交換留学生として受け入れました。

授業だけでなく、以下のような文化プログラムを通して日本語・日本文化の理解を深めました。

本学自然環境教育センター奈良実習園での田植え体験（2023年6月7日）



近江八幡学習旅行（2023 年 7 月 8 日）



文楽観劇（2023 年 7 月 31 日）



日本語・日本文化研修留学生及び交換留学生最終発表会、記念品授与式（2023 年 8 月 3 日）



自然環境教育センター奈良実習園での稲刈り・さつまいも掘り体験（2023年10月11日）



和歌山県学習旅行（2023年11月3日）



餅つき（2023年12月13日）



日本のお正月体験 (2024 年 1 月 10 日)



歌舞伎鑑賞 (2024 年 1 月 11 日)



京都見学合同プログラム (大阪大学日本語・日本文化研修留学生との合同プログラム)
(2024 年 2 月 16 日)



大相撲大阪場所観戦（2024 年 3 月 13 日）



2024 年度 4 月からは、文部科学省の奨学金を得て日本の教育事情を研修するために留学している海外の現職教員（教員研修留学生）2 名が、大阪日本語教育センター（JASSO）での 6 か月の日本語集中研修を終えて本学での専門教育研修を開始します。

2. 学内における異文化交流の活性化

① 留学生・日本人学生の共修機会の提供

本学の留学生対象科目の一部は日本人学生も履修可能となっており、留学生とともに日本語や日本文化について学びました。例えば「日本語 1」の授業では留学生と国内学生が共に課題解決型の話し合いを行い、「現代日本論」の授業では日本や日本社会の事象や課題を通じて日本文化のハイブリッド性を理解し、さらに自身の言語・文化アイデンティティとの結びつきについて考え、「基礎日本語」や「補習授業 実践日本語」の授業では外国語、第2言語としての日本語学習を体験しました。また、留学生科目「日本語コミュニケーション」と専門科目「教育課程特講」が合同授業を行ってペアとなった学生の出身地についてイメージを交換したのち、教育制度や各自の学校での経験について情報交換をしました。

② 学内における国際交流活発化のための取り組み

授業以外でも、国際交流の場を用意し、留学生と日本の学生とが出会える機会を多く提供しています。例えば気軽におしゃべりする場を提供する「なっきょん's café」（定期的に開催）、「留学生と友達になろうキャンペーン」（年1回開催）では留学生と日本人学生の有志が中心となって実施されています。「なっきょん's café」は計6回実施され、のべ約60名の学生が参加しました。「留学生と友達になろうキャンペーン」ではアフリカ、アメリカ、インド、中国、ドイツ、フランスの6つの国／地域からの留学生がブースを出して自国の文化を紹介しました。また、2023年度は23名の学生が留学生サポーターとして活動しました。

留学生と友達になろうキャンペーン（2023年5月10日開催）



なっきょん's café「Welcome Party! (2023 年 10 月 13 日対実施・写真左)」

「ヨーグルトだけじゃない！ブルガリアの冬体験」(2023 年 12 月 22 日対実施・写真右)



さらに、学内の留学生とお互いの母語を教え合う「言語交換レッスン」やセントラルミシガン大学で日本語を学ぶ留学生有志と本学学生をマッチングし、オンラインで日本語・英語の交換レッスンをする「オンライン会話パートナー」を実施したり、「教師のための多様性理解シリーズ ミニレクチャー 「使ってみよう！やさしい日本語」」を 2023 年 8 月 24 日にハイブリッド（対面、オンライン）にて開催し、「教職実践演習」受講者、および学外の教育関係者を含む計 84 名が参加しました。

ミニレクチャー 「使ってみよう！やさしい日本語」



③ 派遣留学の奨励と支援

2023 年 9 月より、国際交流協定校のアメリカ・セントラルミシガン大学へ 2 名、コモンウェルス大学へ 1 名、2023 年 12 月よりコモンウェルス大学へ 1 名が渡り、留学生生活を始めました。派遣留学生に対しては、本学の支援奨学金制度や他団体(馬場財団国際理解人材育成奨学金)に加えて、2023 年度は「海外留学支援制度短期研修・研究型（協定派遣）」が採択され、支援を行いました。



④ 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進

本学では、留学生と日本の学生とが共に、附属学校園や地域と連携してさまざまな実践を行いました。例えば、12月6日に留学生科目「日本語コミュニケーション」受講生12名が附属小学校5年生の「外国語」の授業に参加したり、11月28日に教員研修留学生、学部研究生（留学生）が山添小学校の5年生と6年生の授業に参加し、5年生の国際理解教育の授業では、伝統的な遊びを紹介し合う活動を行い、6年生の英語の授業では、日本と各国の絶滅危惧種を紹介し合い、地球でクラス生き物のつながりについて学びました。



以上のように、本センターは、本学の国際交流の基本方針の一端を担い、留学生に対して日本語・日本文化教育を提供するだけでなく、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を学内外へ発信しています。次年度も引き続き、留学生プログラムの充実に努めるとともに、日本の学生と留学生との共修や、附属学校園、地域等との連携につとめていきます。そして、留学生教育と連動させながら、グローバルな視点に立った教員養成に資する活動を行っていく所存です。

3. 日本語・日本文化研修留学生 / 協定校交換留学生 / 教員研修留学生プログラム

● 2022 年度受入 日本語・日本文化研修留学生・交換留学生

*一部 2023 年度 4 月受入

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	4 名	ブラジル連邦共和国、インド、ウクライナ
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	2 名	大韓民国、フランス共和国、アメリカ合衆国、 ドイツ連邦共和国、中華人民共和国、
国際交流協定に基づく特別聴講学生	13 名	

修了レポートタイトル一覧

「日本における LGBT—社会的受容、権利保護、結婚制度の観点から—」
「映画の中に描かれる高校生活に関する中日比較—中日の若者を対象とした調査をもとに—」
「渡り鳥—外国にルーツを持つ子どもとしての経験を通して見えてくる課題—」
「弁財天」
“Exploring the Dynamics of Friendship
-A Cross-Cultural Analysis of American and Japanese Friendships”
“Global Gaming-A look at cultural influence in gaming from Japan and the West”
「江戸時代後期・明治時代の新宗教の始まりと発展—金光教を中心に—」
「満州国における日本帝国主義—日本帝国主義の発展と日満への影響—」
「明治女性文学に見る嫁姑問題」
「井上靖『孔子』における天命について」
「外国人留学生の就職活動の現状について—関西地域の中国人留学生を中心に—」
「アニメ「クレヨンしんちゃん」が韓国のキダルト世代に与えた文化的な影響」
「日本の大学入試制度が若者にあたえる影響—国公立大学を中心に—」
「大邱方言と東京方言のアクセントの特徴—共通点に注目して—」
「初等教育における災害教育—日本の防災教育に学ぶ—」

● 2022-2024 年度 教員研修留学生

5 名	大韓民国、リベリア共和国、マラウイ共和国、インドネシア共和国
-----	--------------------------------

研究報告書

「音楽アプリを活用した音楽科表現領域の授業指導方法に関する研究—韓国の小学校 5～6 年生を対象として—」
「インプットの観点からの 韓国・日本英語教育についての考察」
“IMPACT STUDIES ON THE IMPROVEMENT OF BIOLOGICAL SCIENCE
EDUCATION FOR LIBERIA'S JUNIOR AND SENIOR SECONDARY SCHOOL SYSTEM.

(A STUDY CONDUCTED AT THE NARA UNIVERSITY OF EDUCATION) “

“THE IMPACT OF LANGUAGE PROFICIENCY ON STUDENTS’

ACADEMIC PERFORMANCE: A CASE OF JAPAN”

“Lesson Study Community as Teacher Professional Development: Opportunities and Challenges”

4. 短期派遣留学プログラム

2023年度より「NaraISC 合同研修」として短期留学やオンラインプログラムを実施し、奈良教育大学では以下の短期研修を企画、実施しました。

- ・夏季合同研修（オーストラリア） 2023年8月26日（土）～9月4日（月）
- ・カンボジア・スタディツアー 2024年3月7日（木）～3月16日（土）
- ・香港教育大学研修 2024年3月13日（水）～3月17日（日）

夏季合同研修（オーストラリア）

奈良教育大の学生10名および奈良女子大学の学生19名が、オーストラリア ケアンズ市でホームステイをしながらサン・パシフィック・カレッジで語学研修を行いながら、植物園・動物園見学などの校内プログラム、シュノーケル・グラスボートなどのアクティビティを行いました。

奈良教育大学・奈良女子大学 様

海外研修プログラム

オーストラリア(ケアンズ)

日程 2023年8月26(土)～9月4(月) 10日間 参加人数 20名

SPCは、アリスバレーとケアンズにキャンパスがあります。
大都市、メインストリートのシティキャンパス、サンダーバレーの
水、学生寮、スゴい施設を持った広いビーチキャンパス。
「SPCグループ」教育システムを実施、英語学習の目標に、英語
小規模などの周遊と、クラス内では最新のITを取り込み、
スピード感のある授業を提供します。
SPCでは「一人海外」と「限られた時間」という留学生の特別な環境を体験し、効果的
な英語教育を体験します。

■住所: 55-69 Pineland Road, Keenings Beach, Queensland 4879, Australia
■在学を促す: 150名以上の学生
■寮: 200ベッドの寮
■設備: Free WiFi, カフェテリア / 800設備、インフラ設備、車庫、学生寮、バスケット
コート、テニスコート、プール、ジム、ゴルフ練習場、ゼリヤード、音楽室、サウナ、
ボウリング、ゲーム室(英語学習環境あり)

SPCケアンズ: 校内

アクティビティ (SPCケアンズ)

SPCケアンズでの授業(一例)

時間	科目	授業
8:30am	英語	授業
9:30am	英語	授業
10:30am	英語	授業
11:30am	英語	授業
12:00pm	英語	授業
2:00pm	英語	授業
3:00pm	英語	授業
4:30pm	アクティビティ	授業
5:30pm	英語	授業

学校内申込締め切り 6月2日(金)
申込は各大学にてご確認ください。



春季合同研修（香港）（文責 劉 麟玉・鈴木啓資）

2024年3月13～17日にかけて、奈良国立大学機構（奈良教育大学と奈良女子大学）は香港教育大学と国際交流を行いました。

4日間という短い期間でしたが、香港教育大学の先生方から多大なるご協力をいただき、これ以上はないというほど濃密なスケジュールとなり、参加した学生たちは多くの学びを得ることができました。

3月13日

早朝に関西国際空港に集合し、少し眠そうな顔をした学生もいる中、全員が無事に揃い出発しました。本機構の学生たちは、これから目の当たりにする世界に心を躍らせているようにも感じられました。



現地時間午後には香港国際空港に到着し、宿泊先のホテルに向かうためにバスで香港の市街地へ向かいました。移動中にはバスの車内から様々な景色を見ることができ、学生たちは日本との違いを体感していたようでした。

今回の交流では、2日目以降には自由行動の時間が十分には取れなかったため、ホテルにチェックインした後は香港の街を歩き、ヴィクトリア・ハーバー周辺を散策しました。



3月14日

2日目は8時30分～19時頃まで香港教育大学で過ごし、レクチャーやワークショップなどを受けました。

まず8時30分からは、香港教育大学文理学部文化と創意芸術学科の松信浩二准教授に香港教育大学について説明をしていただきました。どのような教育体制なのか、そして香港において教員の待遇がどのようなものなのかを学び、日本と香港の様々な違いを感じました。

それに続いて行われたワークショップは、尺八を主に取り扱ったものでした。松信先生のこれまでの研究成果を聞かせていただきましたが、その中でご紹介いただいた、尺八の学習を容易にするための「尺八用マウスピース」が印象的でした。尺八はなかなか音が出ず、「首振り3年」(尺八を吹く際に、首を振ってちょうどよい音を出したり、音を操ることができたりするようになるまで

に3年程度かかるという意味)と言われるほど難しいのですが、その「首振り」を、3分でできるようにすることを目指して開発したものが「尺八用マウスピース」とのことです。松信先生から説明を受けたのち、実際に尺八用マウスピースを穴の開いた塩化ビニル管に装着して吹いてみると、学生たちはあっという間に音を出せるようになりました。このワークショップでは、尺八の教育楽器としての可能性を垣間見ることができたように思います。



その後、Western Norway University of Applied Sciences の教授であり、香港教育大学の名誉教授である David Hebert 先生から、ノルウェーや先生の活動についての簡単なワークショップを受け、香港教育大学の Leung Chi-hin 助教による STEAM 教育についてのワークショップに臨みました。

Leung Chi-hin 先生のワークショップは、Makey Makey というキットを用いて、様々なものを楽器にしてしまうというものでした。パソコンを用いる必要がありますが、電気を通すものであればなんでも楽器にできてしまうということで、当日はバナナや鉛筆（黒鉛）で書いた絵を用いて様々な音を鳴らしました。STEAM 教育において重要視されていることの1つである、クリエイティブな発想（創造性）につながる、非常に興味深いワークショップでした。



午後は奈良教育大学と香港教育大学の教員によるレクチャーが行われ、香港教育大学の学生たちとともに学びました。

専任講師?でピアニストの Philbert Li 先生のホストにより、奈良教育大学の劉麟玉教員、鈴木啓資教員、そして香港教育大学の Leung Chi-hin 先生の順にレクチャーが進められ、その内容は各先生の専門分野に特化したものとなりました。劉先生は台湾の作曲家である江文也の生涯や楽曲について、鈴木先生はエルンスト・フォン・ドホナーニを中心としたハンガリーの作曲家や楽曲に

ついて、そして Leung Chi-hin 先生は中国の現代の作曲家についてレクチャーをされました。学生たちは各教員のレクチャーを熱心に聞き、普段なかなか聞くことができない専門的な内容から学びを得ているように感じられました。



短い休憩をはさんだのち、Leung Chi-hin 先生による e-Orch（電子管弦楽団）についてのワークショップが行われました。Leung 先生はタブレットとスピーカーを用意し、自ら開発したアプリを使って合奏の授業を行いました。このアプリにはさまざまな楽器の音が内蔵されており、学生たちは Leung 先生が独自に開発したマス譜を読みながら演奏しました。学生たちは五線譜に慣れているため、かえってマス譜の読み方に苦戦しましたが、五線譜が苦手な児童にとっては読みやすいツールであることを学びました。管弦楽器の学習経験がない児童でも、e-Orch を通じて管弦楽の合奏を楽しむことができるため、この e-Orch をきっかけに本物の楽器を学ぶ意欲が芽生えることが、このプログラムを開発した Leung 先生の目指すものであるとのことでした。



この日の最後のスケジュールは、翌日の交流コンサートに向けての練習でした。奈良教育大学音楽教育専修の学生たちは、それぞれの専門を活かした演奏を行うことになっていたため、各自練習をしたり、教員から指導を受けたりしていました。また交流コンサートには合唱もあり、本機構の学生たちによる合唱だけでなく、香港教育大学の学生たちとの合唱もありましたので、劉先生の指揮、鈴木先生のピアノで練習をし、翌日のコンサートに備えました。

3月15日

3日目の昼過ぎに国際交流演奏会が開催されました。その準備のため、午前中には教員と学生たちが順番にリハーサルを行いました。入念なりハーサルののち昼休憩をはさみ、本番は午後1時

半頃に開始されました。今回の交流演奏会では、まず香港教育大学の学生による中国音楽の合奏が披露され、続いて奈良教育大学の学生による二重唱、八手連弾、四手連弾が行われました。その後、鈴木准教授の独奏と、Philbert Li 先生との連弾が演奏されました。さらに、香港教育大学の学生による合唱が続きました。最後のステージでは、両大学の学生による合唱が披露され、演奏会の幕を閉じました。両大学の教員と学生ともに、充実した音楽交流の時間を過ごせたことと思います。



演奏会後、香港教育大学を後にし、2021 年に開館した美術館（原語）「M+」を見学しました。ちょうど日本人アーティスト豊嶋（アイオー）の企画展「豊嶋：虹虹虹」が開催されており、一行は現代芸術に触れる貴重な時間を過ごしました。この日のスケジュールはこれで終了となり、様々な芸術に触れた 1 日となりました。



3月16日

今回の旅の最終日は、午前中に軒尼詩道官立小学校を見学しました。同校では、毎週土曜日に香港教育大学の卒業生である Leung 先生の教え子が e-Orch の活動を行い、児童たちに音楽づくりや合奏の時間を提供しています。音楽づくりの時間には、児童たちがアプリに内蔵されたさまざまな音源を用い、自分たちで考えた物語に合わせてシーンごとに効果音を表現していました。児童たちの創造性と生き生きとした表情が非常に印象的でした。



軒尼詩道官立小学校の見学をもってすべての国際交流活動を終了しました。4日間とは思えないほど、多くの活動を行うことができ、充実した旅でした。

国際戦略センター (Nara ISC) 奈良教育大学 2023 年度活動報告 カンボジア・スタディツアー (海外短期研修) 実施報告

国際戦略センター 奈良教育大学

文責：南雲勇多

目 次

1. 概要	24
2. 事前・事後の研修およびリフレクション	25
(1) 事前研修	25
(2) スタディツアー中のリフレクション	26
(3) 事後研修と課題レポート	26
3. 行程・内容	27
4. おわりに	36
5. 謝辞	37

1. 概要

奈良教育大学と奈良女子大学の希望する学生を対象として、東南アジアのカンボジアへのスタディツアーを実施しました。カンボジアの都市や農村といった様々な地域、また NGO や教育の現場、観光地の世界遺産などを訪ね、異文化体験や社会課題・歴史にふれることを通し、学びを広げたり深めたりする機会を模索してきました。

実施期間は 2024 年 3 月 7 日（木）から 3 月 16 日（土）までの最終日の機内泊を含む 8 泊 10 日間です。奈良教育大学から 4 名、奈良女子大学から 5 名の計 9 名と引率教員 1 名の合計 10 名で渡航しました。

■ 参加者

参加者は学年や専攻する領域・テーマ・内容も異なり、また、もともとの出身地やこれまでのライフストーリーも、そして卒業後に描く進路も（これから描くという場合も含めて）多様な背景をもっています。そして、今回のスタディツアーへ参加する動機や志望理由もそれぞれ異なっていました。また、初の海外渡航というメンバーを含め、参加者の多くにとっては初めての東南アジアであり、カンボジアへ訪れるのは全員が共通してはじめてという中でのスタディツアーでした。

■ 趣旨・テーマ

実施にあたり、募集の段階から事前にテーマとして〈「旅」を通し、学びを広げる・深める〉こと、そしてそのために次のような点を事前に共有しました。

第一に「異文化を体験する」ことです。日本と同じアジアとしての似た文化を、一方で、異文化としての東南アジアやカンボジアをフィールドワークを通して体験したり、また、カンボジア国内の地域間の移動や多様な現場を訪ねることでカンボジア内の多文化・異文化を感じることをあげました。

第二は「現場を訪れ、交流する」ことです。カンボジアの首都や農村などを訪ねたり、多くの国際協力に関する活動が取り組まれ、「NGO 大国」とも呼ばれてきたカンボジアの市民活動の団体や教育の現場を訪ねてみることです。また、その中で農村の子どもやおとな、現場のスタッフとの交流の機会を持つことをあげました。

第三は「社会課題にふれ、考える」ことです。これまでカンボジアが“開発途上国”とされてきた中で抱えてきた課題、一方で経済成長や開発が急激に進んでいる様子から現代の「アジアの変化」にふれることです。また、カンボジアの歴史、(国内の移動を通して体感する)都市と地方の格差、遺跡・遺産と観光の関係などにふれながら、社会課題をともに考えることをあげました。

ただし、上記のものは参加者それぞれの学びとそのねらいをまとめる（ある意味では方向性を示す）ためのものではありません。参加者一人ひとりの個性や動機にあわせて、それぞれの趣旨もあってしかるべきですし、また、事前に想定していなかった／しえなかった経験や気づきによる学びも〈「旅」を通した学び〉〈現場での学び〉〈協働的な学び〉の醍醐味でもあるため、上にあげた趣旨はあくまで参考ということにしました。むしろスタディツアーでの学びを、予め設定したものをたどる学びや事前学習の内容の確認作業のような学びとするのではなく、より具体的に学びの質

をみれば、ともに旅をしながら「その時・その場」の経験と感情をふまえて「このメンバー」の間でつむがれるものであり、旅の足跡・プロセスとして残るのが学びであるということを大事にするようつとめました。

■ 主な地域

カンボジアでフィールドワーク先の地域となったのは主に3つで、それぞれの地域で次のような内容を実施しました。（具体的には後述する行程・内容をご参照ください。）

1つ目の地域はスヴァイリエン州およびその中でも中心地から離れたタナオ村です。「地方」の町とされる同地域でのフィールドワークや、ベトナムとの国境に近い「村の学校」や地域のチャイルドセンターなどを訪問・見学して村の子どもたちやおとなの方々との交流を行いました。

2つ目の地域はプノンペンです。カンボジアの首都である市内を歩きながらのフィールドワーク、また国際協力・人権 NGO の事務所訪問や、実際に活動している現場を訪問して見学したり、その地域の人たちとの交流の時間をもったりしました。

そして3つ目の地域がユネスコの世界遺産（文化遺産）のアンコール・ワットなどの遺跡群があることで有名なシェムリアップです。同遺跡群へ訪れて歩いてまわる他、同地域のオールド・マーケットでのフィールドワークや地雷博物館などの訪問・見学なども行いました。



2. 事前・事後の研修およびリフレクション

(1) 事前研修

カンボジアへの渡航準備や現地での滞在と移動およびリスクマネジメント、そして現地でのワークなどの準備のために、事前研修を下記の通り実施しました。

事前研修① 2月16日（金）15:00～17:00 対面開催※

事前研修② 3月4日（月）13:00～16:00 対面開催

事前研修③ 3月6日（水）10:45～12:00 オンライン開催（最終確認）

（※参加できなかった学生には個別に研修のフォローアップも実施しました。）

それぞれの事前研修では、まず渡航前に確認しておくべき情報や現地の基礎情報の共有と確認をしました。

加えて、スタディーツアーを通して異文化の地域、不慣れな環境で、そして集団行動を、それも今回はじめて出会う人同士がほとんどのなかで行動をともにすることになるため、出発前にお互いのコミュニケーションとチームビルディングをはかるようにしました。主にはワークショップを通して①参加者同士の自己紹介を行ったり、②宿泊や移動を含めてグループで過ごす際にお互い気を付

け合いたい共通したグラウンドルールづくりをしたり、③それぞれ自分の（誤解されがちな）個性や苦手なことなど、予め知っておいてほしい「私のトリセツ」を共有することで参加へ向けて安心感をお互いで培うプロセスづくりなども行いました。



また、上記の日程に加え、参加者は各自が分担してスヴァイリエンの小学校でのパフォーマンスを考えたり、そのための買い出しなどをすすめ、準備を整えていきました。

(2) スタディツアー中のリフレクション

スタディツアーのあいだは、「その時・その場」のそれぞれの学びや気づき、葛藤などを言語化したり、共有したり、さらに深めたりしていくために、主に2つのかたちでリフレクションの機会を設定しました。

① 日々の個人のリフレクション

個人によるリフレクションは一日ごとに記述式で行われ、オンラインで提出するかたちで行われました。時には、疲れ切って夜に取り組むことが難しく、翌日以降に持ち越されることもありましたが、個々の日々の記録と学びの足跡として残されていきました。

② グループでのリフレクション

グループによるリフレクションはプログラムとしてそのための時間が設けられ、ワークショップ形式をとったり、ワークシートを使用したりして実施されました。

ただし、予め設定されたリフレクションの機会だけでなく、例えば食事をしながら、また移動のバスの中で、そしてフィールドワークで歩きながら、出来事のリアルタイムやその直後などで、インフォーマルにリフレクションの流れが自ずとうまれ、様々な意見交換が起きることも多々ありました。

加えて、上記はあくまで言語化したもの（できるもの）、またその言語化のプロセスとしてのリフレクションの機会を提示していますが、言葉として発せられない／整っていない様々な想いや考えが個々の中にある様子も、それぞれの言動や振る舞いから随所で垣間見られたことも付け加えておきます。

(3) 事後研修と課題レポート

帰国後、事後研修を3月18日(月)10:00～12:00に対面で開催しました。カンボジアの地を離れ、日本に戻ってから改めてふりかえるスタディツアーでの学びについて、お互いに共有するリフレクションの時間が設けられました。

また、同様に帰国後、課題レポートに取り組む機会が持たれました。設定された課題は「カンボジア・スタディツアーを通して、それぞれが経験した学びや気づき、問いや葛藤などから、または

それらの重なりや広がりの中から、任意にテーマ／課題を設定し」考察を論述するといったようなものです。

3. 行程・内容

初日：3月7日（木） 朝はやく関西国際空港に集合し、各手続きをすまして搭乗、出発しました。一度ベトナムのホーチミンで乗り継ぎをし、カンボジアの首都・プノンペンへと移動しました。そして夕方 17 時前にプノンペン国際空港に到着、入国手続きを終えて空港の外へ。



東南アジアの気候の熱気を感じ、空港前にあらわれたカンボジアの光景を目の当たりにしながら、移動するためのバスに乗り込みました。そして、宿泊先となるホテルまでの移動中、窓の外に広がるはじめてのカンボジア、はじめての東南アジア／海外の様子に目を向けたり、気づいたことが自然と声に出て交わされたりする時間を過ごしました。特に、道路を行きかうバイクの数、トゥクトゥクが走っている風景、そしてそれらが行き来する速さなど、日本とは異なる交通事情などにも目が引かれました。また、道端にひろがる商店や露店、そこで商売や買い物をする人々の様子、一方で思っていた以上に近代化した高層ビルが点在していることへの驚きなどの声があがりました。

ホテルに到着後は近隣のレストランで食事をしたり、近くの現地のコンビニへ行き、カンボジアのお店にならぶ商品を見てみたりしながら、翌日へ向けて準備をしました。

2日目：3月8日（金） ワーク本番の初日となるこの日は朝はやくに出発し、まず首都・プノンペンからスヴァイリエン州（Svay Rieng）へ陸路・バスで移動しました。スヴァイリエンはカンボジアの東部、特に南東部にあたり、ベトナムとの国境に接している地域になります。いわゆるカンボジアの「地方」にあたり、プノンペンの都市部とはその風景も一変します。

都市部から「地方」へそんな風景の変化や人や物の移動の様子などを感じつつ、車内ではクメール語（カンボジア語）のあいさつの練習やカンボジア基礎情報のおさらい、訪問先での進め方についての打ち合わせなどを行いました。途中、バスを降りて道路沿いの商店や住居の見学など、歩いて散策などを行いました。屋台に置かれた昆虫類の焼き物や揚げ物などにも驚きや興味が向けられていました。

スヴァイリエンの市街地に到着後、そこからバベット（Bavet City）へ移動し、さらに郊外に位置するチャントリア郡のプラサット小学校（Prasat Primary School）を訪問しました。この小

学校は、人の集住地域から離れたところに点在して暮らす子どもたちが通えるようにするために建てられた分校です。コンクリート道路をはずれ、“カンボジアの原風景の一つ”とされている赤土の台地にひかれた道を車で走り、訪ねました。

小学校では多くの子どもたちが笑顔で迎えてくれました。分校ということで設立当初は充分であったひと教室しかない平屋の校舎も、今では子どもの数が増え（※主には、子どもの人口が増えたこと以上に、学校に通う子どもの数が増えたことによる）、一方で教員の数が増えなかったために、一日を前半と後半に分けて二部制でまわしています。それでも足りないために、2～3人掛けの椅子にそれ以上の子どもが座ることも珍しくないようです。

まずは教室の中に入って自己紹介を、習いたてのクメール語も使いながら行いました。次に、参加メンバーの一人が準備してきた写真を用いて、日本の四季や様々な地域・文化についての紹介を行いました。そして、簡単な質疑応答などをしつつ、日本の歌を紹介して子どもたちとみんなで歌ったりしました。その後は教室から飛び出て校庭に。日本でもカンボジアでも子どもとの遊びは言葉を介す必要がありません。無邪気な笑顔とエネルギーが爆発する子どもたちにこちらの緊張感をほぐしてもらいながら、一緒に汗だく、泥だらけになって自由に遊びまわりました。子どもたちや先生方に訪問を受け入れてもらい、学ぶ意欲にあふれた子どもの熱、元気な子どもの明るさに照らされ、素敵な時間を過ごした感謝とともに学校を離れました。



3日目：3月9日（土） 午前中はスヴァイリエンのタナオ村（Thnot Commune）でのフィールドワークです。スヴァイリエンの市街地からタナオ村へ移動し、まずはポーマオン小学校（PorMourn Primary School）を訪れました。前日のプラサット小学校と同様、自己紹介や日本文化紹介、みんなで歌ったりした後は授業見学をさせていただきました。日本と異なる教室の色合いや設備、教科書の文字や鉛筆の持ち方などもみられつつ、教師が前に立ち、子どもがそれを聞きながらノートをとったり、質問に答えたりする光景に親近感を持つとの声などもあがりました。その後は校庭に出て、直射日光の下、子どものエネルギーに引っ張られながら一緒に遊び、コミュニケーションを深めることができました。



次に、タナオ村の民家の軒先で「青空教室」のように地域の子どもたちへ読み書き・計算の教室をひらいている実践の現場を訪ねました。その自主教室をボランティアでひらいているのは大学生と同世代のセイラーさんです。小さな子どもたちが集まり、笑いあったりふざけ合ったりしながらも、熱心に声を張ってセイラーさんの教えている内容を復唱している様子も印象的でした。



その後はタナオ村の地域委員をしているサーロン（Sar Lon）さんのお宅を訪問しました。お話を聞いたり、ご自宅のまわりの家畜とともに生活している様子をうかがいながら、ロンさんが作ってくださった昼食をみんなで頂きました。

午後はスヴァイリエンの町へもどり、カンボジアの日常で用いられる多くの食材や料理、日用品などのお店が集まる市場の中を見てまわったり、町中やリバーサイドなどを歩いてまわったりしながら、異文化をめぐるフィールドワークを行いました。



4日目：3月10日（日） 前日同様、午前中はタナオ村を訪れました。日本の国際協力 NGO の支援で建てられた地域の子どもが集まるコミュニティセンターに行きました。（※センターといっても日本でイメージする「ビル」ではなく、平屋の建物）子どもたちが安心して同世代と集まったり話せたりする「居場所」的な場として、また人権教育や地域づくりのための活動の拠点として機能してきて同センターや、併設された図書ルームを見学しました。



そして、そのセンターのスペースを利用して、このスタディツアーの参加者同士でスヴァイリエンでの体験やフィールドワークについて、リフレクションのためのワークショップを実施しました。

昼食の後はセンター付近のパゴダ（お寺）とその中を見学し、周辺を散策しました。ちょうどその日はお寺の敷地内の建物で、地域の仏教行事が開かれており、地域の人が集まっていました。そこに招かれ、一部参加させてもらい、地域の人たちとコミュニケーションをはかる機会を持つこともできました。



その後、タナオ村を離れ、首都・プノンペンへ戻る道につきました。夕方に到着後は、プノンペンのイオンモール（※日本のイオンが海外進出してつくったもの）へ行き、モール内を各自歩いてみてまわりました。プノンペンの現代的な（日本と似ている）ショッピングモールの雰囲気や、そこで売られている商品やその中を行きかう人々の様子をみながら、それまでとは異なるカンボジアの光景に出会い観察するフィールドワークの機会となりました。

5日目：3月11日（月） 5日目からはフィールドワークの中心がプノンペン及び郊外になります。朝にはプノンペン市内の市場を歩き、その後、この日のメインとなるローカル NGO である Building and Wood Workers Trade Union Federation of Cambodia（BWTUC）の事務所を訪問しました。そこでスタッフの方から活動内容についてレクチャーを受けたり、質疑応答の時間を持ちました。



午後は郊外の BWTUC の活動現場を訪れ、従業員が過酷な状況で低賃金・長期労働を課せられているレンガ工場の見学をしました。灼熱の中、重労働が強いられている現場をまわりながら、カンボジアが現在経験している経済成長の「裏」の社会課題について学びました。また、そこで働く労働者の集住地区（小規模のスラム地区）へ行き、住民の方々とお会いして様子をみたりお話を聞いたりしました。



プノンペンの中心地に戻った後は、メコン川のリバーサイドへ移動してその周辺を歩きました。現地の方々にとって重要な建物や機関もあり、それらは観光客にも人気の名所となっていたり、リバーサイドが憩いの場になっています。だからこそそうした地区が（可視化されていないことも含めて）子どもの権利侵害が起きる温床の場となっていることや、そで行われている人権 NGO の活動の一端などについてふれました。

そのまま、地域の人たちが生活の中で利用している（観光客向けのものではない）フェリーでメコン川を渡り、通称「ベトナム村」を訪れました。様々な理由でベトナムから移住し、集住するようになった地域を歩きながら、カンボジアの中にあるベトナム文化、さらにはベトナム文化の中にみる中華文化や、地域にあるキリスト教の教会などを見ながら、多様な文化が混在している地域の様相などを感じる機会となりました。

ホテルまでの帰路はグループに分かれ、カンボジア名物の一つ、トゥクトゥクで戻りました。

6日目：3月12日（火） 午前中は日本出身の方がカンボジアに移り住み、そこで起こした社会的企業を訪問しました。創業者の方からお話を聞いたり、お店の様子や店頭に並んだ商品を見たり買い物をしたりしました。一件目は胡椒の生産と販売を行う Kurata Pepper さんを訪問し、創業した倉田浩伸さんからお話をお聞きしました。二件目はアパレル・ブランドの Sui-Joh の店舗を訪ね、創業者・オーナーの浅野佑介さんからお話をうかがいました。カンボジアという異文化の地域や人に魅かれ、企業し、これまで歩んでこられたそれぞれのお話に耳を傾けながら、日本出身のお二人のまなざしや経験から改めてカンボジアという地域とそれをめぐる魅力や課題などについて教えてもらいました。また、キャリアやライフヒストリーをどう描いていくのかということについて、考えるきっかけとなったメンバーも少なくないようでした。



午後はプノンペン教員養成大学（Phnom Penh Teachers Education College: PTEC）を訪問しました。私たちのグループを歓迎してくれた PTEC の教員や学生とともに、まずは会議室でお互いの自己紹介、次に PTEC の学生によるプレゼンテーションを聞き、そして相互に Q & A の時間をとってコミュニケーションをはかっていきました。その後は PTEC の学生の案内でキャンパスツアーを実施し、学生寮などを含む大学内の施設や教室の様子を歩いて見てまわりました。特に学生同士の交流では、言葉の課題によってスムーズな言語コミュニケーションは難しい中でも、スマートフォンを駆使したり慣れない英語を使いながら、異なる地域の大学生同士、また、中には教員を目指す学生同士として共感しあう話題もあり、貴重な相互交流の機会となりました。



夕方はプノンペンの有名スポットの一つであるセントラル・マーケットへ移動し、それぞれ歩きながらフィールドワークを行いました。特に、8日には「地方」とされるスヴァイリエンの市場を、11日にはプノンペンの住民が普段の生活の中で使っている市場を歩いていたので、観光地化されているセントラル・マーケットとそれらの市場との比較から考える場にもなりました。

その後はフランス植民地時代の名残りでフランス様式の建物などが残る地域を歩きました。そのまま、観光地としても有名な寺院・ワット・プノンの周辺を訪れ、（かなり数は減ってはいるものの、未だに無くならない）子どもへの性的搾取などが起きやすい一帯、とはいえ一見すると普通の道・町の風景にしかみえない場で、人権侵害の問題とその解決のためにアプローチしている NGO などの活動について説明しました。

7日目：3月13日（水） 朝は、都市の環境やゴミ問題、建設問題、人権問題などが周辺一帯で混在している一方で、食材が多く集まる市場としてにぎわうバントラバックプラザ周辺を訪れまし

た。地域を歩いてまわりながら、プノンペンの社会問題の一端を見つつ、それらについて説明しました。

その後、トゥールスレン虐殺博物館を訪問、見学しました。言葉を失うような、心が沈むような歴史的事実を目の当たりにしながら、カンボジアの歴史について、それもそれほど“昔”の話ではない「現代の歴史」について学びました。同時に、人権侵害や暴力と国家や政治などについて考える機会にもつながりました。

午後はプノンペンから北部に位置するシェムリアップへ、プロペラ機の国際線を利用した移動です。空港での待ち時間や機内での空き時間を利用し、ワークシートを使ったリフレクションのワークに取り組みました。

シェムリアップの空港に到着後、郊外から中心街へ移動。その移動の一部を利用して、バスの車内からみえる風景を教材に、シェムリアップの農業や、世界遺産と都市（空港）計画事情、インフラやODA（日本の政府開発援助）などについて、同乗してもらったガイドさんからお話を聞きました。

ホテルにチェックイン後、オールド・マーケットを歩きました。異文化地域の市場を見てまわるという意味に加え、アンコール・ワットで観光地となっているシェムリアップの中心市場とそこを訪れる観光客の様子にふれたことから、都市と観光について、また自分たちの「異文化の観方」「異文化との出会い方」などについても話す機会になりました。

8日目：3月14日（木） アンコール・ワット遺跡群に行き、アンコール・ワット、タ・プローム、アンコール・トム（バイヨン）をまわりました。景観、宗教建築や装飾に込められた意味、それらに残された傷跡などからみる宗教文化の変遷や覇権と支配の歴史、また遺跡保存や観光と自然環境とのつながりなどについて学んだり考えたりしながら歩きました。

夜は伝統衣装を身にまとい、踊る伝統舞踊のアプサラダンスを觀賞しながら夕食を取りました。





9日目：3月15日（金） まずアキラ地雷博物館を訪問、見学しました。地雷の非人道性やその設置を権力に強いられた過酷な背景、また、直接の被害者にとっての身体的・精神的苦痛や、どこでその爆破を被るか分からないことによる地域の生活や経済活動などへの影響など、地雷というものについて、また兵器というものについての恐ろしさを学びました。（※未だに日本では「カンボジア＝地雷＝危ない」というステレオタイプが強く残っているため偏見がもたれる場面もみられますが、実際に今の現地では多くの地域で地雷への警戒が要らなくなりつつあります。特に、海外からカンボジアを訪れる人たちが歩くような場所ではその必要が現在はなくなりました。一方、北西部のタイ国境沿いの一部などでは今も国際協力を得ながら不発弾の除去活動が続いています。）



次に、キリングフィールドを訪問しました。ポル・ポト派によるクメール・ルージュ政権の扇動により、大量虐殺が行われた地で、カンボジアが経験した悲惨な歴史を学びました。13日に訪れたトゥールスレン虐殺博物館同様、人権と暴力、政治と市民など多くのことを考えたり、また感じたりさせられる機会となりました。

その後、昼食を取りながらシェムリアップでの内容についてブリーフィングを行い、夕方の出発まではホテル周辺での自由行動や帰国のための準備などを行いました。そして夕方、シェムリアップ・アンコール国際空港にてチェックインをして出国。夜にベトナム・ハノイにてトランジットをすませ、機内泊を経て翌10日目の3月16日（土）に関西国際空港へ到着、解散となりました。

それぞれをつなげる・つながることによる学び 上記のように各日程のそれぞれの内容において様々な学びが生まれ、実り多き時間を過ごすことができました。そして、そうしたカンボジア「での」学び、またカンボジア「からの」学びは、「各日程のそれぞれの内容において」のみならず、異なる地域や社会課題、その活動現場などを〈つなげること〉、また（いつの間にか）〈つながること〉による学びも多くありました。むしろ、そのことによってさらなる“カンボジア理解”へ、さらには「社会とその課題を考える」ことについて、そしてそうした国際理解・異文化理解や社会とその課題などを観る際の「自分たちのまなざし」を考え（直し）てみることにつながりました。

また、カンボジアの異なる地域や現場、社会課題などを観ていくことで、カンボジア内の多様性への気づきとその理解度を上げていくことにもつながりました。それらは同時に、ステレオタイプをくずすことにも、一方で、ステレオタイプをくずす際に別のステレオタイプを用いることを問うことにもなりました。例えば、「カンボジア＝発展途上国＝貧しい・怖い」というステレオタイプに対し、「今のカンボジアは発展している・経済成長と活気がある」という異なる面から問い直すこ

とも、どちらも一面的であり、本来は社会に陰陽ともに存在することへの気づきと、それにも関わらず片面ばかりが強調されるメディアの表象や議論の焦点化の仕方を疑うことにつながりました。

4. おわりに

海外経験や異文化体験は人生の一つの節目となる可能性も少なくありません。特に学生にとっては、それもコロナウイルス感染症の影響で海外渡航が難しかった期間を高校生や大学生のあいだに経験した世代にとっては、海外研修での渡航が「はじめての海外」「はじめてのその国・その地域」となることも多く、人生の一度きりしかない「はじめて」を体験する機会となります。したがって、自身にとって未知となる場へ踏み出すこうした一歩はそれ自体が大きな意義を持つと考えます。

また、そうした貴重な機会だからこそ、「はじめて」の海外・国・地域への「出会い方」、特にそれらへの「入り方」や現地での「経験の仕方」は重要になります。「一歩」の踏み出し方や異文化体験の意義は、単に海外に行ったかどうかではなく、現地でどのような経験をどのようにしたのかによって、その学びのあり様も異なってきます。そうした観点から、今回、海外研修を「スタディツアー」というかたちで、パッケージ化されたマストツーリズムにみられる観光のかたちを（今回の条件の範囲で）極力さけるようにし、なおかつ予め設定した（学習）課題・テーマをたどるのではなく現地で生起してくるそれぞれの学びをつなぐように努めるかたちで組みました。

“世界の知らない現実”について、そしてその明暗の両面に出会い、おどろきやゆらぎを抱いたり、また、それまでそうした“現実”を知らなかった自分自身と出会い直したりする姿や声もうかがえました。また、“答え”や“正解”がなく、むしろ既存のそれらをくずされながら（アンラーンしながら）いい意味で右往左往したりする様子もみられました。一方で(様々な媒体を通して)“知っていた現実”に直接出会うことで得る気づきや肌感覚をもって改めて学ぶことでそれらが深まったり、問い直されてりしている言動もありました。

現地では様々な場所の風景、人、社会課題などにたくさん出会い、見聞きし、歩きました。五感を通して感じる・体験することも多くありました。それらを通し、感動したり沈んだりしながら、また考え込んだり、あるいは考えられなくなったりしながらも、一人ひとりがそれぞれなりの学びのプロセスを歩んでいる様子が印象的でした。そして約10日間という、ある意味では短期間ともいえるそのプロセスの中であっても、一人ひとりが学び変化している様子もまたとても魅力的でした。また、ここでは紙幅の関係ですべてを紹介することはできませんが、それぞれのリフレクションの機会、帰国後の感想文、課題レポートなどからも多くの学び、示唆に富む考察などが見られました。

こうした経験が、まず何よりも参加してくれた学生とその生活や人生にとって、またこれからかわっていく現場や周囲にとって、他方では学生の訪問を快く受け入れてくれたり楽しんでくれた現地の方々にとってもまた、多少なりとも、あるいは間接的であっても、良い価値として創造されていく機会へつながっていくことを切に願っています。

5. 謝辞

今回、「行程・内容」にも記載があるように、カンボジアの様々な地域・多様な現場の方々から、訪問にあたっての調整や受け入れに、そして現地でのワークの充実のために、多くのご協力・ご尽力を頂きました。

また、現地のワークにおいてガイドのポーキー（Powkhy）さん、通訳をしてくださったラタナ（Ratana Chhay）さん、バスのドライバーのマップさんなどにご貢献頂きました。

加えて、本スタディツアーの企画と実施に際し、移動や二都市の宿泊先などのご手配、渡航準備のサポートなどに株式会社ピース・イン・ツアーさん（担当者：小山耕太さん）にご協力頂きました。

その他、学内の関係者を含む多くの方々に支えられて本スタディツアーを実施・運営することができました。

何より、はじめての企画でもあり不慣れなこともある中、参加してくれた学生一人ひとりの参加とそれぞれの個性、理解と協力のおかげで「学びの旅」がたつむがれました。

改めてすべての方に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

5. ホームページ記事より抜粋

留学生の文化紹介イベント「留学生と友達になろうキャンペーン」を行いました (2023年5月10日)

2023年5月10日(水) 毎年恒例の留学生の文化紹介イベント「留学生と友達になろう！キャンペーン」を開催しました！

このイベントは、留学生と日本人学生が協力して、楽しく文化を学べるように自分たちで計画を立てて準備したものです。

今年は、アフリカ、アメリカ、インド、中国、ドイツ、フランスの6つの国／地域からの留学生が自国の文化を紹介しました。また国際交流室や留学生サポーター、なっきょん's Caféなどを広く知っていただけるようチラシを配布しました。



各ブースではそれぞれ趣向を凝らしたゲーム紹介やクイズを出題し、正解者には手作りお菓子をプレゼントしました。日本では珍しいスポーツを紹介するブースもありました。たくさんの学生や先生方、附属幼稚園の園児さんも遊びに来てくれ、イベントは大いに盛り上がりました。イベントの運営に尽力してくれた学生のみなさん、ご協力ありがとうございました。

なっきょん's café を行いました（2023年5月24日、6月9日）

留学生と日本人学生の交流イベント「なっきょん's Café」を行いました。

おしゃべり企画と題し、5月は「文化」について、6月は「夏にやりたいこと」について話しました。全体で話した後は、各自隣り合った学生同士で談話しました。短い時間でしたが充実した交流の時間となりました。



国際戦略センター主催プログラム「田植え体験」を開催しました。 （2023年6月7日）

奈良国立大学機構国際戦略センターの国際交流体験プログラムとして留学生・日本人学生が「田植え体験」をしました。梅雨時期のため心配していたお天気ですが、晴れて過ごしやすい陽気となりました。

まずは本学技術教育講座の箕作和彦准教授による一年を通じた稲の生長についての説明があり、その後田んぼの畦に移動し、一度に植える苗の本数や持ち方、植える時の深さなどのレクチャーを受けました。

裸足になって田んぼに入ると、柔らかい土の感触に皆自然と表情が緩みます。目印の紐に沿って一列植え、終わると紐を三十センチほど後ろにずらしてまた一列植えます。一歩ずつ後ろに下がる動きも、作業が進むにつれて安定していきました。植え終り、綺麗に並んだ苗を見て、全員で達成感を味わいました。

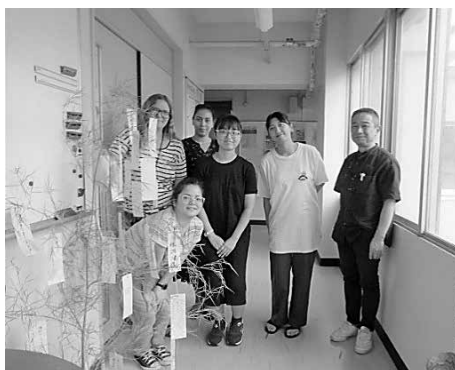


なっきょん's café を行いました (2023 年 7 月 5 日)

留学生と日本人学生の交流イベント「なっきょん's Café」を行いました。

七夕が近いということで、日本人には馴染みの七夕伝説について話した後、各自、短冊に願いごとを書きました。

参加者は短冊を見せ合ったり、それについて質問したりと、和やかな会話を楽しみました。



留学生と国内学生が近江八幡学習旅行に行きました (2023 年 7 月 8 日)

留学生教育プログラムの一環として実施している近江八幡学習旅行に留学生 17 名、国内学生 6 名が参加し、ともに琵琶湖や近江商人の文化を学びました。

学習旅行の課題として、みんなで俳句（川柳）を詠みました。



国立文楽劇場で文楽を観劇しました。(2023 年 7 月 31 日)

留学生教育プログラムの一環として実施している文楽の観劇に留学生 18 名、国内学生 4 名が参加しました。

演目は、夏休み特別講演：第 2 部【名作劇場】妹背山婦女庭訓(いもせやまおんなていきん)です。4 時間近くの公演でしたが、生き生きとした人形の動きに感銘を受けるなど、本物の伝統芸能を体感することができました。



表会および記念品授与式が開かれました。(2023 年 8 月 3 日)

日本語・日本文化研修留学生と交換留学生が約 1 年間のプログラムを終えるにあたって、2023 年 8 月 3 日、本学図書館ラーニングcommonsにおいて終了発表会を行いました。

この留学生プログラムでは、留学生が各自の専門分野や興味に応じてテーマを選び、修了レポートをまとめることが最終課題となっています。発表会では、レポートの内容についてポスター発表を行いました。

発表会後には、プログラムの終了を記念して記念品授与式が開かれ、奈良での留学生生活を振り返りつつ、仲間たちとの別れを惜しみました。

式典では学長から留学生へメッセージが贈られました。



「教師のための多様性理解シリーズ ミニレクチャー 「使ってみよう！やさしい日本語」」を開催しました (2023 年 8 月 24 日)

2023 年 8 月 24 日 16 時 30 分から、「教師のための多様性理解シリーズ ミニレクチャー 「使ってみよう！やさしい日本語」」をハイブリッド（対面、オンライン）にて開催し、「教職実践演習」受講者、および学外の教育関係者を含む計 84 名が参加しました。

本講座では、2023 年 4 月より本学国際戦略センター特任講師として着任された阪上彩子先生に「やさしい日本語」の理念的背景或使用ポイントについてワークショップ形式でお話いただきました。



【参加者の感想】

- ・やさしい日本語を考えるのが意外と難しかった。長い文章を防ぐために一文を短くしようとすると、～で、や、～なので、が使えないので接続詞がなくなって箇条書きの文章のようになるなと感じました。変に感じないやさしい日本語を使えるようになりたいです。
- ・今回の講義を受けて、やさしい日本語の大切さをとても実感することができました。私は小学校

の先生を目指していますが、外国にルーツを持つ方たちだけでなく、小学生の子どもたちに話す際にも、やさしい日本語を心がけることがとても大切だと感じました。

日頃から、文を短く切ってわかりやすい単語に変えて話すことを心がけたいと思いました。やさしい日本語を使うことで、情報が理解しやすくなり、みんなが気持ち良く過ごせる社会にしていきたいと思いました。ありがとうございました！

- ・やさしい日本語は内容やその生まれについては知っていましたが、今後留学生や外国にルーツを持つ生徒の保護者さんとも関わる機会が増えていくであろうことを考え、自分も使えるようになっていくと説明時の言語選択の幅が広がると考え受講しました。

はじめはやさしくするだけなら簡単では？と思っていたことも実際にやさしい日本語に直してみる過程で「この単語は難しすぎる」「この表現は曖昧すぎる」といったように曖昧さと難しさを両方ともをすっきり解決させられるような日本語づくりに苦戦しました。

先生や他の学生の変換も聞き、なるほどと感心させられることも多く苦戦しながらもコツをつかむ第一歩を踏み出せたように感じています。

なお、本講座は、奈良県教育委員会ならびに奈良市教育委員会の後援をいただいて開催されました。

2023 年度前期もいろいろな留学生科目で留学生と国内学生がともに学びました。

例) 日本語 1

留学生と国内学生がいっしょに課題解決型の話し合いをしました。

【参加者の声】

私は留学生に向けた日本語の授業とはどのようなものなのか気になり、授業に参加することを決めました。

実際に参加してみて、留学生の日本語レベルの高さに驚き、また交流する中で他国の文化や暮らしなど様々なことについて知ることができたので、とてもいい機会でした。



(数学教育専修 4 回生 遠藤美咲さん)

例) 現代日本論

日本や日本社会の事象や課題を通じて日本文化のハイブリット性を理解し、さらに自身の言語・文化とアイデンティティとの結びつきについて考えました。

【参加者の声】

留学生ばかりの授業で英語もできないのに参加してもいいのだろうか
と悩んでいるなら是非参加してほし



国内学生のポートレート



留学生のポートレート

いです。

留学生は英語圏から来ていない人の方が多いですし、皆さんが想像されているより勉強熱心で日本語も上手です。

日本人学生として参加しても多くの発見があると思いますのでぜひ参加してみてください。

(社会科教育専修 4 回生 ウッド 秀有悟 ウィリアムさん)

令和5年度 秋季留学生入学式&懇談会が開催されました。(2023年10月4日)

10月4日(水)、令和5年度秋季留学生入学式が本学山田ホールにて開催されました。

大学間交流協定に基づく交換留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生15名への学長からの祝辞、在学生からの歓迎の言葉があり、新入留学生は気持ちを新たに日本での学生生活をスタートさせました。

また、引き続き生協食堂で懇談会を行い、終始和やかな雰囲気の中、親睦を深めることができました。



教員研修留学生が「サマースクール 2023 イン曽爾」に参加しました。(2023年8月30日)

教員研修留学生3名が本学理数教育研究センターによる「サマースクール 2023 イン曽爾」に参加し、自国の文化や言語、中学生の生活について日本語で発表しました。また、本学学生による授業を参観したり、校内で小中学校教員等の関係者や児童生徒と交流したりする中で、日本の学校教育に関する理解も深めました。

【参加した教員研修留学生の感想】

Visiting schools in rural areas of Japan had been one of my greatest wishes, finally I was opportune to visit the Soni Village Junior High School, a school that is situated on top of a mountain and also



surrounded by mountains. The green vegetation gave the school it beautiful view and a quiet space for learning. The one-day trip was a rich and fascinating experience for me as a teacher. Seeing a school that is well structured and furnished, but situated in a village with a low number of students enrolled was something that blew up my mind and it proved to me how important education is in Japan.

We had a nice time talking about our country's Educational system and cultures, the interactive session with the kids and staff at the school was fun and memorable for all of us on the one-day trip.

My experience from this trip couldn't have been possible without my university, much appreciation to my university (Nara University of Education) , and I hope to have another opportunity to visit more schools in rural Japan.

(SANKON JOSEPH TARTY)

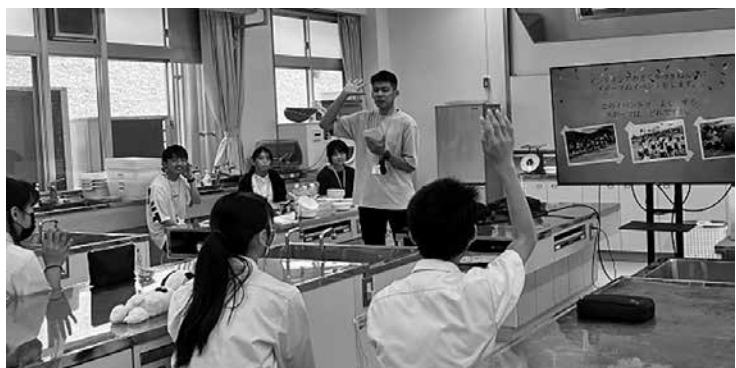
Our Visit to Soni village was characterized by so much fun and exciting events. It was a great encounter to interact with the learners. This experience also accorded me an opportunity to practice my Japanese by making a simple presentation about Africa in general and Malawi in particular. The small quiz that we had ignited interest in the learners to interact with us. After the presentation, we had



an ample time to casually interact with the learners outside the classroom. We interacted in English. I was so amazed at how much the learners wanted to communicate in English even though they had a little vocabulary and they appeared shy. To me, it meant that these learners have a desire and will to learn how to communicate well in English. We took photos depicting the beautiful scenery the school is surrounded with. I appreciate the Nara University of Education staff for organising such a knowledge enhanced trip for us. Thank you!

(MUNLO YASINTA ANTONELLA)

It was a wonderful opportunity to interact with Japanese students and provide insights into my home country. I was delighted to have the chance to discuss various facets of my country with Japanese students,



including our rich cultural events, delicious Indonesian cuisine, and numerous other aspects of our culture. It was a rewarding experience to share the beauty and diversity of Indonesia with an eager audience.

During the event, I was fortunate to observe a mathematics lesson conducted by undergraduate students from Nara University of Education. This experience provided me with valuable insights into different teaching methods and approaches, enriching my understanding of teaching practices in Japan. Two aspects that particularly captivated me were the Lesson Study Practice in Japanese Education and the problem-solving methods used in teaching mathematics.

In addition, I had an amazing chance to explore SONI Village's picturesque landscapes. The environment was hilly, with stunning views that left a lasting impression on me. It was a truly memorable experience that added to the overall richness of my Summer School Program experience.

In conclusion, my participation in the Summer School Program in SONI Village was a valuable experience that allowed me to contribute to education and cultural exchange while also broadening my own horizons. I look forward to more opportunities like this in the future, as they play a significant role in my personal and professional growth.

(ADE KIKI RUSWANDI)

国際交流イベント「稲刈り・さつまいも掘り体験」を開催しました (2023年10月11日)

10月11日(水)、自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「稲刈り・さつまいも掘り体験」を開催しました。

当日は、留学生と日本人学生の計15名が参加し、辻野 亮 教授による日本の米作りの流れについての講義を受けた後、2組に分かれて実際に稲刈り作業を体験しました。

稲刈りを始めると、はじめこそ慣れない手つきで刈っていたものの、要領をつかむと鎌を一回入れただけで一株刈り取れるほどに上達しました。

続いて全員でさつまいも掘りを体験しました。シャベルで畝の外側から土を掘り起こして、その後は手で丁寧に掘っていきます。大きな芋が出てくると、感嘆の声が上がりました。

12月には、同実習園で収穫されたもち米を使っての餅つき体験が予定されています。



なっきょん's café を行いました (2023 年 10 月 13 日)

留学生と日本人学生の交流イベント「なっきょん's Café」を行いました。

10 月に入学した短期留学生のために「Welcome Party!」と題して、自己紹介と、カードゲームを行いました。

はじめは静かだった交流会ですが、次第に打ち解けて、ゲームの後も大学の授業や寮での生活など身近な話題で盛り上がりました。

【なっきょん's Café】

学生が企画運営している国際交流イベントです。

奈良教育大学と奈良女子大学の学生、教職員ならどなたでも気軽に参加いただけます。



2023 年秋学期入学留学生の自己紹介を掲示しました。(2023 年 10 月 20 日)

国際交流留学センター (R5:新館 2 号棟 1 階内) 前の掲示板に、2023 年秋学期入学の交換留学生および日本語日本文化研修留学生の自己紹介を掲示しました。

お時間あるときにぜひ足を運んで見に来てください。



タイ国アサンプション・トンブリ学校の高校生、中学生と交流しました (2023 年 10 月 18 日)

独立行政法人国際交流基金主催のタイアサンプション・トンブリ学校訪日研修内で実施される奈良学習旅行に本学学生が参加しました。

本学図書館内のラーニングコモンズではグループに分かれて、本学学生が自分の高校時代の紹介をした後、タイアサンプション・トンブリ学校生徒によるタイと学校についての発表を聞きました。

後半では東大寺をグループごとに散策し、交流をさらに深めました。



【参加者の感想】

日本人として、というよりも、一人の人間として生徒さんたちに楽しい思い出を作ってほしいと思いながら交流しました。

流行りのものや考え方など、本やネットでは知り得ない情報を知る機会になりました。アサンプション・トンブリ学校の皆さんは真面目で心優しく、最初に感じていた国際交流への不安や緊張が、楽しさになりました。

（教育学専修 西本れんげさん）



タイの生徒との交流ということで、楽しみにしつつも上手く交流できるか不安がありましたが、楽しい時間を過ごすことが出来て本当によかったです。

中学3年生のグループだったので基本は英語での会話でしたが、心配していたコミュニケーションもとることができ、自分に自信がつく経験にもなりました。

より英語の学習を深めたいと活力にもなりました。タイの学生が楽しそうに生き生きとしている姿を見て、海外に行ってみたいと思いました。日本学生とも他専修・他学年との交流ができてよかったです。

（特別支援教育専修 長尾希颯さん）

なっきょん's café を行いました（2023年11月1日）

留学生と日本人学生の交流イベント「なっきょん's Café」を行いました。

まずは自己紹介とカードゲームを行い、お互い打ち解けたら、部屋を暗くして人狼ゲームを行いました。

今回のテーマ「ハロウィンパーティー」にぴったりの内容で交流を深めました。



留学生と国内学生が和歌山県学習旅行に行きました（2023年11月3日）

留学生の研修プログラムの一環として和歌山県学習旅行を実施し、留学生18名、国内学生7名が参加しました。

和歌山城では戦後再建された天守閣を見学し、その歴史を学びました。

また、樹齢1000年を超える樟で有名な藤白神社では、境内を見学し、熊野古道や神仏習合について学びました。

学習旅行の後、参加者でフォトコンテストを行いました。

優勝者は教員研修留学生のサンコン ジョゼフ タティさんです。優勝者にはみかんのプレゼントがありました→



国際交流イベント「若草山ハイキング」を行いました（2023年11月8日）

気持ちの良い秋晴れの中、大学から歩いて山の麓まで行き、若草山南ゲートから入山しました。

ゲートまでは余裕でおしゃべりしていた学生も、想像よりも急な坂道に、息を切らして登りました。

国籍も、学生身分も、年齢も異なるメンバーが集まり、おしゃべりをしながら、汗をかい一緒に坂道を登る体験は、それぞれにとって特別な体験になったことと思います。

最後に皆で見た山頂からの景色も素晴らしいものでした。



留学生科目「日本語コミュニケーション」と専門科目「教育課程特講」が合同授業を行いました（2023年11月8日）

「日本語コミュニケーション」を受講する留学生12名と「教育課程特講」を受講する12名が合同授業に参加しました。

授業では、ペアとなった学生の出身地についてイメージを交換したのち、教育制度や各自の学校での経験について情報交換しました。

【受講者のコメント】

- ・小学校の様子を中心に話しました。給食について興味をもってくれたり、休み時間に家に帰れることにびっくりしました。

〇〇省（留学生の出身地）はとても景色がきれいで、自然もたくさんあり、都会の雰囲気もあり、行ってみたいと思いました。

たくさんお話しできて良かったです。



（教育学専修3回生 岸田麻鈴さん）

- ・海外を訪れたことがなく、ドイツへのイメージも曖昧だったが、交流を通してドイツの概要や教育制度などの相違点から共通点まで学びを深めることができた。

さらにドイツについて知りたくなった。

（教育学専修3回生 竹下朋花さん）

- ・いろいろ勉強になりました。楽しかったです。日本の教育制度の基礎知識がよくわかりました。

そして日本の文化と奈良についてもっと興味が持てるようになりました。

（西安外国語大学交換留学生 肖敏さん）

「日本語教育論」「教職実践演習セレクトセミナー」で「日本語指導が必要な子ども」についての合同授業を行いました（2023年11月10日）

11月10日（金）に学部科目「日本語教育論」「教職実践演習セレクトセミナー」で「日本語指導が必要な子どもとことば」と題した授業を行いました。前半の元奈良県巡回日本語指導員の宮谷雪先生の講話では、ご自身の外国人児童としての経験、日本語指導員としての経験を聞く



ことができました。また、後半は「日本語教育論」受講中の留学生による母語レッスンを通し、新しい言語を学ぶ不安や楽しさを体験しました。

【受講生の感想】

宮谷先生の講話

- ・違う国で暮らしていくことの不安や、具体的な困りごとなどを知ることができたのが良かったです。もし自分の担当するクラスに、外国のルーツを持つ生徒がいた時に参考にしようと思いました。
- ・「外国にルーツのある児童に対して、担任の見方が周りの児童の見方になる」という言葉がとても心に残りました。

来年から私は小学校の先生になる予定ですが、その子に対する、クラスの子どもたちの接し方は、担任の言動にかかっているんだという気持ちを忘れず、学級経営を行っていきたいと思いました。その子の抱えている困難さやしんどさに寄り添いながら、一緒に頑張っていけるようになりたいです。そして、その子のありのままの良さを教師から、そして子どもたちから伝えられる機会をたくさん設けて、頑張ろうと思えるエネルギーを与えていきたいと思いました。

今日は、本当にありがとうございました！

留学生の母語レッスン

- ・今回学習した 母語レッスンでは、ドイツ語での簡単な自己紹介について、20分で練習するという内容でした。自分自身は、第二外国語でドイツ語を練習していましたが、2年半触れていない期間があったので、わからなくなっていた部分や不安な部分がたくさんありました。

しかし、20分間内で、練習を積み重ねていく中で、少しずつ簡単な自己紹介をできるようになる過程で、嬉しさであったり、達成感を感じることができました。経験を通して、海外にルーツがある子や日本語の習得に頑張っている児童にも、このように少しずつ成功体験を積み重ねていけるような手立てや支援を行えるようにしたいと思いました。

- ・私のグループは中国語でした。中国語は、大学の第二外国語として学んだことがあるのですが、忘れてしまっていることも多かったです。今回も、簡単なフレーズでも、発音するのが難しかったですし、さっきやったのにもう忘れてる、という感じでした。



メキシコ出身の留学生 MANZANARES TOVAR Daniel Ivan さんによる



ブルガリア出身の TODOROVA Rositsa Ivanova さんによる

外国語を学ぶということは、こういうことなんだと思います。だからこそ、外国にルーツのある子どもたちに日本語指導を行う際にも、この子は外国語を学んでいるんだという気持ちを忘れず、ゆっくりと楽しく一緒に進んでいきたいです。

一方で、中国語は発音が難しいですが、その分うまく言えた時の嬉しさが大きいです。今回、留学生の先生が褒めてくれた時もとても嬉しかったです。だからこそ、その子が、嬉しい！楽しい！頑張ろう！と思える働きかけが、外国語を学ぶ上でとても大切なのだと感じました。

国際交流イベント「餅つきをしよう！」を開催しました。(2023年12月13日)

12月13日(水)、自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「餅つきをしよう！」を開催しました。

当日は、留学生と日本人学生の計7名が参加し、箕作 和彦准教授による日本の米作り、餅つきの準備と方法についての講義を受けた後、餅つきを体験しました。

まず4名ほどで、杵を使って蒸したての餅米を押しつぶす「こづき」という作業を行いました。

その次は、1人ずつ順番に餅をつきました。休むと餅が冷めてしまうので、素早く交代してつき続けます。

最後は餅とり粉を使って餅を丸く成形し、できたての餅をきな粉などで味付けして参加者でいただきました。

殆どの留学生にとって、餅つきも、餅を食べるのも初めての経験でしたが、口々に「おいしい！」と言って、試食のおかわりをしていました。



留学生が山添小学校の5年生と6年生の授業に参加しました (2023年11月28日)

2023年11月28日に教員研修留学生、学部研究生(留学生)の3名が山添小学校の5年生と6年生の授業に参加しました。

5年生の国際理解教育の授業では、伝統的な遊びを紹介し合う活動を行いました。

また、6年生の英語の授業では、日本と各国の絶滅危惧種を紹介し合い、地球でクラス生き物のつながりについて学びました。

【参加者の感想】

とても楽しい時間でした。子供たちの元気を久々に感じられました。皆さん、明るくて元気に育ってほしいと思います。

(教員研修留学生・LEE Wonho さん (大韓民国 ギョンウン初等学校教員))



LIU YAO さんによる発表スライド

留学生科目「日本語コミュニケーション」の受講生が附属小学校で交流を行いました (2023 年 12 月 6 日)

留学生科目「日本語コミュニケーション」受講生 12 名が附属小学校 5 年生の「外国語」の授業に参加し、交流を深めました。

留学生の振り返り

・小学生たちに渡したカードに「开心」って中国語を書いて、楽しいって意味だと説明したら、カードを持ちながら窓の近くで「わたし楽しい」って叫んだ小学生がいました。それはとても印象深いです。元気な子供と接して、久しぶりに私も元気になるてうれしかったです。また、グループでの自己紹介のとき、挨拶言葉のゲームルールを少し間違えた小学生がいました。そのとき、担任の先生が親切に説明を助けてくれました。本当にありがとうございました。



(西安外国語大学 交換留学生 胡静さん)

・みんなが可愛くて、活発だったと思う。私にいろんな質問をした。みんなと一緒に話すのが楽しかった。もう一度こんな活動を参加したいと思った。私自身は小学校の記憶がほぼ残っていないので、久しぶりに小学校に行ったが、子供たちの笑顔を見て、やっぱり学校の雰囲気が好きで、ぜひ教師になりたいと思った。

(国語教育専修 1 年生 鄭天怡さん)

【附小児童の感想】

・今日の授業では、その国の有名な物や有名なことをたくさん知れました。中国では(中略)踊りは女の子が多くて(たまにおじいさんもまじっていたけど。)すごく有名そうな寺があったから、奈良県と似ているなと思いました。あと質問で、中国で有名なアニメを聞いたら、よくわからない羊のアニメが有名らしい。日本で自分たちがいつも見ているようなアニメではなかったです。国のきょうりが近くても、有名な物がちがうんだなとビックリしました。

- ・今日とくべつな言語・文化のじゅぎょうがあつて、いろんな人が来た。ローマ字がたくさんあつてほとんどなんて書いてあるのかわからなかった。(中略) 日本は短い言葉でもフランス語ではとっても長い言葉だったのでびっくりした。
- ・わたしのグループでは中国のことを教えてくれました。(中略) 教えてくれた人からも質問されました。その質問は「ハイタッチってどういういみ？」です。わたしたちは、「よろこぶときとかやりきったときに使うねんで！」って教えてあげました。わたしはこんかいの授業をとおしておたがいにわかることがあるな~と思いました。

なっきょん's Café「ヨーグルトだけじゃない！ブルガリアの冬体験」を行いました（2023年12月22日）

ブルガリア出身の留学生の持ち込み企画として、ブルガリアの文化を紹介するイベントを行いました。

来場者は伝統料理やハーブティを試食し、ブルガリアで使われているキリル文字や、名産のバラオイルなどを体験しました。

初めての味や情報に驚きの声も多く聞かれ、新鮮な発見の多いイベントとなりました。



国際交流イベント「日本のお正月体験」を行いました（2024年1月10日）

ボーイスカウト奈良17団ベンチャー隊 隊長 境 寛 様、常光寺スカウトクラブ会長代行 橋本 逸夫 様の2名にお越しいただき、日本のお正月文化について学ぶイベントを行いました。まずは、伝統的な風習とそれが今どのような形で残っているかを、写真をまじえ、わかりやすく解説いただきました。

後半は、参加者それぞれが自国のお正月文化を紹介しました。韓国、インドネシア、マラウイ、マレーシア、中国、ブルガリア、日本とそれぞれに祝う時期や期間、特別な料理、招待客のもてなし方などが違い、「面白い！」「それは自分の国でもやってほしい」などの意見が聞かれました。新しい文化に触れるとともに、自分の文化を見直す有意義な時間となりました。



留学生と国内学生が歌舞伎を鑑賞しました（2024年1月11日）

留学生の研修プログラムの一環として実施した文化体験に、留学生16名、国内学生5名が参加し「坂東玉三郎 初春お年玉公演」を鑑賞しました。

女形と大阪松竹座の歴史について学び、映像技術を取り入れたパフォーマンスを鑑賞しました。



2023年度後期も いろいろな留学生科目で留学生と国内学生がともに学びました。

例)「日本語教育論」(後期・月78時限)

私は日本語教育論を留学生の方と一緒に受講しました。普段大学で生活している中で留学生の方と接する機会が無く交流してみたいと思っていたところ、日本人学生も受講することができるこの授業の存在を知り、受講を決めました。この授業の主な内容である「日本語を知らない人に日本語を教えること」について初めて学び、生徒に伝わるように分かりやすく教えることの大変さを強く感じました。また、授業の中で様々な国の文化に触れ合う機会もありました。それを通してこれまで自分が持っていた日本を基準とした見方ではなく、世界の中にある日本という視点で文化について考えるきっかけとなりました。

(教育発達専攻幼年教育専修2回生 八巻昌さん)

海外の方と交流してみたいと思い、留学生向けの科目を受講しました。講義では、意見交換の時間が何度もあったので、留学生と交流することができました。

私は自分を日本人だと思っていましたが、授業では日本語母語の学生と呼ばれました。様々なルーツを持つ人がいたり、何人か聞かれると困る人がいたりする場合がありますからです。他人に何人か容易に尋ねたり、自分の基準で何人か判断したりしないようにしようと思えた良い経験でした。

(教科教育専攻4回生)

外国語教育としての日本語に関心があり、この授業を履修しました。

日本語の教育法に関する学びはもちろん、授業内での留学生の方々との交流は貴重な時間になりました。

教員になった際に、日本語を母語としない子どもとどのように関わっていくかを考える契機にもなりました。

上記の事柄のみならず、この授業を通して、新たな視点を身につけることができた実感しています。

(教科教育専攻国語教育専修4回生 岡崎壮志さん)

この授業を受講しようとしたきっかけは、留学生と話してみたいというすごく単純なものになりました。8割くらいが留学生だったので普段の授業とは雰囲気も違い毎回新鮮で授業についての学びはもちろんのこと、それ以外のこともたくさん学べる貴重な時間を過ごすことができます。自分の下手な日本語も少しはましになったと思います！迷っている方がいたら、ぜひ受講してみてください。

(教科教育専攻保健体育専修 3 回生 福井邑佳さん)

○留学生対象の日本語授業に参加して、外国語、第 2 言語としての日本語学習を体験することもできます。

例)「基礎日本語」(後期)

私は日本語学習者と日本語母語話者の授業の違いに興味があったため、この授業に参加しました。普段気にしていない助詞の些細なニュアンスの違いが、日本語学習者にとってどれほど難易度の高いものになっているか等の発見があり、とても新鮮な時間でした。自身の日本語の使用について見直す機会にもなりました。

(国語教育専修 2 回生 島谷美咲さん)



例)「補習授業_実践日本語」(後期)

授業に参加した理由は、留学生である友人が普段どのような授業を受けているのに興味があったからです。また、他の留学生ともお話をしてみたかったので、参加しました。

今回の授業では、お正月の休みに何をしたかについて留学生と話しましたが、他国のお正月の食べ物や習慣について知ることができました。違う文化に触れることは、本当に楽しく、興味深かったです。気軽に参加できる雰囲気だったので、また参加してみたいと思います。

(幼年教育専修 3 回生 佐土島音々さん)

本学留学生が大阪大学の日本語・日本文化研修留学生といっしょに京都見学合同プログラムに参加しました。(2024 年 2 月 16 日)

本学の日本語・日本文化研修留学生、交換留学生、教員研修留学生 16 名が京都見学合同プログラムに参加し、伏見稲荷大社、三十三間堂の参拝、散策、和菓子作り体験を通して、日本文化に関する学びを深めました。本プログラムは、大阪大学による日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業の一環として行われたもので、世界各国で日本語・日本文化を学ぶ大学生同士が交流を深めるよい機会にもなりました。



国際戦略センター（奈良女子大学） 年次報告

I . 学生の海外派遣事業

1.1. グローバル女性人材養成プログラム（フィリピン）

■ 研修概要

QQEnglish セブ島 IT パーク校を研修先として、2 週間のフィリピン研修を行う。学生の滞在形式は QQEnglishIT パーク学生寮。

● 本プログラムの目的

マンツーマン、グループで英語のレッスンを集中的に受講することを通じて、英語運用能力の向上を図り、語学力、チャレンジ精神、コミュニケーション能力を備えた人材を養成することにある。

● 研修準備から実施までの日程

5 月 10 日（水）	募集説明会 12:20 ～ @ N201
5 月 31 日（水）	参加者募集締め切り 17:00
6 月 2 日（金）	参加者決定及び申込者への通知
6 月 23 日（金）	第 1 回渡航説明会（16:30～ 18:00@ 留学ルーム（学情））：研修の注意事項や心構えなど
7 月 5 日（水）	第 2 回渡航説明会（12:20～ 12:50 @N301）：保険説明、危機管理について エイチ・アイ・エス支払い締め切り
8 月 3 日（木）	最終説明会（16:30～ 18:00 @ 留学ルーム（学情））
8 月 21 日（月）	研修出発
9 月 1 日（金）	帰国
9 月 30 日（土）	レポート、アンケート提出

● 研修先

研修先：QQEnglish セブ島 IT パーク校

● 研修期間：2023 年 8 月 20 日（日）～9 月 2 日（土）（14 日間）

月 日 曜	時 間	内 容
8 月 20 日（日）	午後	セブ国際空港に到着 QQE に移動
8 月 21 日（月）～9 月 1 日（金）	終日	QQE にて研修
9 月 2 日（土）	午前 午後	セブ国際空港へ移動 帰国

● 参加学生の内訳

【所属】

所 属	人数 (名)
文学部 1 回生	1
文学部人間科学科 2 回生	2
文学部人間科学科 4 回生	1
文学部人文社会学科 3 回生	1
生活環境学部心身健康学科 1 回生	1
生活環境学部心身健康学科 2 回生	1
生活環境学部文情学科 2 回生	1
生活環境学部食物栄養学科 2 回生	1
理学部化学コース 3 回生	1
理学部物理学コース 2 回生	1
理学部物理学コース 4 回生	1
理学部数物科学科 4 回生	1
博士前期課程食物栄養学専攻 2 回生	1
博士前期課程心身健康学専攻 1 回生	1
合 計	15

● 事前説明会等

5月10日（水）12：20 ～ N201 募集説明会

配布資料：

- ・2023年グローバル女性人材育成プログラム（フィリピン）概要（説明会）（国際戦略センター（以下センター）作成）
- ・2023年グローバル女性人材育成プログラム（フィリピン）セブ島プロジェクト②申込書（センター作成）

6月23日（金）16：30 ～ 留学ルーム（学情）第1回渡航説明会

説明事項：

- ・申し込み手続き関係、スケジュール、持ち物、安全に関する注意事項等について

配布資料：

- ・グローバル女性人材育成プログラム（フィリピン）しおり（センター）
- ・グローバル女性人材育成プログラム（フィリピン）国内緊急連絡先（センター）
- ・短期研修同意書（センター）

7月5日（水）12:20 ～ N301 第2回渡航説明会

説明事項：

- ・海外旅行保険について

配布資料：

- ・アイラック安心サポートデスク資料（日本アイラック株式会社）

- ・AIG の『海外留学保険』の加入推奨について（AIG 保険会社）

8月3日（木）16:30 ～ 留学ルーム（学情） 最終説明会

説明事項：

- ・出入国について（eTravel オンライン登録、Vist Japan Web 登録）
- ・出発に際しての最終確認（集合場所・時間等）
- ・緊急用連絡先確認
- ・最終諸注意・質問受付

配布資料：

- ・グローバル女性人材育成プログラム（フィリピン）しおり（株式会社エイチ・アイ・エス様作成）

● 研修後アンケートの集計結果

自由記述部分の誤字・脱字については、軽微な修正を行っている。

Q1 所属学部・学科・専攻

全 15 名中、文学部が 5 名、理学部が 4 名、生活環境学部が 4 名、大学院人間文化総合科学研究科が 2 名の参加であった。

文学部	理学部	生活環境学部	工学部	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士前期)	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士後期)	計
5 名	4 名	4 名	0 名	1 名	1 名	15 名

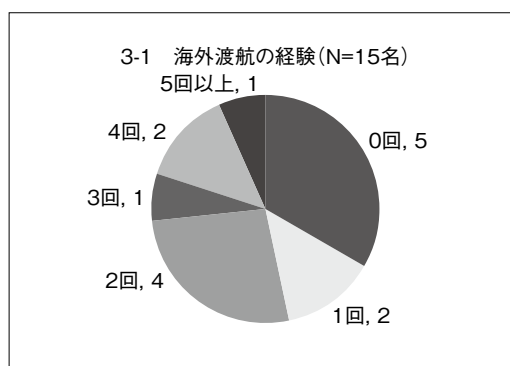
Q2 学年

全 15 名中、1 年生が 2 名、2 年生が 6 名、3 年生が 2 名、4 年生が 3 名、M1 年生が 1 名、M2 が 1 名であった。

1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	M1	M2	D1	D2	その他	計
2 名	6 名	2 名	3 名	1 名	1 名	0 名	0 名	0 名	15 名

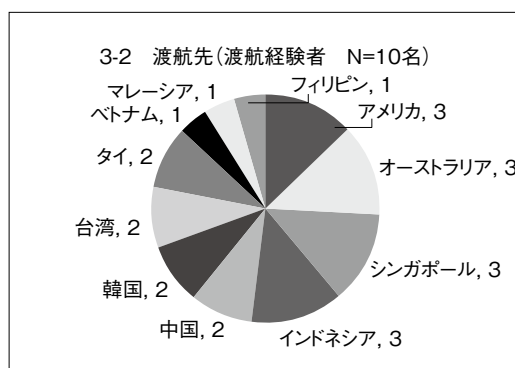
Q3 「研修開始前の事典で、海外渡航の経験は何回ありましたか？」

全 15 名中、半数以上に渡航経験があった。



Q 3-2 (Q 3 で、1 回以上と回答された方にお聞きします。)

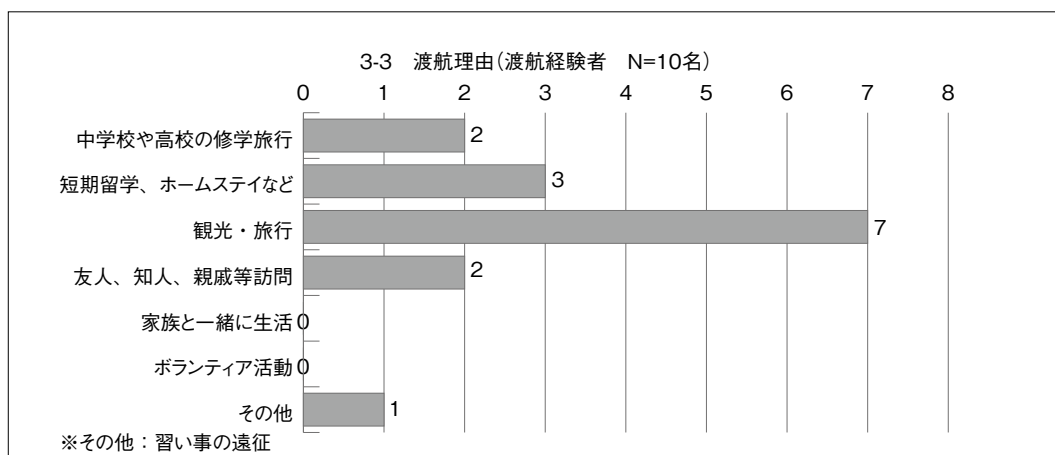
その渡航先は具体的にどこでしたか？国名をすべてお答えください。



Q 3-3 (Q 3 で、1 回以上と回答された方にお聞きします。)

その目的や理由はどのようなものでしたか？(あてはまるものをすべて選ぶ)

- ①高校の修学旅行 ②短期語学留学、ホームステイなど ③観光・旅行 ④友人訪問
⑤家族と一緒に生活 ⑥ボランティア活動 ⑦その他



Q 4 今回のセブ研修には、どのような目的で参加されましたか？(研修前に考えていたことを答えてください)

- ・英会話力を向上させることと海外を通して多様な経験を得ることを目的に参加した。
- ・英語学習
- ・コロナ禍が収束してから、地元や大学周辺でたくさんの外国人観光客を見かけるようになって、バイト先にも外国人の方がたくさん訪れるようになりました。メニューの説明をしたり、テーブルに品を運んだりする際に英語で話したくても自身の英語での会話能力の不足や自信のなさから結局簡単な単語やジェスチャーで済ませることが多く、時にはスマホに頼ってしまうこともありました。人と人との会話なのにちゃんと話せていないことにもどかしさや危機感を感じ、短期間でも英語で強制的に喋らないといけない環境で過ごして、まずは自分の中にある英語で話すこと

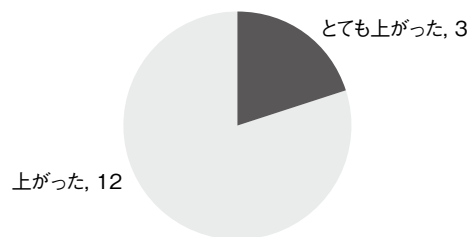
への抵抗感をなくしたいと思い、研修への応募・参加を決めました。

- ・英語力を伸ばしたい
- ・英語の speaking 力を上げる、speaking の勉強をするきっかけを作る
- ・英語を話せるようになりたい
- ・大学に進学して以来、英語の勉強機会が減ってしまい英語の力が低下しているの感じていた。今後の就職や、将来にとって英語が話せることは重要だと考えており、今回の研修で英語を勉強するきっかけにしたいと思い参加した。
- ・語学力を鍛えるため参加しました。特にリスニング力とスピーキング力を鍛えるため参加しました。
- ・英語にたくさん触れる機会が欲しい。
- ・自分の英語力を高めたい。
- ・スピーキングリスニング力の向上
- ・英語を話すことに対する抵抗感を減らす、なくすため。
- ・4 技能の中で、特にリスニングとスピーキング力を高めることが目的でした。IELTS を留学前に受けたとき、特にリスニングとスピーキングの点数が悪かったため、もっと伸ばしたいと考えていました。
- ・英語を話す機会がほとんどなかったため、日本人同士以外で英会話をすることを目的としていた。
- ・アルバイト先での外国人観光客への接客で英語を話す機会が少しあり、その時にもっと英語を喋りたい、うまくなりたいという気持ちがあったため。このフィリピン研修がおすすめの例として挙げられていた、とにかく英語をたくさん喋りたい人という項目に強く当てはまったため。
- ・英語を喋れるようになりたいという思い一心でした。海外の人と集中的にやり取りをして、聞く耳、そしてコミュニケーション能力を高めたいと考えていました。

Q 5 今回の研修によって、自分の語学力はどのように変化しましたか？（1つ選ぶ）

- ①とても下がった ②下がった
③変わらない ④上がった
⑤とても上がった

5-1 今回の研修によって、自分の語学力はどのように変化しましたか？(N=15名)



Q 5-2 （Q 5 の回答について）どのようなときにそう感じますか？

- ・授業で先生たちに褒められたとき。
- ・街中や普段の生活において現地の人たちとコミュニケーションを取れたとき。
- ・英語で会話することへの抵抗感が薄くなり、先生と同じ話題で笑えたこと
- ・授業のカリキュラムの中で、テーマに関連した単語を学び、会話をしていく中で自分の中の語彙

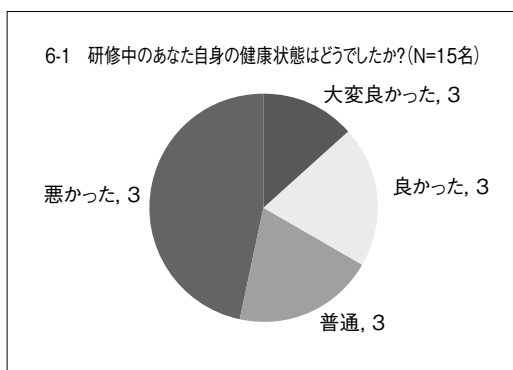
力が高まったと感じた時や、授業で学んだ単語やフレーズを先生とのフリートークで実際に使ってみて自分のものにできたなど実感したときに語学力が上がったと感じた。しかし、会話を楽しみ自分の意見を英語で伝える練習を詰めたが、自分が言いたいことについて最適な表現で会話ができるレベルには達していないと思うため。

- ・たくさん英語を話している自分に気がついた時。行きより帰りの飛行機の方が英語のアナウンスがよく聞き取れた時。
- ・自己紹介が上手くできた、習った表現を授業で使えた時
- ・英単語がすらすら出てきて先生とのコミュニケーションがうまく行った時
- ・授業での先生の話している内容が徐々に聞き取れるようになったときと、自分の考えを少しずつ英語で説明できるようになったとき
- ・現地の人の英語が理解できた時。
- ・授業で先生の話すことがどんどん聞き取れるようになってきたり、自分の言いたいことを簡単な英語の文に直して言えるようになってきた時
- ・最終日に近づくにつれて言いたいことを伝えられていると感じた。
- ・慣れてくるにつれて、授業の中でも日常生活の中でも言いたいことが言えて、相手に伝わったとき。
- ・1週間目は自分から積極的に話すことができず、先生から聞かれたことについて答えていただけでしたが、2週間目では先生とコミュニケーションがうまくとれ、ただ決まった授業を進めるだけではなく、フリートークの授業が多くなりました。
- ・また、QQEの先生に、受け答えが早くて良いと褒めていただいたことから、リスニングとスピーキング能力が留学前よりも上がったのかなと感じました。
- ・英語で質問されたときにその文を理解して答えを考える時間が短くなった。
- ・英語を喋ることに抵抗がなくなったことと、楽しく会話することができたから。
- ・うまく話せない時に一生懸命話そうと努力して搾り出した時

学習面以外の経験について

Q6 研修中のあなた自身の健康状態はどうでしたか？(1つ選ぶ)

- ①大変良かった ②良かった ③普通
④悪かった ⑤とても悪かった

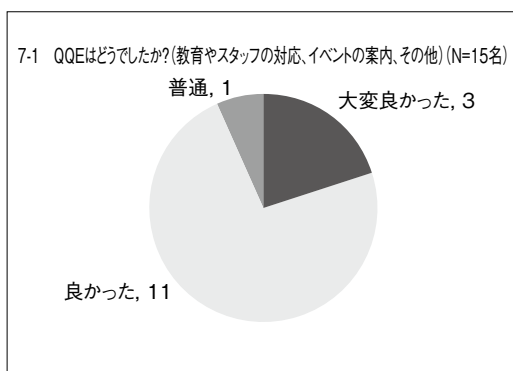


Q 6-2 (6-1で「悪かった」「大変悪かった」を選択した方) なぜそう思われるのですか?理由をお答えください。

- ・生活にすごく支障が出るほどではないですが、若干の下痢と喉の痛み・咳が続いていたからです。
- ・咳が酷くなり、熱が出た
- ・3日目あたりから喉の痛みが出てきた。原因は寮の乾燥と大気汚染だと思う。また、7日目あたりで38度の熱が出てしまい、現在も咳が完全には治っていない。
- ・滞在中に発熱したから。
- ・38.5度の熱が出た。
- ・QQ内のエアコンが寒くて喉が痛くて咳が止まらなかったことがあった。
- ・夜中に吐いたことや、熱が出たことがあったため。また、喉の痛み、咳も酷かったため。
- ・ずっと喉の調子が悪かったため

Q 7 QQEはどうでしたか? (教育やスタッフの対応、イベントの案内、その他) (1つ選ぶ)

- ①大変良かった ②良かった ③普通
④悪かった ⑤とても悪かった



Q 7-2 (7-1の回答について) なぜそう思われるのですか?理由をお答えください。

- ・授業や講師の質は全体的に高いと感じたから。また、施設の整備や生活環境において多少の不満はあったものの、スタッフの対応や休日のアクティビティイベントなどを鑑みても満足できる程度であったから。
- ・先生と多少の合う合わないの違いはあれど、楽しく学習できた。
- ・授業ごとに先生が変わって色々な先生と話せたり、授業の教材を自分で選べるのはとても良かったためになったと思うことが多いが、各スペースが完全に閉鎖されていたわけではないのである程度大きな声で話さないといけなかったり、周りの会話の声がうるさいと感じることもあったから。
- ・マンツーマンの英語レッスンはよかったですが、寮の生活環境は正直 QQ のホームページの写真は詐欺レベルに異なる(悪かった)と思います。
- ・文法の授業は分かるので要らなかったです。基本的にはよく、楽しく過ごせました。
- ・過ごしやすかった
- ・教育内容や、先生は優しくとてもよかったです。寮の環境がとても良かったとは言えないのが大変良かったを選択肢なかった理由です。シャワーとランドリーが使用しにくかったのが生活し

にくかったです。

- ・スタッフの方が丁寧に対応してくださったので楽しく過ごせました。
- ・オスロブツアーがとても楽しかった。平日のイベントのことについてはよく分からなかった。
- ・授業は50分しっかりとしてくれて、受付の方も質問等に対応してくれたから。
- ・先生がフレンドリーで話しやすかったため。また、フロントの方も丁寧に対応してくださり、疑問点が解決したため。
- ・イベントに参加したとき、スタッフの方々が盛り上げてくださったので、緊張せず楽しむことができました。
- ・すごくフレンドリーな方が多く、笑顔で話を聞いてくれたり対応してくれたため。
- ・ドミトリーは生活に最低限の環境は揃っているし、なにより学校からとても近かったから。
- ・先生とマンツーマンで話をできて、集中できた

Q8 本プログラムに参加して、あなたが学んだこと、感じたことは何ですか？また、この経験を今後どのように活かしていきたいですか？

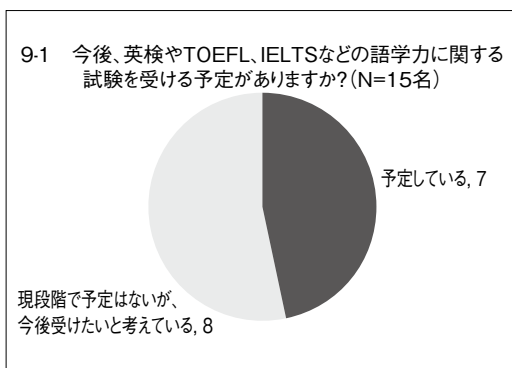
- ・英会話力を十分に鍛えることができ、講師や現地の人などの英語話者と英語で話すことへの抵抗が無くなった。また、授業中の講師たちとの会話や、授業終わりや休日に街中に出るタイミングで、現地の人々の生活環境や街の様子を目の当たりにして、様々な観点から日本との違いを学ぶことができた。これらは自分にとって最も衝撃的かつ貴重な体験だったので、今後の生き方やその他物事を考える際に活かしたいと思った。そして、これをきっかけに英語力向上への努力を今後も絶やさず続けていきたいと考えた。
- ・躊躇わず話し、たくさん経験すること。日本でも海外でもさまざまな人とコミュニケーションを取る。英語の本を読むこと。
- ・研修への参加目的でもあった、英語で話すことへの抵抗感をなくすという目標は、授業だけでなく授業外での街でのコミュニケーションなどにもよって達成できたと思う。頑張って言葉を繋いで自分の考えを話せば、相手は自分の意図を読み取ってくれるのだと気づけたのはよかった。しかし、今回の2週間のプログラム期間中、自分が思っていたよりも英語が話せると感じる時もあるればなんでこんな簡単なこともパッと話せないのだろうと感じる時も両方あった。雑談を交えた会話を楽しむことはできていても、自分の思っていることに最も適切な表現が頭の中ですぐに思いつかないのは悔しいことだと感じたし、やはり自分にはリスニング力に比べてスピーキング力がまだまだ足りていないことが明らかになった。今後の学習では、今回の経験を踏まえて英語の歌やポッドキャストを聴いたり映画を見たりしてリスニング力を伸ばしつつ、オンライン講座やバイト先での外国人観光客の方との会話を積極的に行うことでスピーキング力を伸ばしていきたいとより強く思うようになった。そしてまたいつか海外に旅行する時にはスマホにあまり頼らなくてもある程度会話ができるレベルになりたいと思う。
- ・2週間で劇的に英語ができるようになったわけではありませんでしたが、それは当然のことで、一番学べてよかったと思うのはそもそも英語は単なる言語でありコミュニケーションの手段に過ぎないということです。伝えたいことがあって初めて言語が必要となり、英語そのものは目的ではないということを、当たり前ですが強く実感できた2週間でした。だから英語を勉強しなきゃ！

と迫られたタスクのように考えるのではなく、いろんな人と対話して新しい価値観を知り、自分の視野を広げるための手段として英語を捉え、もっと自分の感情や意見を自由に発信できるようにこれからも英会話の練習をしようと思います。

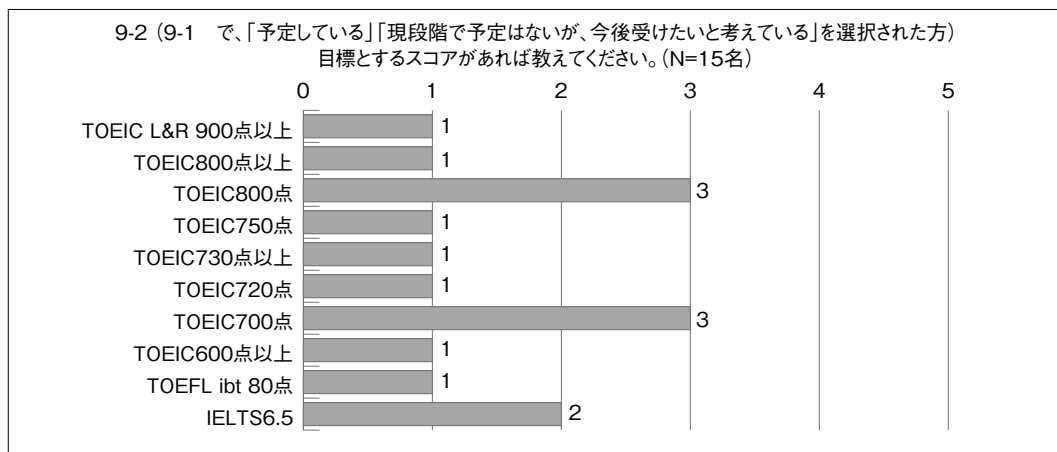
- ・speaking 力と listening 力を学びました。また、勉強を継続していくことが大切だと思いました。
- ・世界は広くて人生をもっと楽しむべきだと感じた。そして英語を話せると自分の世界がぐっと広がると思った。今後も英語学習を続けて、自分の可能性を広げていきたいと思う。
- ・研修前は英語力が落ちて、どんどん勉強するのが嫌になっていましたが、今回の研修で英語を勉強する楽しさを初めてといてもいいぐらい感じることができました。まだまだ自分の言いたいことを説明できなかったり、語彙力がないことを実感したので、単語帳やオンラインレッスンで継続したいと思っています。また、さらに英語力を伸ばして、それを活かした仕事を探したり、海外旅行をしたいなと思います。
- ・語学力だけでなく、現地でのタクシーの乗り方、価値観を学べる大変貴重な機会を得られました。より一層勉強に励むことに加え、現地で経験した食や娯楽など興味深いものがたくさんあったので調べてみたいと思います。
- ・英語で会話することに自信を持てるようになったと思う。この2週間で終わらせずにこれからも英語の映画やニュースを見るなど QQ の先生に勧められたことを実践したい。また、フィリピンの貧困さを自分の目で見て良い経験になった。
- ・お話しすることが大好きだが、実際に英語で話してみたいことを伝えられないことがあった。世界中の人ともっとお話ししたいと思い、英語学習に対する意欲が高まった。
- ・海外の方との会話では、日本では当たり前だと思っていることが当たり前ではなかったり、常識や価値観が異なっているため、語学力だけでなく、そのような考え方の違いも大きな障害となるのだと感じた。また、慣れない環境での生活は、自分にとって大きなストレスになるということも感じた。ただ、このプログラムは自分にとって海外に行くこと、海外で生活することへのハードルを低くしてくれたと感じている。これを第一歩として、他の国にも挑戦してみたいと思った。
- ・英語力を向上させるにあたってまず考えるのは留学だと思うのですが、このプログラムを通して、日本でも学べるのがたくさんあると感じました。QQE の先生との会話の中で、海外の映画を観るときは字幕を無しにする、英語の podcast を聞く、分からない単語があるときは和訳ではなく英訳で調べるなど、英語を勉強するときには日本語をなるべく使わずに、常に英語に触れる大切さを学びました。今回は短い期間でしたが、日本にいながらどのように英語を勉強すべきなのかを体感できたため、これからももっと英語を話せるように勉強したいと思いました。
- ・自分の英語力の無さを改めて突きつけられたがそれが今後の学習のモチベーションとなっている。インプットだけでなくアウトプットの大切さを痛感した。
- ・なんでもまずやってみることが大切だと思いました。そして、自信をなくさないことも大切だと思いました。
- ・やはり、家で机に向かって勉強するだけでなく、コミュニケーションをへて語学を学ぶことによって、より実用的な英語を学ぶことができました。次はもっと長く留学がしたいです。

Q 9 今後、英検や TOEFL、IELTS などの語学力に関する試験を受ける予定がありますか？

- ① 予定している
- ② 現段階で予定はないが、今後受けたと考えている
- ③ 予定していない

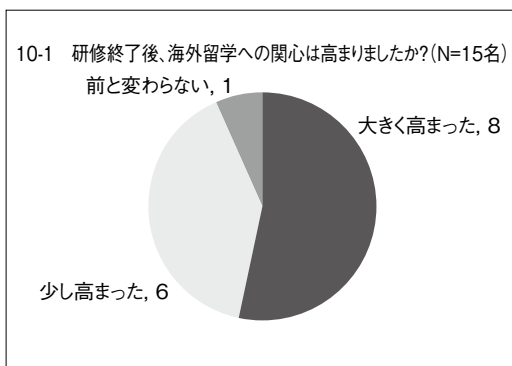


Q 9-2 (9-1 で、「予定している」「現段階で予定はないが、今後受けたと考えている」を選択された方) 目標とするスコアがあれば教えてください。(記入例：TOEFL ibt 80 点)



Q 10 研修終了後、海外留学への関心は高まりましたか？

- ① 大きく高まった ② 少し高まった
- ③ 前と変わらない ④ 少し低くなった
- ⑤ 大きく低くなった

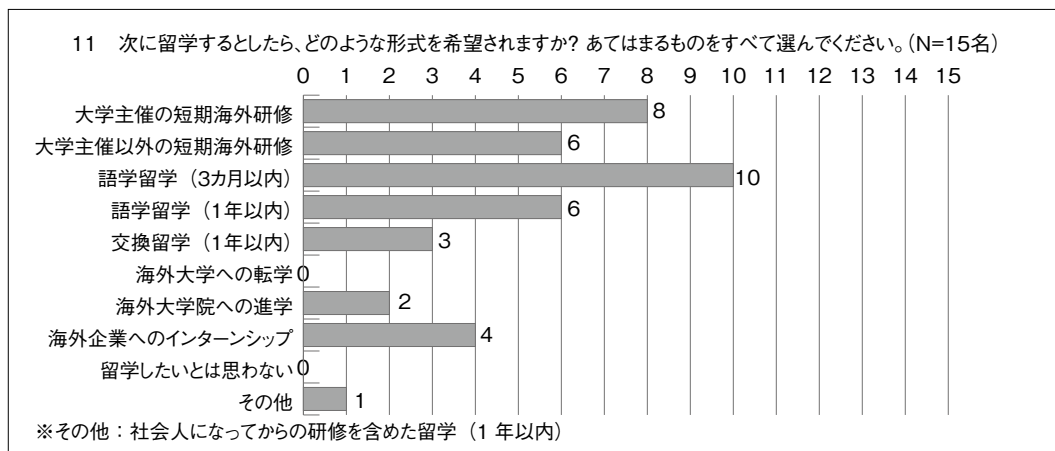


Q 10-2 (10-1 の回答について) なぜそう思われるのですか？その理由についてお答えください。

- ・英語力についてはもちろんのこと、それに限らず吸収することが本当に沢山あり人生で最も充実した 2 週間だったと言えるため、今回のような貴重な経験をさらに得たいと強く思うようになったから。また、もっと英語話者とコミュニケーションをとる機会をもちたいと考えたから。
- ・英語で話すことのハードルが下がったから
- ・2 週間の留学では、1 週間目は環境に慣れるのに必死で 2 週間目はだいぶ慣れてきてその頃に帰国するという感じだったので少し物足りなかった。せめてあと 1 週間あればもっと英語力を伸ばせたかなとも思うのでもう少し長い期間での留学もいつかチャレンジしたい。
- ・もっと長期間の留学に行きたかった学生生活でしたが、もう私は来年就職なのでこの気持ちは胸にしまっておきます。
- ・1 ヶ月くらいあればもっと成果を実感できると思うから。
- ・日本で英語を学ぶのとは全く違ったから。日本では reading を学ぶことはできるが、speaking、listening に関しては海外で実際に会話を重ねることで磨かれると感じたから。
- ・今まで留学にあまり興味を持たずに参加しましたが、留学によって英語力が伸びるだけでなく、海外と日本の環境の差を実際に知り、海外で起こっている問題についても考えるきっかけになりました。
- ・今回参加したことで、海外留学へのハードルが消えました。また今回の留学は非常に学び多いものとなったので、新たに留学したいという思いが高まりました。
- ・意外と授業が楽しくて、もっといたいと思ったから。ほとんどの QQ の先生に 2 週間は短すぎると言われて、やっぱり英語を身につけるのには半年ぐらいは必要なのだと思ったから。
- ・文化が異なる人との交流が楽しかったから。次の留学を英語学習の目標にしたいから。
- ・海外の人とコミュニケーションをとることはそんなに難しいことではないと感じたから。
- ・先ほど日本にいながらでも英語の勉強ができると回答しましたが、私は今回のセブ島生活の中で、現地の人と交流したときのことが最も印象に残っています。フィリピンの文化、環境、生活等知ることができ、また現地の人との会話を通して、日常会話で使う英語を学ぶことができました。海外に留学することで、日本以外の文化、価値観等様々なことを体感でき、現地の人との交流はかけがえのない経験となりました。そのため、日本で下準備をしっかりと行い、次回はもっと英語を話せるようになってから再度留学をチャレンジしたいと思いました。
- ・フィリピンは英語が公用語の国ではあるがネイティブではないため、英語を母国語としている国に行ってみたいと思ったため
- ・英語を英語で学ぶというのにすごく新鮮味を、感じたから。
- ・むかしからしたいとおもっていたが、実際に少し体験して海外留学の良さを知れたから。

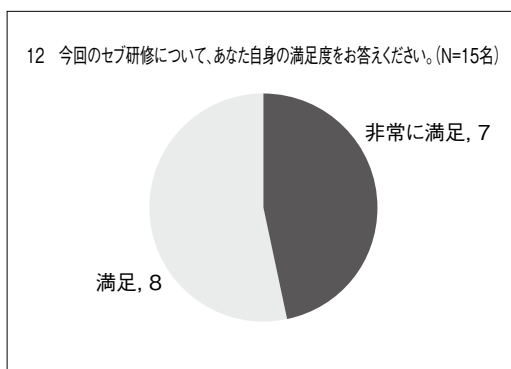
Q 11 次に留学するとしたら、どのような形式を希望されますか？ あてはまるものをすべて選んでください。

- ①大学主催の短期海外研修 ②大学主催以外の短期海外研修 ③語学留学（3カ月以内）
④語学留学（1年以内） ⑤交換留学（1年以内） ⑥海外大学への転学 ⑦海外大学院への進学
⑧海外企業へのインターンシップ ⑨留学したいとは思わない ⑩その他



Q 12 今回のセブ研修について、あなた自身の満足度をお答えください。(1つ選ぶ)

- ①非常に満足 ②満足 ③普通 ④不満
⑤非常に不満



Q 13 その他、今回の研修について、個人的な感想や意見があれば記入してください。

- ・今回、初めての海外ということもあり、大学からの様々なサポートやそれによる安心感と共に海外へと旅立つことができてとても良かったです。語学学校での日々の授業に限らず放課後や休日においても自分にとって吸収することが山ほどあり、本当に充実した日々を過ごすことができました。そして、今回の留学が海外や英語学習へのさらなるモチベーションに繋がりました。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました！！
- ・常備薬を十分に持っておいてよかったと思いました。
- ・夜遅くの便で学生だけで帰る時、空港の人にチップをしつこく求められたり、シャトルバスがないからタクシーに乗れと想定外のことを言われたりして、不安に思うことをあったのももう少し早めた方がいいのではないかと思います。

- ・特にありません。
- ・夜に生徒だけで帰国する時、シャトルバスがないと言われ、多分ですが、タクシーの運転手にぼったくられました。次からはシャトルバスの時間を予め調べておくか昼の便がいいと思います。
- ・特になし。
- ・特にないです。
- ・ビーチサンダル持参を必須にした方がいいと思います。
- ・シャワーやトイレ、洗面台が汚くて、慣れるまで大変だった。また、私も含め体調を崩した人がとても多くてもっと防寒対策や薬の準備などしていけば良かったと思った。
- ・一緒に行った仲間と協力して2週間過ごせたことも良い経験になりました。
- ・意外に食べ物が美味しかったのでよかった。現地のSIMカードの使い方が分かりにくかったり、Wi-Fiが弱かったりして、必要な時にネットに繋がらないことがあったのでそこは不便だった。
- ・特にないです。とても楽しくて、あっという間の2週間でした。
- ・授業後にかなり時間があつたため、校内にとどまるだけでなく外に出て現地の人と会話をする機会を持てたのは良い経験になった。
- ・特になし。
- ・本当に楽しくて、その中で英語もたくさん喋れて幸せな体験ができました。2週間だけではなく、次は3週間、1ヶ月は最低でも行きたいと思いました。

1.2. グローバル女性人材養成プログラム（ニュージーランド）

■ 研修概要

海外協定大学であるリンカーン大学の English Language Centre (ELC) を研修先として、25 日間の研修を行う。学生の滞在形式はニュージーランドの文化を体験するホームステイ。その他の主な研修内容は、日本紹介イベント「Japan Fiesta in Christchurch 2024」への出展である。出展にあたり、「異文化理解と平和構築（ニュージーランド研修）」を開講。

● 本プログラムの目的

集中的な英語教育を受講し、英語運用能力の向上を図るとともに、ホームステイ体験や現地での交流を通じて異文化に触れ、語学力、チャレンジ精神、コミュニケーション能力、異文化理解力を備えた人材を養成することにある。また、Japan Fiesta in Christchurch 2024 に出展し、日本文化の紹介を通じて現地住民との交流を深める。

● 研修準備から実施までの日程

10月18日（水）	第1回説明会（募集説明会） 12:20 ～ N301
11月6日（月）	参加者募集締め切り 17:00
11月10日（金）	参加者決定及び申込者へメールで通知

11月22日(水)	第2回説明会(16:30～18:00@国際セミナー室):申し込み手続き関係
12月15日(金)	Eイチ・アイ・エス支払い締め切り・パスポート提出締め切り
12月20日(水)	第3回説明会(12:20～12:50@N201):海外旅行保険について
1月16日(火)	第4回説明会(16:30～18:00@国際セミナー室):危機管理、その他準備について
2月9日(金)	最終説明会(16:30～18:00@国際セミナー室)
2月16日(金)	研修出発
3月11日(月)	帰国
3月25日(月)	レポート、アンケート提出

● 研修先

研修先：リンカーン大学 English Language Centre (ELC)

● 研修期間：2024年2月16日(金)～3月11日(月)(25日間)

月 日 曜	時 間	内 容
2月16日(金)	午後	大阪空港から出発(成田、オークランド経由)
2月17日(土)	午後	クライストチャーチに到着
2月18日(日)	終日	
2月19日(月)～23日(金)	終日	授業
2月24日(土)～25日(日)	終日	
2月26日(月)～3月1日(金)	終日	授業
3月2日(土)	終日	Japan Fiesta in Christchurch 2024 出展
3月3日(日)	終日	
3月4日(月)～8日(金)	終日	授業
3月9日(土)～10日(日)	終日	
3月11日(月)	午後	帰国

● English for Academic and Professional Purposesの授業時間:9:00～15:00(木金は昼まで)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:00-9:50	授業	授業	授業	授業	授業
10:00-10:50	授業	授業	授業	授業	授業
11:00-11:50	授業	授業	授業	授業	授業
昼休憩					
13:10-14:00	授業	授業		授業	
14:10-15:00	授業	授業		授業	
15:00-	Self-Access	Self-Access		Self-Access	

● 参加学生の内訳

【所属】

所 属	人数 (名)
文学部 1 回生	3
文学部人間科学科 2 回生	2
文学部人文社会学科 2 回生	2
理学部数学化学科 1 回生	3
理学部数学化学科 3 回生	1
理学部化学生物環境学科 1 回生	1
理学部化学生物環境学科 2 回生	3
生活環境学部食物栄養学科 1 回生	2
生活環境学部食物栄養学科 2 回生	2
生活環境学部文化情報学科 1 回生	1
生活環境学部文化情報学科 2 回生	1
生活環境学部心身健康科 1 回生	1
生活環境学部住環境学科 1 回生	1
工学部工学科 1 回生	2
合 計	25

● 事前説明会等

10月18日(水) 12:20 ~ N301 第1回説明会(募集説明会)

配布資料:

- ・2023年度ニュージーランド研修の概要(国際戦略センター(以下センター)作成)
- ・2023年度ニュージーランド研修申込書(センター作成)

11月22日(水) 16:30 ~ 国際セミナー室 第2回説明会

説明事項:

- ・申し込み手続き関係

配布資料:

- ・リンカーン大学語学研修(ニュージーランド)のお手続きについて(株式会社エイチ・アイ・エス)
- ・短期研修同意書(センター)
- ・Lincoln homestay application 2024(リンカーン大学)
- ・LU ENROLMENT FORM(リンカーン大学)

12月20日(水) 12:20 ~ N201 第3回説明会

説明事項:

- ・海外旅行保険について

配布資料:

- ・安全に関する注意事項(センター)

- ・アイラック安心サポートデスク資料（日本アイラック株式会社）
- ・AIG の『海外留学保険』の加入推奨について（AIG 保険会社）

1月16日（火）16:30 ～ 国際セミナー室 第4回説明会

説明事項：

- ・危機管理、その他準備について
- ・ホームステイについて

2月9日（金）16:30 ～ 国際セミナー室 最終説明会

説明事項：

- ・出発に際しての最終確認（集合場所・時間等）
- ・緊急用連絡先確認
- ・最終諸注意・質問受付

● 研修後アンケートの集計結果

自由記述部分の誤字・脱字については、軽微な修正を行っている。

Q1 所属学部・学科・専攻

全 25 名中、文学部が 7 名、理学部が 8 名、生活環境学部が 8 名、工学部が 2 名の参加であった。

文学部	理学部	生活環境学部	工学部	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士前期)	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士後期)	計
7 名	8 名	8 名	2 名	0 名	0 名	25 名

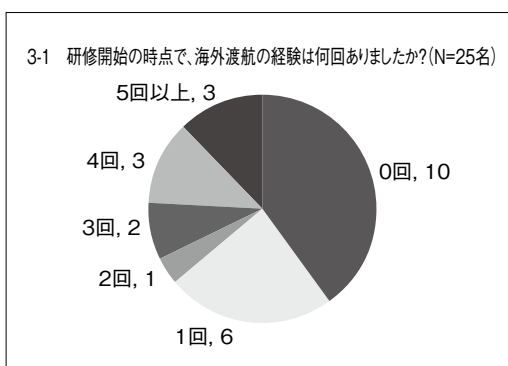
Q2 学年

全 25 名中、1 年生が 13 名、2 年生が 11 名、3 年生が 1 名であった。

1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	M1	M2	D1	D2	その他	計
13 名	11 名	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	25 名

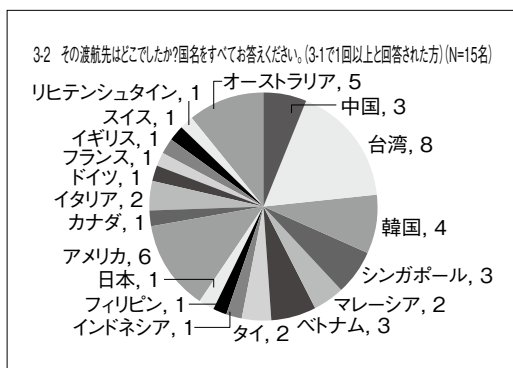
Q3 「研修開始前の事典で、海外渡航の経験は何回ありましたか？」

全 25 名中、半数以上に渡航経験があった。



Q 3-2 (Q 3 で、1 回以上と回答された方にお聞きします。)

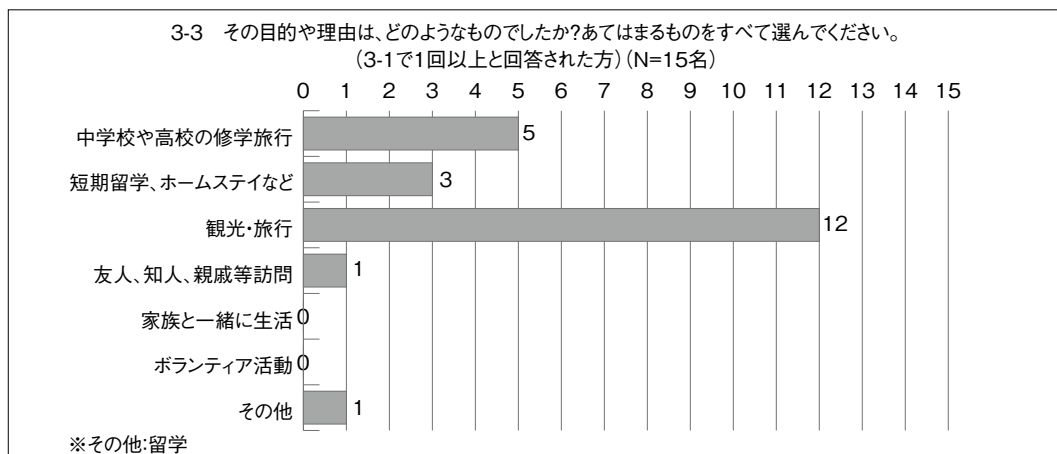
その渡航先は具体的にどこでしたか？国名をすべてお答えください。



Q 3-3 (Q 3 で、1 回以上と回答された方にお聞きします。)

その目的や理由はどのようなものでしたか？(あてはまるものをすべて選ぶ)

- ①高校の修学旅行 ②短期語学留学、ホームステイなど ③観光・旅行 ④友人訪問
⑤家族と一緒に生活 ⑥ボランティア活動 ⑦その他



Q 4 今回のニュージーランド研修には、どのような目的で参加されましたか？(研修前に考えていたことを答えてください)

- ・英語力の向上。文化の違いに柔軟になり、視野を広げること。
- ・初めての海外、留学ということで、異文化に触れ、自分の価値観を広げたいということと、英語に対して苦手意識を払拭したいという気持ちで参加した。
- ・将来長期留学するための準備
- ・海外の大学の雰囲気を知りたい
- ・英語を使ったコミュニケーションスキルの向上
- ・語学力向上
- ・英語のスキルを磨きたい、日本と異なる文化を体感したいと思っていた。

- ・自分がどの程度英語を話せるのか、試したかった。
- ・簡単な英会話をできるようにすること
- ・英語力の向上
- ・自分の視野を広げるため。
- ・海外に留学してみたかった。
- ・日本で学ぶだけではなかなか身につけることが難しい、英語でのコミュニケーション能力を向上させることが目的。
- ・交換留学のためのトライアル
- ・語学力向上
- ・語学力向上・海外留学経験
- ・一ヶ月近く日本から離れることによって、英語の語学力をあげると考えたため。また、海外へ留学を考えていたが、具体的なイメージがわからなかったため、この研修を通して海外の大学の雰囲気味わえると考えたから。加えて、ホームステイということもあり、日本と違う生活を体験する良い機会だと考えた。
- ・英語会話力の向上
- ・英語力を向上させるためと、海外の文化などに直接触れて勉強したいと思ったから。
- ・英語の上達
- ・以前から海外留学に興味を持っており、海外の大学や学習環境などを体験してみたいと感じたから。
- ・英会話力向上。英語圏で生活してみたい。英語圏の人と関わってみたい
- ・異文化に触れ、また、外から見た日本を知りたい
- ・日常と違う世界で視野を広げたい、自立したい
- ・日常英語のスピーキング力向上、英語圏での生活、春休みの有効活用

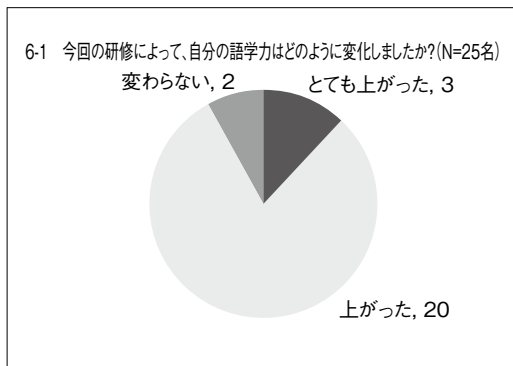
Q5 英語の授業（特別講義以外）を受講した感想を教えてください。

- ・どのような内容の授業が行われるのか事前に知りたかった。活発にディスカッションが行われ、双方向かつ否定しない授業が新鮮だった。
- ・私のクラスは課題も多く、リンカーン大学の学習システムのサイトも難しく大変であったが、とても楽しく充実した時間だった。特に writing のスキルが上達したと感じる。
- ・スピードはやくて必死に勉強できてよかった
- ・グループワークが楽しかった
- ・IELTS に基づく授業形態で、進め方に違和感なく受講できました。
- ・全て英語で行われる授業に不安もあったが、日本語を介さない英語の学習法を知ることができ、有意義なものであった
- ・最初は先生の言うことを理解するのがとても大変だったが、やっていくうちに英語で文章を読み書きや話す楽しさを感じることができた。
- ・ライティングの授業が難しく、まだまだ勉強する必要があると感じた。
- ・グループワークの際に、自分の意見を伝えることは難しかったですが、他の方々と協力して課題をクリアできて楽しかったです。

- ・初めは常に英語の環境に慣れず、聞くので精一杯だったが、だんだん慣れ聞き取れるようになり、楽しく授業ができた。
- ・日本の授業と異なり自分たちでディスカッションしたり積極的に発言したりすることがとても新鮮で楽しく授業に参加することができた。
- ・アカデミックな事を専門的に学ぶことができ、大変参考になった。
- ・全ての会話が英語といった授業はほとんどしたことがなく、初日は聞き取るだけで精一杯だったが、クラスにはさまざまな国から来た人がいて、グループでディスカッションをする際には様々な人とコミュニケーションを取ることができ、英語だけでなくその国の特徴など新たに多くのことを学ぶことができた。
- ・以前 IELTS 取得のために勉強していたため、英語の授業で復習という形だった。仕方ないことだが、日本人が多いため、ニュージーランドで行う必要性があるのかと少し思ってしまった。現地の授業に参加する機会や、現地の学生と交流する機会を増やすと良いのではないかと思った。
- ・奈良にいても海外の方とお話する機会はあるが、日本語の私達に合わせてゆっくり話したり聞く努力をしてくれていることに気づいた。英語圏の国に行って、会話できるレベルになるのは凄く大変なのだと気がついた。
- ・日本の学校で、海外の先生の授業を受けているみたいでした。
- ・レベル別に分けられたことで、自分には高いと感じるレベルだったが、周りの英語を話している姿を見て意欲があがった。四技能に分かれており、何をレベル上げていくのかわかりやすい点も良かったと考える。
- ・日本とは違い英語でコミュニケーションを取ることが必須だったので良い経験になった。
- ・聞き取りに特に苦戦しましたが、回数を重ねるにつれて、聞き取れる内容が増えたと感じました。また、海外の方の英語を直接聞くことができ、訛りなどを含めて学ぶことが多くあり非常に刺激を受けました。
- ・微妙
- ・奈良女生以外の留学生の方々の英語が素晴らしく、自身の英語力、英語の話せなさを身に沁みて感じた。
- ・他の国の教育方法は日本と全く違って新鮮でとても面白かった。自分から発言することの大切さを学べた。また大学等で習ったことなど多少重複していたが、オールイングリッシュだったので、既知の部分と重ねることでより授業が理解しやすくなった
- ・グループワークを通して、自分の考えを英語で説明するのが難しかったが、他の学生からの多様な意見を聞き、自らの意見が変化したりするのが楽しかった。
- ・講義はとても楽しくためになりましたが、クラスがほとんど日本人だったのでどうしても日本語で話す時間が多くなってしまったことが残念だった。
- ・課題に対してすぐに先生からフィードバックが返ってくる体勢がとても良かったです。フレンドリーな方が多かったのも良かったです。

Q 6 今回の研修によって、自分の語学力はどのように変化しましたか？（1つ選ぶ）

- ①とても下がった ②下がった
③変わらない ④上がった
⑤とても上がった



Q 6-2 （Q 6 の回答について）どのようなときにそう感じますか？

- ・脳内での独り言も英語になった時。考えずに英語が話せた時。
- ・英語を話すことに対して抵抗が無くなったことと、なんでもいいから話すようにしようという心持ちになったことから。
- ・英語を話すときのハードルが下がった
- ・グループワークで徐々にコミュニケーションがとれるようになっていった時
- ・日常会話での語彙力の向上を感じたとき。
- ・ホームステイ先でのホストファミリーとの会話で、特に変化したようには思えなかった
- ・自分の言いたいことを英語に変換して考えるのが楽になったり、力を抜いて英語を聞いていると実感したりした時。
- ・ホストファミリーと会話する際に、スムーズに会話をできるようになった時。
- ・ホストファミリーや店員さんと会話したとき
- ・英語で話しかけられたときに、動揺せず答えられるようになったとき
- ・英語を英語で理解する力が自然についたと感じた時。
- ・ライティングのテストで、授業で学んだ単語を用いて回答できたとき。
- ・授業初日は聞き取るだけで精一杯だったが、段々と先生やクラスメイト会話を理解することができ、授業中にも自分がすべきことを把握し、誰にも頼らず授業に参加することができるようになったとき。また、ホストファミリーとも毎日たくさん会話することができ、積極的に会話ができるようになっていった。
- ・ホストファミリーや現地の方々と話すことでスピーキング能力の向上に努めることができたと感じた
- ・道に迷って困った時、自分達の状況を上手く伝えられず、お店の人に頼った事がある。また、英語のガイドを聞いて、もっと理解できたらなという事も何度かあった。気持ち的に、もっと語学力向上に向けて勉強しようというモチベーションになったので、成長できたと思う。
- ・海外の方の話を聞くとときに、前より理解できるようになったと感じました。ただ、英語を話すことにはまだ苦手意識があります。
- ・授業を重ねていく上で、特にライティングにおいて書き方であったり、文章の構築の面でスピー

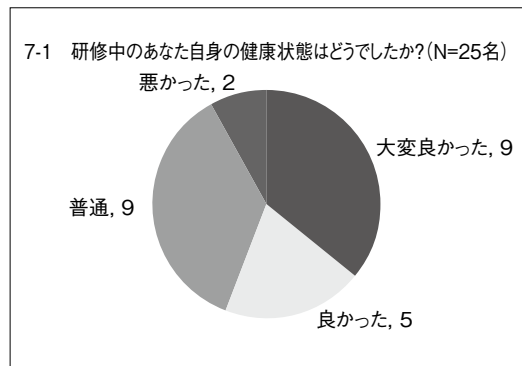
ドが速くなっていると感じた。

- ・最初は何も聞き取れなかったけど帰る頃には少し聞き取れるようになったし返答することができるようになった。
- ・学校では、先生が言っている内容を聞き取れる数が増えたり、ホストファミリーとは会話が続くようになったり、自分の言いたいことを伝えられるようになったとき。
- ・ホームステイで話した時
- ・相手が話していることを聞き取れなかったり、相手の質問を英語でうまく返すことができなかった時。
- ・街中で英語を聞いた時理解力が上がったと感じた
- ・自分の意見を相手に伝えることができた時や相手が自分の意見を理解してくれた時。コミュニケーションが成立した時
- ・最後の方に授業がほぼすべて理解できるようになったとき
- ・英語で頭の中で考えることが時々あったとき。

学習面以外の経験について

Q 7 研修中のあなた自身の健康状態はどうでしたか？（1つ選ぶ）

- ①大変良かった ②良かった ③普通
④悪かった ⑤とても悪かった

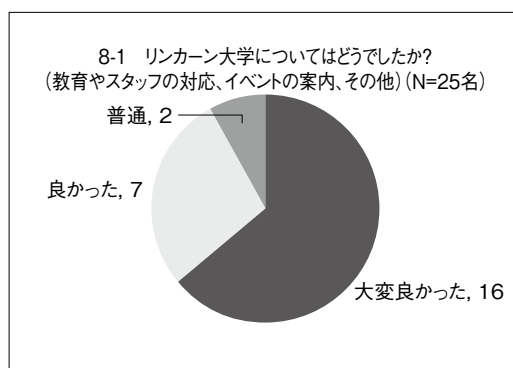


Q 7-2 （7-1 で「悪かった」「大変悪かった」を選択した方）なぜそう思われるのですか？理由をお答えください。

- ・2週間目くらいから喉を痛めていて、一時期声が出ないという状況もあった。
- ・コロナに感染したため

Q 8 リンカーン大学についてはどうでしたか？（教育やスタッフの対応、イベントの案内、その他）（1つ選ぶ）

- ①大変良かった ②良かった ③普通
④悪かった ⑤とても悪かった



Q 8-2 （8-1 の回答について）なぜそう思われるのですか？理由をお答えください。

- ・施設が充実していて、ジムに何度も通いお世話になったから。先生と生徒の距離が近くて親身に相談に乗ってくださったから。
- ・スタッフの方は分からないことがあってもとても親切にしてくれたから。またイベントも新歓の時期で楽しめたから。
- ・開くページをひとりひとり確認してくれたり、難しくないかを頻繁に確認してもらえたから。
- ・もう少し日本人以外との関わりが欲しかった
- ・留学生に対する扱いを熟知されていて、授業内外共に心地よく過ごすことができたからです。
- ・スタッフの方がとても親切に対応してくれたから
- ・ちょうど訪れた時期が新学期だったこともあり、様々なイベントに参加できて楽しかった。先生方も授業以外でもたくさん声をかけて下さり、良い関係を築けた。
- ・学生寮に移らなければならなくなった時、とても気にかけてくださったから。
- ・先生方が話しやすかった。イベントが多く楽しかった。
- ・日本では無いイベントも多くありとても楽しかった。また、先生も凄くわかりやすく明るくおしえてくれるので授業がたのしかった。
- ・みなさんととても気さくで学校に行くのが楽しかったから。
- ・私がコロナに感染した時、リンカーン大学の先生方がとても丁寧に真摯に対応してくださったから。
- ・関わってくださった全ての先生がとても優しく、一人一人丁寧に指導してくださったから。わからないことなどを質問するととても丁寧に対応してくださった。また、施設も充実していて、放課後などを有意義に過ごすことができた。イベントもたくさんあり、Club day では多くの人と話すきっかけにもなった。
- ・親身に相談にのってくださったため。
- ・先生方がとてもフレンドリーで、分からない事はいつでも聞ける環境だった。最後の授業で一緒に写真が撮れて嬉しかった。
- ・スタッフの方はフレンドリーで優しく接してくださったため。また、イベントも沢山あり、授業以外のことも楽しむことができました。

- ・特にオリエンテーションでの説明がわかりやすく、短期間ではあるが、実際に入学したように感じることができた。また、日本にはあまりないウェルカムイベントに実際の学生と同じように参加できたこともとても良かったと考える。
- ・みなさん素敵な方でイベントも楽しかった。
- ・様々なことに関して親身になって聞いてくれたり、教えてくれたから。相談しやすい環境を整えてくれていたと思うから。
- ・授業の質は微妙
- ・とても親切な方が多かったから。
- ・第二言語が英語であることにスタッフの皆さんが理解があった
- ・大学の施設などの設備が整っていた。
- ・すれ違った時に教授がみんな挨拶をしてくださることが日本と違い驚いたから。生徒の名前を教授が覚えてくださっていたから。
- ・不安に思うことが一切なかったくらい大学生活を楽しむことができたから。

Q9 Japan Fiesta 2024 に参加して、発見したことや印象的だったことを教えてください。
(N=25)

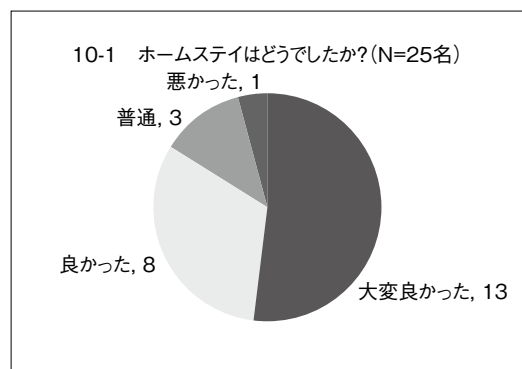
- ・日本文化の海外での受け取られ方がイメージと大きく違い、もっといいところがあるのに！と思う一方、そういう部分に魅力を感じるのか！と新鮮な気持ちになった。子どもたちも多く来ていて、交流するのがとても楽しかった。
- ・日本が好きの方が多く参加していたので、特に折り紙ブースでは私たちに対して日本の好きなところや折り紙について沢山質問してくれたり、リアクションしてくれた方が多く、とても良い雰囲気イベントを進められた。
- ・街で日本ヘイトの人にも会うけど、純粋に日本文化が好きの人がたくさんいて嬉しかった
- ・お昼休みが取れなかったのが少し残念でした。
- ・日本文化がかなり浸透していることと、その年齢層を問わないということです。
- ・海外から見た日本の姿をなんとなくが感じることができた
- ・私は日本文化を体験してもらおう企画をした。不器用ながら教えた時に相手がとても喜んでくれて、もっと話したい・話すことが楽しいと心から感じることができた。想像以上にたくさんの人が会場に来ており、日本文化が国を問わず多くの人に愛されていることを体感した。
- ・日本語を勉強したいという方が多い印象で驚いた。
- ・折り紙や水引きを通じて多くの方と英語で会話できたこと。日本に興味を持っていてくれる方が多く、嬉しかった。
- ・日本について知ってくれている人がとても多いんだと感じた。また、パチンコなど日本にしかないのを知らなかったものもあり面白かった。
- ・ニュージーランドの方たちが日本のことをこんなに興味を持って知ってくれていることに感動し、自分も外国の文化をより尊重できるようになりたいと思った。
- ・たくさんの海外の方が日本文化を体験しよう・知ろうとしてくれていたこと。
- ・イベントに海外の方がたくさん訪れてくれ、日本は注目されているのだな感じた。また日本の文

化を紹介していて海外の方に教えている際にも、たくさん会話をすることができて、非常に楽しかった。日本の文化に興味を持ってくださる方がたくさんいてとても嬉しかった。また日本語で「こんにちは」や「ありがとう」と伝えてくださる方もたくさんいて、日本語を知っている方が多くいて印象的だった。

- ・日本に興味がある方がいることが印象的でした。
- ・ニュージーランドでこんなにも日本文化が人気という事に驚いた。また、水引と一緒にして、喜んでくださったお客さんを見て、準備してきてよかったなと思った。
- ・日本の文化についてよく知り、説明できる力が必要だと感じました。
- ・自分が思っている以上に、日本に興味を持っている方がたくさんいると感じた。また、ニュージーランドに住んで活躍している日本人のかたとも会い、刺激を受けた。
- ・日本を好きな人が沢山いることにびっくりした。日本好きな外国人と話す機会が無かったのでとても良い経験になった。
- ・日本のものが好きな外国人が自分の想像以上にいて、たくさんものに興味を持っていたのが特に印象的でした。自分たちのブースにたくさんの方が訪れてくれて、もっと伝えきれてない日本独自のものなどを伝えられる機会があればいいのではないかと感じました。
- ・自分の英語力は自分が想像以上に良かったこと
- ・たくさんの外国の方が日本の文化に興味を持っていたと感じた。特にアニメに興味を持つ人が多いと思った。自分で日本の文化を説明できるように日本の文化を学んで行きたいと感じた。
- ・日本の文化体験の為に金を払ってまで興味を持ってくれる人が沢山いることへの驚きと自分の国への誇りが持てた
- ・英語で説明するのが難しかったが、楽しんでいる様子や嬉しそうな顔を見ることができとても充実した1日となった。
- ・思ったより多くの方が来てくださった。日本文化を好きな人がたくさんいらしゃった。みなさん喜んでくださって嬉しかった。
- ・案外日本人が多かったこと。

Q 10 ホームステイはどうでしたか？ (1つ選ぶ)

- ①大変良かった ②良かった ③普通
④悪かった ⑤とても悪かった



Q 10-2 ホームステイで良かったこと、悪かったことは何ですか？また、ニュージーランドで生活し、どのようなことを学びましたか？

- ・家庭でも英語を学べたり生活習慣が規則正しくなったこと。ホストファミリーが外に連れ出してくれるタイプではなかったので、自力で行動する力がついた。ご飯がほとんど肉と炭水化物で野菜がなかったこと。一緒にいる時間が思っていたよりも少なかった（上記が理由）、相手のことをよく知ることができなかった。人に干渉しない。ありがとうを言う。環境に配慮した消費。家族が仲良し。時間がゆったりとしている。
- ・良かったこと 家がとても綺麗で、過ごしやすかった。悪かったこと ご飯が合わないことやファストフードが多かったこと。食洗機やルンバなど私が想像していたよりも生活水準が高いという印象だった。バスを降りる時にほとんどの人がお礼を言うところがとても印象に残った。困っていたら見知らぬ人でも声をかけてくれ、優しい方が多かった。
- ・とても親切で、シーツの交換や部屋の掃除、洗濯、ごはん、お菓子までこちらが思ってる以上にやってもらえた。SIM カードや、ツアー申込、その確認もしてくれたり、授業課題を教えるとそれに関連する実物や新聞記事をとっておいてくれて見せてくれたりととても協力的だった。生活してみて、家族に対してもありがとうや、咳やくしゃみ、大きな音を立てた時一回一回謝ることを初めて知った。また、自分たちへは易しい英語で話してくれるけど、家族同士の会話を聞いて、ナチュラルな表現や返し方を学んだ
- ・良かったことは現地の家族と関わりを持てたこと。悪かったことは食事が少し合わなかったこと。言語だけでなく、その国の文化や習慣を肌で感じることができました。
- ・ホストファミリーが語学向上のために頻繁に会話してくださったことです。また、他国からの留学生との交流もあり、宗教や紛争、政治について教えてもらう機会があり、非常に深い学びとなりました。
- ・ホストファミリーが衣食住を補助してくれるというのは、海外での生活に慣れていない私にとって非常に助かった。また、ホストファミリーとの会話のおかげで、朝から晩まで英語に浸ることができた。ニュージーランドは朝の冷え込みがきついため、少し体調が良くないこともあった。気候が体調に与える影響を学んだ。また、自然を大切にしているニュージーランドという国柄を生活から感じることもできた。
- ・食事面では野菜を含めた健康的な食事が提供されたのでありがたかった。ニュージーランドで食べられる家庭料理を食べたり、ホストとニュースやドラマを見たりとホームステイをしたからこそ経験できることが多かったと思う。一方で土足の生活は不便だと感じることもたびたびあった。24 日間生活文化が大きく異なる国の一般家庭に住むという経験は、自分が普段考えない当たり前のことについて考える機会を与えてくれたと思う。
- ・1 人ではなく、家族とのコミュニケーションが取れたこと。生活リズムが異なるので、行動が制限されてしまうこと。
- ・ホストファミリーが料理上手で毎日美味しいご飯が食べられた。旅行にも連れていってもらえた。英語を聞き取ることの難しさを実感した。また、ホストファミリーに聞き返されることも多く、自分の発音を改善していかなければならないこともわかった。
- ・日常の生活で使う英語を知れたのが良かった。日本の生活習慣と違うため少し慣れるのに時間が

- かかった。またニュージーランド独特の訛りがあり、少し英語を聞き取るのが難しいときがあった。
- ・英語を間違えてもホストの方がしっかり聞いてくれ安心して話せた。一緒に出かけようとホストを誘ってみたりして同じ時間を共有することができ、話すのが苦手でも何か話すきっかけを作ることができることを学んだ。
 - ・良かった所：ホストファミリーが優しくしてくださったこと。色々な所に連れて行ってくださったこと。コロナの隔離期間中、私のお世話をしてくださったこと。家事全般を担ってくださったこと。悪かったこと：特になし。ニュージーランドで生活するうえで、同居人に感謝する気持ちが大切であることを学びました。また、水や電気などを節約することも大切だと感じました。そしてなにより、人とのコミュニケーションが一番重要であることを学びました。
 - ・ホームステイ先に留学生は私1人で、最初少し不安もあったが、平日の夕食後や休日に色々なところに連れて行ってくれたので、本当に良かった。ホストファミリーと休日などを過ごすことでより英語を使う機会も増えたので、とても良かった。また、日本では経験することがあまりないホームパーティーにも参加することができ、ホストファミリーの友人など様々な方とコミュニケーションをする機会があって非常に良かった。ホストファミリーの子供ともたくさん話することができて、折り紙を教えたり、ゲームをしたりと自分の英語力の向上につながった。現地に住む人オススメの場所やお店などを紹介してもらうこともできた。ニュージーランドは治安も良く、日本と暮らしが似ている点も多かったので、とても生活しやすかった。ニュージーランドの人は散歩していてすれ違う時に挨拶してくださったり、バスを降りる時に「Thank you」という風潮があり、挨拶や感謝を大事にしている国だと学ぶことができた。
 - ・現地の家族の一員になることができて良かった。悪かったことは特になし。心の豊かさが大事だと学んだ。
 - ・ホストがとても明るく優しく、家に帰るのが楽しかった。料理やテレビ番組など、ニュージーランドの普通の生活を体験できて旅行では感じれない経験をできて良かった。奈良女から2人だったのが少し辛かった。全然知らない人の方が気が楽でした。
 - ・良かったこと シャワーの時間が決められていないこと 洗濯を自由にして良いこと 悪かったこと 野菜が少なく、脂っこい食事 ランチはジャムパン、果物、バー、お菓子などで、甘いものだけの日もあり辛かったです。
 - ・良かった点は、英語で会話する機会を必然的に得られることだと考える。その日何をしたのかや、食べたもの、自分の家族の話など、英語で話すことができ、とても良い時間を過ごせたと考える。悪かった点は、どうしても早く帰らないといけないうことと、宿泊ができない点だと考える。日本のように公共交通機関が多くないことと、最終のバスの時間が早いなど気にしなければならなかった。これらの生活を通して、国による人の違いをととても感じた。生活習慣だけでなく、仕事に対する接し方、家族との時間の使い方など日本とは違う点が多く、とても興味深いつと感じた。
 - ・立地が悪すぎたためにバス停まで30分歩かなきゃならなかったし、バスが1時間に1本でバスの本数も少なくホストに送り迎えて迷惑かけた。ホームステイだと会話をせざるを得ないので英語を自然に話すことが出来た。ニュージーランドの方は自由な方が多く日本みたいに縛られない生活でとても楽しかった。
 - ・良かったことは、英語でコミュニケーションを取れる機会が毎日確保できて英語に触れ続けるこ

とができたことで、悪かったことは、日本人同士の会話は日本語のため、そこも英語で話すように心がけるべきだったことです。日本に比べてさまざまなことが自由な点です。時間に縛られずに生きられていると感じました。

- ・授業より、ホームステイでの会話の方が英語の鍛錬になった
- ・部屋がとても清潔だったことがよかった。ピザ等のジャンクフードが出てくる頻度が高く、胃がしんどかった。ニュージーランドでの生活を通して、日本との違い（食事がワンプレート、靴を脱がない）を理解できた。
- ・他人との家の垣根がなかったことから、すぐ受け入れてくれたのと同時にホームステイの家族以外との関わりを持てた。それに加えて前もって知らない人が家にいることがあり少し驚いた。自分の思っていることを正確に伝えられるぐらいのコミュニケーション力の大切さ
- ・ホストファミリーとボードゲームを楽しんだこと。食事がもう少し寛容であれば嬉しかった。
- ・ホストファミリーに彼氏さんがいらっしゃることを事前に知らされていなかった上に、カップルはリビングで寝ていたので朝と夜リビングに非常に行きにくく、朝ごはんも自分の食べたい時間に作りにいけなかった。次回からは同居人がいる場合は必ず事前に報告するようにホームステイコーディネーターに言っていただきたい。郷に入っては郷に従えを学んだ。悪いように捉えるのではなくそういうものだとして受け入れていくことも生きる上では大切だと学んだ。
- ・ホームステイ先の子どもたちと仲良くなって毎日ずっと遊んでいたこと！毎日明るく見送ったり、出迎えてくれるのでずっと楽しかったです。一緒に映画を見たり、ヘアアレンジしたり好きなcelebrityについて話したりと本当に毎日幸せでした！大好きだし、また泊まりにおいでと言ってくれたので何年後かに行きたいと思います！ニュージーランドで生活して、食生活や学校生活、休日の過ごし方などが日本と大きく違っていることに驚き、たくさんのことを学びました。

Q 11 本プログラムに参加して、あなたが学んだこと、感じたことは何ですか？また、この経験を今後どのように活かしていきたいですか？

- ・実際に暮らしてみてニュージーランドの居心地の良さを知りました。私は本プログラムに参加するにあたって、英語力の向上と共にどこでも自力で生活できる自信をつけるという目標を設定しました。結果的に予想以上に英語、生活力に自信がつき、研修に参加してとても良かったと思います。ニュージーランドの良さを感じながらも日本の良さにも改めて気づき、帰国してからの自分の生活や社会の在り方を見直したいと思いました。私は奈良学生ガイドに所属しているため、円滑なコミュニケーションのために今後も英語を上達させる必要があります。研修期間に悔しいと感じたことや仲間の刺激をモチベーションに変えて、一層努力したいです。
- ・英語の授業で、特にwritingのクラスではエッセイの書き方を学ぶことが出来た。構成や文法、単語の使い方を細かく勉強することができた。またニュージーランドの様々な分野で有名なものを知ることができた。ホームステイでは現地の人の暮らしを実際に体験でき、日本の生活との違いを知ることができてよかった。授業やホームステイで、英語力が身に付いたと感じ、自分の意見を上手く話すことが出来ないこともあったが、間違えてもいいから話してみようと思えるようになった。英語学習のモチベーションが高まったと感じる。
- ・行く前は、英語の環境で英語が上手く聞きとれなかったり、話せなかったりして困って勉強しよ

うと思うという予定だったけど、色んなトラブルもあったけど分かる単語で頑張ったら文法や時制がめちゃくちゃでも理解してもらえたり、説明を聞いて分かることを確認して聞き返したり、分からないところも質問していけば理解できて、そんなやりとりみんな付き合ってくれる親切な人ばかりだった。でも、ツアー中のガイドをもっと聞き取れたら楽しいだろうとか、ホストに手紙じゃなくて直接もっと感謝を伝えられたらと思うことがあったので、英語をレベルアップしたいという気持ちになった。

- ・ニュージーランドの大学で実際に授業を受けることで、現地の大学生活を具体的に知ることができました。今後の留学の参考にもしていきたいと感じました。
- ・海外に出たからこそ日本特有の保守的な姿勢を感じました。私は他国との交流に興味があるので、能動的に国外情勢を知る努力をしようと思いました。
- ・海外で生活することに今までは漠然と憧れを感じていたが、この研修で思ったよりも生活することはできると感じた。また、一方通行ではない会話の難しさを感じることができた。まずは聞き取って、自分の考えを話す、さらに質問して会話を広げるという当たり前のことをその場で行うというのは難しいと感じた。同時に非言語コミュニケーションの大切さも学んだ。手振り身振りや声のトーンなどを交えながら会話を行うことで意思が伝えやすくなると感じた。この経験から、私はより多くの国へ行き、その国の人々と話し、いろいろな国を堪能したいと思うようになった。そこで英語力をもっと向上させて、深い話も英語でできるようになりたいと感じた。
- ・ニュージーランドで生活している時は、人と話すことがとてもラフな感じがした。ニュージーランドでは知らない人同士でも、とても楽しそうに話している場面を多く見かけた。また、最初は聞き取ることで精一杯だったがいざ話して自分の英語が通じたことが嬉しかった。これらの経験から英語で自分の意見を言うことに対すら抵抗が減ったと感じた。多くの人と話す中で、もっと英語を話せるようになりたいという気持ちが大きくなっていった。正直この留学は自分にとって挑戦的なものだったが、いざやってみたら最初はできなくても想像以上にできたと思えることがあったので、少しでもやってみたいと感じたことは積極的にやろうと思った。また英語を話すことが楽しいと思う気持ちに自分のスキルがついていかないことが多々あったので、より一層英語学習に力を入れていきたいと思った。
- ・異文化を実際に体験することで、自分の考えにも変化があった。ニュージーランドの自由な考え方を目の当たりにして柔軟な考え方ができるようになった気がする。今後は、日本でも国際的交流活動などを積極的にしていきたいと思う。
- ・英語を聞き取る難しさを実感したので、今後は洋画や洋楽なども活用して日常的に英語を聞く機会を増やしていこうと思う。
- ・今回のプログラムを通して、ニュージーランドの自然についてとても詳しく知るいい機会になったと感じた。また英語に関しても常に英語を聞くことができるので、リスニングの力がついたと感じた。ニュージーランドでの経験を忘れないように、できるだけ英語に触れ、英語力をより向上させることが出来ればいいと考える。また、海外で学ぶことの大切さも知れたので、機会があればワーキングホリデーもいつてみたいと感じた。
- ・外国に行ったからといって自分の本質が変わるわけではありませんが自分なりのコミュニケーションの取り方があることを学びました。また、ニュージーランドの人たちと実際に話したり文

化を知ったりして普段日本で自分が気にしていることがすごくどうでも良いことに感じ、同時に自然と自分の視野が広がったことを感じました。この経験を通して英語をさらに勉強し様々な国に行って自分の考え方をブラッシュアップしていきたいと思います。

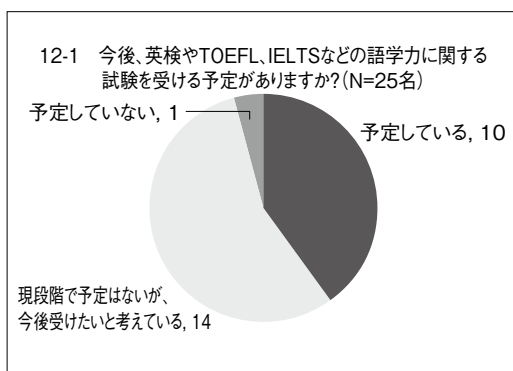
- ・このプログラムを通して、英語でのコミュニケーションの大切さを学びました。自分の気持ちを伝えることはもちろん、日々の何気ない会話も英語ができなければ成り立たないからです。また、他の奈良女生を見ていて、英語が不完全であっても会話しよう・仲良くなろうという気持ちをもって積極的に話すことが大切なのだと感じました。このプログラムに参加したことで、英語の学習意欲が増したように思います。この研修で得た経験を糧に英語学習を進めていきたいです。
- ・実際に英語で授業を受けたり、ホームステイをしたりと海外旅行や日本の授業だけでは学ぶことができないことを経験することができた。また今回のプログラムの中に Japan festa が含まれていて、海外の方に日本の文化を紹介するといった貴重な経験をすることもできた。海外で生活するうえで、自分の伝えたいことをその時に持っている自分の知識だけを使ってどのように伝えたらよいか、を考えることができるようになった。また、今までは間違えていたら恥ずかしいと発言しなかったことがあったが、たとえ間違えていても英語で伝える努力をすることが大切だと学ぶことができた。アルバイトをしていて海外のお客さんが来ることも多いので、その時に翻訳を利用せずに積極的に英語を使って対応していきたい。また近年は英語が重要視されているので、今回のプログラムをきっかけにさらに自分の英語力向上のために勉強を続け、将来的には海外で仕事を出来るくらいに英語力を身につけたい。
- ・英語力をもっと向上させる必要性を感じたため、交換留学までに向上させる。
- ・大学の授業では全然知らなかった英語の知識が増えてよかった。また、日本の授業とは違い、授業中に自分から声を発するので、この積極性が語学力向上に通ずるのかなと思った。上手く店員さんとコミュニケーションが取れなくて、no English girl と言われたので、これからも英語の勉強を続けて、また海外でリベンジしたいと思った。
- ・自分から行動すること。興味のあることには進んで行動していきたいと思います。
- ・短い期間だったが、海外での生活を体感し、人の過ごし方など日本との違いを知ることができた。特に、他の国の大学生の姿を通して自分がこれから何をしていきたいのか改めて考える良い機会となった。自分の目標を明確にして、交換留学や海外の大学院に進学するなど深く考えていこうと考えた。
- ・色々な国の方と一緒に英語を学び他の国の文化も知ることが出来たし、ホームステイを通してニュージーランドの家族の生活を知ることが出来た。帰国後外国人に積極的に話しかけることができるようになった。
- ・日本だけの価値観だけでは駄目であることです。初めての海外でしたが、ニュージーランドの特徴というものを肌で感じる事ができました。様々な国の価値観などを理解することで自分の視野というのも広がると思うので、海外に行ける機会があるのなら行きたいです。
- ・公共交通機関の不便な国で暮らすのは大変だと感じた
- ・自分の英語、特にスピーキングができていないことを実感した。英語学習に力を入れて話せるようになりたいと感じた。
- ・前の質問と少し重なるが、自分の思っていることを正確に伝える必要性をとっても感じた また、

自分がもう一段上の英語力をつける為に足りないものも見つけた。フィーリングである程度はお互い伝わるが、圧倒的に自分の英語力の無さは痛感した。会話を続けたり、ネイティブの友達を作る為には、それに加えて相手の言っていることを正確に理解したり、相手に興味を持ったり、相手の国の背景、自分の国の知識などいろいろ結びつけて話を広げる力がいると思った

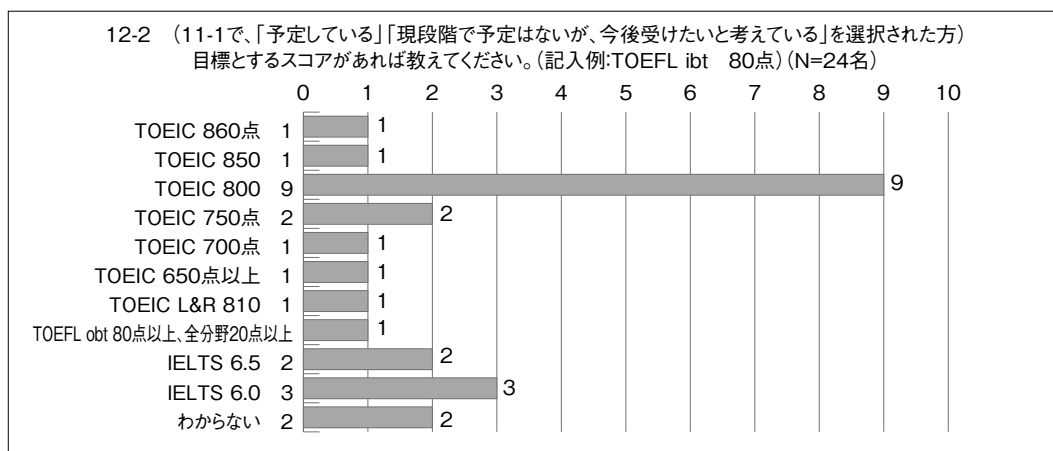
- ・異文化に多く触れ、とても良い経験となった。特に、ニュージーランドの人々のゆるやかな生活や自然豊かな風土が印象に残った。そして、人々の性格が異なることと生活が異なることが表裏一体となっていることに改めて気がつき、それぞれの長所や短所に気づくことができる良い機会となった。また、外から見た日本は、富士山やお寺などの古風なものに限らずアニメなどの現代的なイメージも広く定着していることを知り面白いと感じた。
- ・どの国でも困った時は周りに頼れば、共通してみんな助けてくれるということ。しかし、日本は高分派社会なので表情、仕草や雰囲気、距離から相手の気持ちを慮ろうとするが、海外では口に出さないと伝わらないことが多いので、国や文化の違いをよく知ることでもどの国でも大きな不自由なく生きていけると感じた。今後もっとたくさんの国に生き、人々の価値観や文化を学び、視野を広げていきたい。
- ・漠然と海外で生活したり働いてみたいと思っていたのですが、今回のプログラムを通してその目標が明確になってきました。リンカーン大学の大学生たちもすごくフレンドリーで、すぐに友達になったり仲間に入れてくれるのでとてもその雰囲気が気に入りました。自分のバックグラウンドを全く知らない人たちと暮らしたり出会うのは新鮮で、心地よかったです！洋画や洋楽が好きで奈良女に同じ趣味を持っている子が少なかったなのでその趣味について沢山話すことができたのもいい思い出です。英語を専攻する予定はないけれど、これからも海外の友達と定期的に電話したりして英語のスピーキング力の持続と向上に努めたいと思います！

Q 12 今後、英検や TOEFL、IELTS などの語学力に関する試験を受ける予定がありますか？

- ① 予定している
- ② 現段階で予定はないが、今後受けたいと考えている
- ③ 予定していない

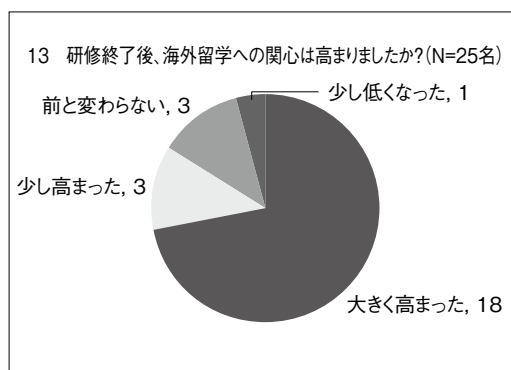


Q 12-2 (12-1 で、「予定している」「現段階で予定はないが、今後受けたと考えている」を選択された方) 目標とするスコアがあれば教えてください。(記入例: TOEFL ibt 80 点)



Q 13 研修終了後、海外留学への関心は高まりましたか？

- ①大きく高まった ②少し高まった
③前と変わらない ④少し低くなった
⑤大きく低くなった



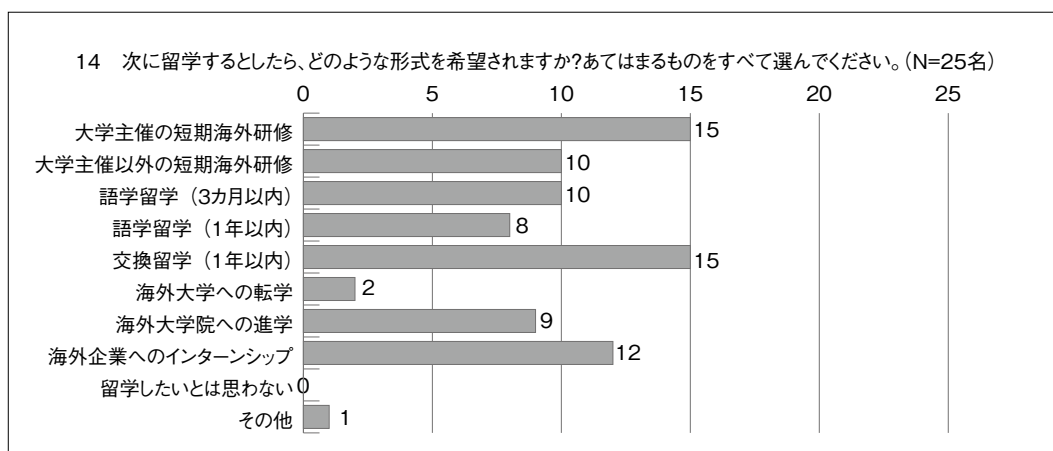
Q 13-2 (13-1 の回答について) なぜそう思われるのですか？その理由についてお答えください。

- ・文化の違いが刺激的で楽しかったから。
- ・実際に海外に留学し、異文化に触れることができたから。
- ・英語を勉強するのはもちろん文化や人々にも触れて観光とは違うディープな部分を学びたいと思ったから。
- ・交換留学に興味を持つことができた。
- ・実際に生活してみて、期間に物足りなさを感じたからです。
- ・日本にはない自然や文化に触れて、日本にとどまっていたは見えてこないものがあると感じたから。
- ・海外で生活することはとても刺激的だと感じた。やはり英語に関しては実際に使うことが1番身につく方法だと実感した。
- ・自分でも意外と海外で楽しく生活できるのだとわかったから。
- ・海外での生活が楽しかったから。まだまだ英会話がたどたどしいので、もっとすらすらと話せるようになりたいと思う。

- ・日本で学ぶ英語と海外で話されている英語は違うことが多く、実際に行ってみないと分からないことが沢山あると感じたため。
- ・もっと色々な国に行って様々な考え方や文化を知りたいと思ったから。
- ・海外留学でしか得られない事を数多く体験したから。
- ・3週間という短い期間で自分の英語力が向上したと実感することが多かったから。特に海外で生活することでリスニング力とスピーキング力が非常に身についたから。
- ・交換留学を行う予定のため。
- ・海外の大学のスタイルが凄く素敵だと思った。
- ・以前から興味があったが、それが高くなったり低くなったりすることはなかったため。
- ・具体的な海外の大学のイメージができたため、自分が前に思ってたより気楽に挑戦しても良いと感じたから。
- ・海外で勉強の方が刺激が多くて日本で勉強するより忙しいし辛いだろうけど充実した日々を過ごせそうだと感じたから。
- ・他の国の文化や言語も直接現地に行き学びたいと思ったから。また、自分の視野を広げるためにも行きたいと思う。
- ・特にない
- ・自分自身の英語、スピーキング能力を高めてたくさんの人と意思疎通を図れるようになりたいと感じたから。
- ・周りの人のモチベーションの高さに影響された
- ・ニュージーランド以外の様々な国の文化にもたくさん触れたいと感じたから。
- ・どの面からしても日本が1番暮らしやすいとしみじみと感じたから。
- ・帰りの飛行機でどこに行こうか計画を練るくらい日本以外での生活が楽しかったから。

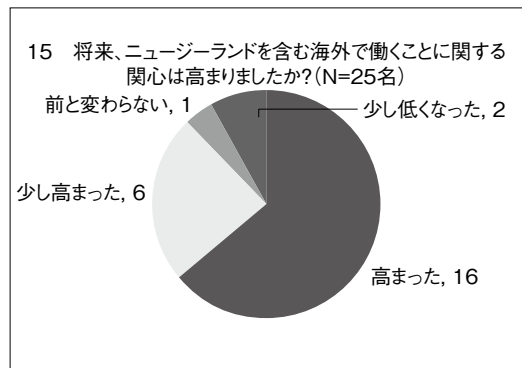
Q 14 次に留学するとしたら、どのような形式を希望されますか？ あてはまるものをすべて選んでください。

- ①大学主催の短期海外研修 ②大学主催以外の短期海外研修 ③語学留学（3カ月以内）
④語学留学（1年以内） ⑤交換留学（1年以内） ⑥海外大学への転学 ⑦海外大学院への進学
⑧海外企業へのインターンシップ ⑨留学したいとは思わない ⑩その他



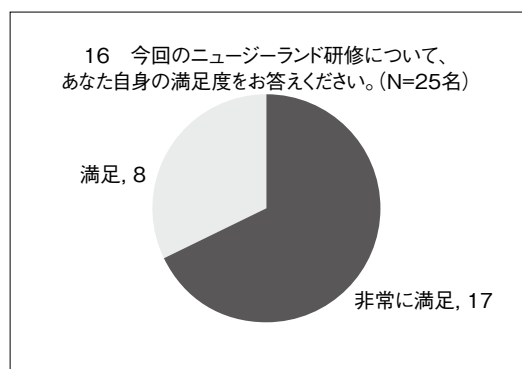
Q 15 将来、ニュージーランドを含む海外で働くことに関する関心は高まりましたか？(1つ選ぶ)

- ①高まった ②少し高まった
③前と変わらない ④少し低くなった
⑤低くなった



Q 16 今回のニュージーランド研修について、あなた自身の満足度をお答えください。(1つ選ぶ)

- ①非常に満足 ②満足 ③普通 ④不満
⑤非常に不満



Q 17 その他、今回の研修について、個人的な感想や意見があれば記入してください。

- ・ ないです。
- ・ 初めは海外留学に対して不安な気持ちもあったが、研修が終わった今、参加してみて自分にとってとても貴重な経験になったと思う。また、様々な国の留学生とも交流する機会があり、グローバルな視点が身についたと感じた。
- ・ 事前手続きや空港での手続き等とても詳細にサポートしてもらえてほぼ何も考えず書いてある通りにやって導かれるままに移動できてとても安心でした。
- ・ 大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・ 食事の衛生面に関して、日本とは考え方が異なる部分もあるので事前に調べておく方がいいと思いました。
- ・ とても楽しく英語に触れることができました。ぜひこの研修を続けてほしいです。
- ・ ジャパンフェスへの出店は大学主催の留学だったからこそできた経験だったので、参加できてよかった。自由な時間が多い分、自分たちでどこにどうやっていくのかを考えて実行する行動力がついた。
- ・ 今回の留学がきっかけで、自分でも知らなかった自分に出会うことができました！本当に楽しかったです。

- ・奈良女の友達とばかり話しすぎてしまったので、もっと他の方々と関われたら良かったと思う。
- ・ニュージーランドは治安もよく、優しい人が多かったのととても過ごしやすかった。また、機会があれば行きたい。
- ・この時期であれば夏服は少なめでいいと感じた。
- ・研修とは直接関係ありませんが、コロナ期間中は大変お世話になり、ありがとうございました。
- ・今回の研修を通して、スピーキング力など自分がさらに改善していく必要がある点を実感することができ、さらに英語を学んでいこうという意思が強くなることができ、この研修に参加して良かったと感じた。また授業だけでなくホストファミリーと過ごした時間など全てが、自分にとって一生の思い出で、貴重な経験になった。
- ・特になし
- ・毎日が新鮮で本当に楽しかったです
- ・特にありません。
- ・テスト期間の関係上難しかったが、同じ期間にいた関東学院大学と同じように、一ヶ月間授業を受講したかったと感じた。
- ・クラスに日本人が多かったので、もう少し日本人の割合が少なかったら良かった、
- ・ニュージーランド人だけでなく、日本人の方ともたくさん出会うことができ、自分にとって英語を学ぶモチベーションが高まりました。
- ・特にない
- ・観光に行くところ等を事前にもっと下調べしておけばよかったと感じている
- ・松永先生3週間お忙し中本当にありがとうございました。たくさんご迷惑をお掛けしましたが、迅速に丁寧対応していただき、初めての海外長期生活をとても有意義に終えることができました。私自身の今後の進路についてより明確に判断する経験となりました。重ねてお礼申し上げます。
- ・物価が高くそれがネックであった。
- ・ニュージーランド研修に関わってくださった皆様が、個人的なお願ひにも非常に手厚くサポートしてくださり、大きな不安や心配なく研修に参加することができました。ありがとうございました。
- ・ニュージーランド大好き!!! 貴重な場を提供していただき本当にありがとうございました!!!

2.1. 夏休み Nara ISC 研修

■ 研修概要

夏休みに国際戦略センター（Nara ISC）主催の研修として、奈良女子大学と奈良教育大学合同で2つの渡航型研修を実施した。オーストラリア研修へは奈良女子大学から19名、奈良教育大11名の計30名。ハワイ研修へは、奈良女子大学から8名、奈良教育大7名の計15名が参加した。

また、奈良女子大学生のみ対象に、キャリアデザインゼミナールB「国際チャレンジ活動」として単位を認定した。

各研修の詳細は以下のとおりである。

①オーストラリア研修

研修期間：2023年8月26日（土）～9月4日（月）（10日間）

参加学生の内訳：

【所属】

所 属	人数（名）
文学部 1 回生	2
文学部 言語文化学科 3 回生	1
文学部 言語文化学科 4 回生	1
文学部 人間科学科 3 回生	1
理学部 生物科学コース 2 回生	1
理学部 環境科学コース 1 回生	1
理学部 物理学コース 2 回生	1
理学部 物理学コース 4 回生	2
生活環境学部 心身健康学科 3 回生	1
生活環境学部 生活文化学科 3 回生	3
生活環境学部 生活文化学科 4 回生	1
生活環境学部 住環境学科 1 回生	1
生活環境学部 住環境学科 4 回生	1
博士前期課程 人間科学専攻 2 回生	1
博士前期課程 化学生物環境学専攻 2 回生	1
奈良教育大学 教育学部	11
合 計	30

②ハワイ研修

研修先：グローバルビレッジハワイ Global Village Hawaii

研修期間：2023年8月27日（日）～9月10日（日）（15日間）

月 日 曜	時 間	内 容
8月27日（日）	午後	関西空港から出発（日付変更線通過）ホノルルに到着
8月28日（月）	午前	オリエンテーション
	午後	アクティビティ （ハワイ SDGs 海洋環境ボランティアプログラム）
8月29日（火）～9月1日（金）	終日	授業
9月2日（土）	終日	アクティビティ（ポリネシアンカルチャーセンター）
9月3日（日）	終日	自由行動
9月4日（月）	終日	Labor Day（祝日）のため授業なし
9月5日（火）～9月8日（金）	終日	授業
9月9日（土）	午前	ホノルル発（日付変更線通過）
9月10日（日）	午後	関西空港に到着

参加学生の内訳：

【所属】

所 属	人数 (名)
理学部化学コース 2 回生	2
理学部数物科学科 1 回生	1
生活環境学部心身健康学科 2 回生	2
生活環境学部食物栄養学科 2 回生	1
工学部工学科 2 回生	1
博士前期課程 2 回生	1
奈良教育大学 教育学部	7
合 計	15

● 事前説明会等

5 月 12 日 (金) 12 : 20 ~ N201 第 1 回説明会 (募集説明会)

配布資料：

- ・ 2023 年夏 Nara ISC 研修概要 (国際戦略センター (以下センター) 作成)
- ・ 2023 年夏 Nara ISC 研修申込書 (センター作成)

7 月 12 日 (水) 17 : 00 ~ オンライン・7 月 13 日 (木) 17 : 00 ~ 国際セミナー室 第 2 回説明会

説明事項：

- ・ 申し込み手続き関係について

配布資料：

- ・ Nara ISC 海外合同研修しおり (センター)
- ・ 短期研修同意書 (センター)
- ・ 国内緊急連絡先 (センター)

8 月 2 日 (水) 17:00 ~ 国際セミナー室 最終説明会

説明事項：

- ・ 出発に際しての最終確認 (集合場所・時間等)
- ・ ESTA 申請について
- ・ 最終諸注意・質問受付

配布資料：

- ・ 英語研修 (ハワイ) しおり (株式会社エイチ・アイ・エス)
- ・ GV ハワイへようこそ 出発準備資料 (株式会社エイチ・アイ・エス)
- ・ ESTA 申請方法 (センター)

● 研修後アンケートの集計結果

※参加者 15 名中、アンケート回答者 12 名

自由記述部分の誤字・脱字については、軽微な修正を行っている。

Q 1 所属大学

全 12 名中、奈良女子大学が 8 名、奈良教育大学が 4 名であった。

Q 2 所属学部・学科・専攻

全 12 名中、文学部が 0 名、理学部が 3 名、生活環境学部が 3 名、工学部が 1 名、博士前期課程が 1 名、奈良教育大学教育学部が 4 名であった。

文学部	理学部	生活環境学部	工学部	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士前期)	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士後期)	計
0 名	3 名	3 名	1 名	1 名	4 名	12 名

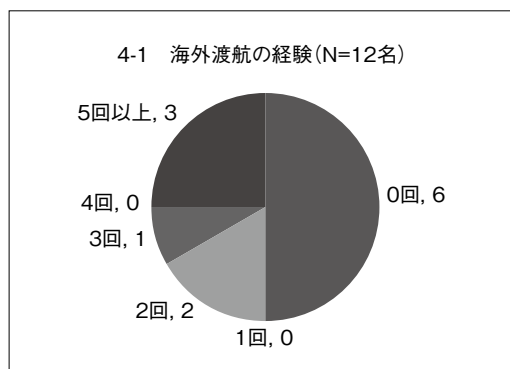
Q 3 学年

全 12 名中、1 年生が 1 名、2 年生が 8 名、3 年生が 1 名、博士前期課程が 1 名であった。

1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	M1	M2	D1	D2	その他	計
1 名	8 名	1 名	1 名	0 名	1 名	0 名	0 名	0 名	12 名

Q 4-1 研修開始前の時点で、海外渡航の経験は何回ありましたか？

全 12 名中、半数以上に渡航経験があった。



Q 4-2 (Q 3 で、1 回以上と回答された方にお聞きします。)

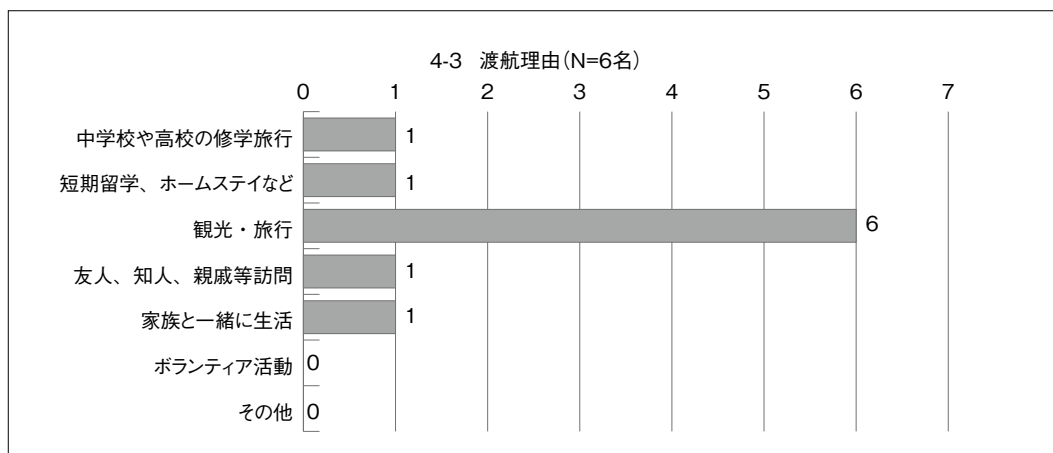
その渡航先は具体的にどこでしたか？国名をすべてお答えください

・アメリカ (3 名) ・台湾 (3 名) ・韓国 (2 名) ・イギリス (2 名)
 ・ベルギー・オランダ・ルクセンブルク・フランス・ドイツ・スイス・ノルウェー・フィンランド・
 ポルトガル・スペイン・ギリシャ・オーストラリア・パラオ・ハワイ・ベトナム・チェコ・オーストリア・中国・フランス

Q 4-3 (Q 4-1 で、1 回以上と回答された方にお聞きします。)

その目的や理由はどのようなものでしたか？ (あてはまるものを**すべて**選ぶ)

- ①高校の修学旅行 ②短期語学留学、ホームステイなど ③観光・旅行 ④友人訪問
⑤家族と一緒に生活 ⑥ボランティア活動 ⑦その他

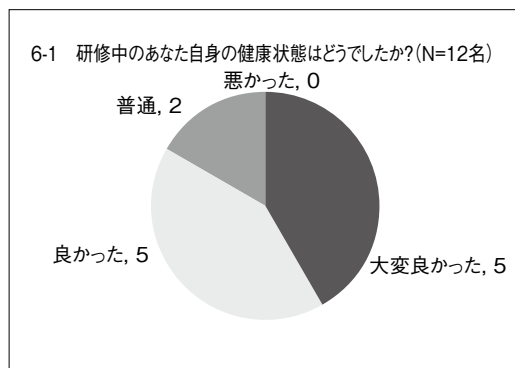


Q 5 今回の Nara ISC 研修 (ハワイ) には、どのような目的で参加されましたか？研修前に考えていたことを教えてください。

- ・語学力向上
- ・英語力の向上、ハワイの文化などを学ぶため
- ・大学で1度は語学研修に参加したいと考えていて、今の英語のレベルを考えた時に、このプログラムの内容のレベルならついていけるかと思ったから。
- ・英語力の向上と海外の友達を作る
- ・より濃い英語の勉強をするため
- ・英語を話すことへのハードルを下げること
- ・実際に海外の人と話すこと
- ・英語を学ぶため。
- ・留学に興味があるが、いきなり長期留学するのはリスクが大きいのので、まずは短期で海外の学校に通ってみたいという思いを実現させること。
- ・語学力の向上
- ・異文化体験
- ・外国人との交流
- ・ハワイならではのことを楽しむ
- ・英語学習、海外の文化の体験、観光
- ・語学力向上

Q 6-1 研修中のあなた自身の健康状態はどうでしたか？（1つ選ぶ）

- ①大変良かった ②良かった ③普通
④悪かった ⑤とても悪かった

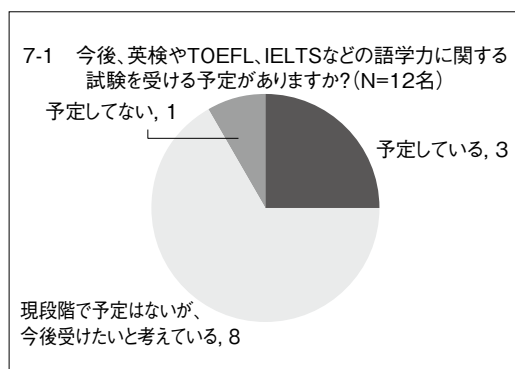


Q 6-2 （6-1 で「悪かった」「大変悪かった」を選択した方）なぜそう思われるのですか？理由をお答えください。

該当者なし

Q 7-1 今後、英検や TOEFL、IELTS などの語学力に関する試験を受ける予定がありますか？

- ①予定している
②現段階で予定はないが、今後受けたいと考えている
③予定していない

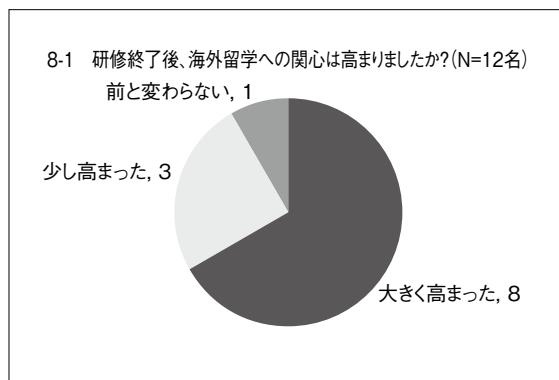


Q 7-2 （7-1 で、「予定している」「現段階で予定はないが、今後受けたいと考えている」を選択された方）目標とするスコアがあれば教えてください。（記入例：TOEFL ibt 80 点）

TOEIC750 点、TOEIC650 点、TOEIC800 点

Q 8 研修終了後、海外留学への関心は高まりましたか？

- ①大きく高まった ②少し高まった
③前と変わらない ④少し低くなった
⑤大きく低くなった

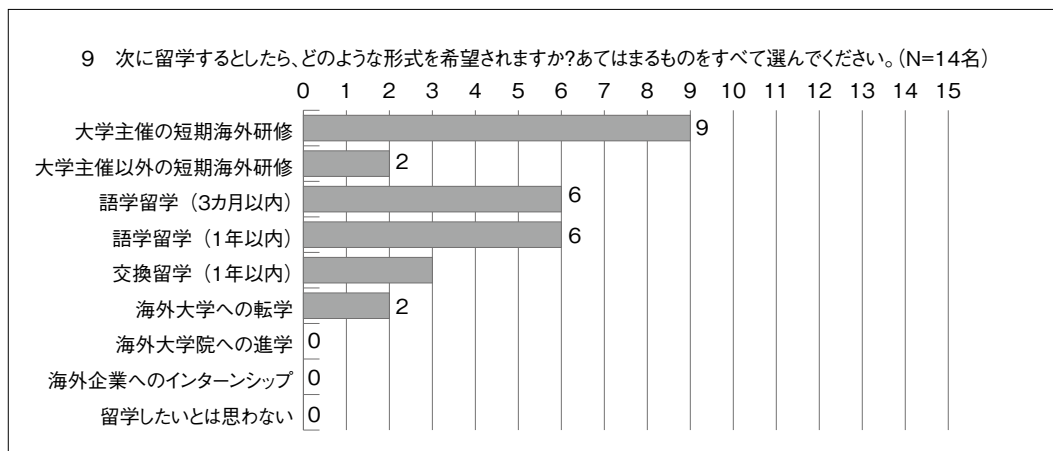


Q 8-2 (8-1 の回答について) なぜそう思われるのですか？その理由についてお答えください。

- ・今回宿泊したホテルが衛生的に悪く、生活する上で日本とは衛生環境が異なることを実感したから。
- ・今回の研修で語学学校に通うことで、さまざまな国から来た幅広い年代の方とコミュニケーションを撮ることができたから
- ・他国の生徒と交流することで、自分の英語レベルの未熟さを実感し、実際に現地で英語を使って過ごす方が、吸収力が大きいと感じたから。
- ・またしたいと思うから。
- ・本当は行きたいけど来年就職するため難しいとも考えている。
- ・海外に行ったことがなかったのでハードルがもっと高いものだと思っていたから。
- ・色々な国の人とお友達になり、自分の世界をもっと広げたいと思ったから。
- ・海外の人たちとコミュニケーションを取るために、英語は必要だと強く感じたから。
- ・予想していたよりも、学校に通っている時間が楽しく、もっと長期間、英語を学び、話せるようになりたいと思ったから。
- ・外国人と話をできて、初めて英語を話すのが楽しいと思ったから。もっと英語を使ってみたいと思ったから。
- ・実際に現地で英語を使ってみて、話しかけてくれる方も多くいてすごく勉強になったから。
- ・すごく有意義な時間だったから。

Q 9 次に留学するとしたら、どのような形式を希望されますか？ あてはまるものをすべて選んでください。

- ①大学主催の短期海外研修 ②大学主催以外の短期海外研修 ③語学留学（3カ月以内）
④語学留学（1年以内） ⑤交換留学（1年以内） ⑥海外大学への転学 ⑦海外大学院への進学
⑧海外企業へのインターンシップ ⑨留学したいとは思わない ⑩その他



Q 10 その他、今回の研修について、個人的な感想や意見があれば記入してください。

- ・その分値段は抑えられたのだろうが、ホテルの衛生環境が良いとは言えなかった。また、HIS に渡されていたしおりと実際の時間が異なる部分が多々あった（1つ目のツアーの観光時間、2つ目のツアーの時間配分、最終日の集合時間、帰りの飛行機の出発時間等）。研修生をみの留学でHISの担当者とすぐに連絡がつくわけではない状態なので、時間や内容の差異に戸惑ってしまう場面が何度あった。次に同様の研修が行われる際は、大学側とHIS様にもう少し連携を取っていただき、研修生の戸惑いが減ることを願います。一方で、ハワイではたくさんのことを学べ、見聞が広がったので参加して良かったです。今回はハワイ研修を実施していただきありがとうございました。
- ・自炊をしようとは試みたものの、実際は、食材を買っても量が多すぎて傷めてしまい、外食やテイクアウトになってしまった。
- ・2週間ハワイにいられたという経験はなかなかできないと思うのでそれはとても良かったです。学校の先生もとても優しく、毎日楽しく学校に通うことができました。ハワイは物価はとても高いけれど景色もきれいで人もフレンドリーで、いるだけで幸せな気持ちになれる所でした。研修の改善してほしいところとしては、2コマ分だけなのはあまりにも短いのもっと勉強できる環境を提供してほしいかったです（第一希望がオーストリアだったので余計ショックでした）。あとは帰国の手続きのやり方などあまりにも説明がなく適当なところもあったので、そこを改善してほしいと思います。
- ・クレジットカードで支払うなら現金はチップ用の1ドル札と非常用（クレジットカードが使えないなど）のお金がいづらかあれば大丈夫だと思った。毎回両替するのは手間だった。
- ・楽しかったです。

2.2. 春休み Nara ISC 研修

■ 研修概要

春休みに国際戦略センター（Nara ISC）主催の研修として、奈良女子大学と奈良教育大学合同で2つの渡航型研修を実施した。カンボジアスタディツアーへは奈良女子大学から5名、奈良教育大4名の計9名。ヨーロッパ研修へは、奈良女子大学から14名、奈良教育大3名の計17名、が参加した。

また、奈良女子大学生のみ対象に、キャリアデザインゼミナールB「国際チャレンジ活動」として単位を認定した。

各研修の詳細は以下のとおりである。

①カンボジアスタディツアー

研修期間：2024年3月7日（木）～3月16日（土）（10日間）

参加学生の内訳：

【所属】

所 属	人数（名）
文学部 1 回生	1
文学部 人文社会学科 2 回生	1
理学部 生物科学コース 2 回生	1
生活環境学部 文化情報学科 1 回生	1
博士前期課程 住環境科学専攻 1 回生	1
奈良教育大学 教育学部	4
合 計	9

②ヨーロッパ研修

研修先：

【第1グループ4名】 パンテオン＝アサス大学（パリ）、ユネスコ本部、OECD本部、欧州議会（歴史博物館）、ユネスコ地域オフィス（ヴェネツィア）、カ・フォスカリ大学（ヴェネツィア）、

【第2グループ13名】 フランス国立図書館、ユネスコ本部、OECD本部、欧州議会（歴史博物館）、ユネスコ地域オフィス（ヴェネツィア）、カ・フォスカリ大学（ヴェネツィア）

研修期間：

【第1グループ4名】2024年3月2日（土）～3月15日（金）（14日間）

月 日 曜	内 容
3月2日（土）	関西空港発
3日（日）	パリ（空港）着
4日（月）	パンテオン＝アサス大学との合同ゼミ
5日（火）	ユネスコ本部（文化多様性条約と日本の現状に関する発表）
6日（水）	OECD本部（人事部より説明、日本人職員との交流）
7日（木）	パリからブリュッセルへ移動
8日（金）	欧州議会（欧州歴史博物館）
9日（土）	カ・フォスカリ大学での発表準備
10日（日）	ヴェネツィアへ移動
11日（月）	カ・フォスカリ大学との合同ゼミ・日本語授業に参加
12日（火）	カ・フォスカリ大学との合同ゼミ・日本語授業に参加
13日（水）	ユネスコ地域オフィス
14日（木）	ヴェネツィア（空港）発
15日（金）	関西空港着

【第2グループ13名】2024年3月4日（月）～3月16日（土）（13日間）

月 日 曜	内 容
3月4日（月）	関西空港発
5日（火）	パリ（空港）着、フランス国立図書館「フランソワ・ミッテラン」
6日（水）	OECD本部（人事部より説明、日本人職員との交流）
7日（木）	ユネスコ本部（ESD課長他、日本人職員との交流）
8日（金）	パリからブリュッセルへ移動
9日（土）	欧州議会（欧州歴史博物館）
10日（日）	ボローニャへ移動
11日（月）	世界遺産（ポルティコ群）見学
12日（火）	ヴェネツィアへ移動
13日（水）	ユネスコ地域オフィス
14日（木）	カ・フォスカリ大学との合同ゼミ・日本語授業に参加
15日（金）	ヴェネツィア（空港）発
16日（土）	関西空港着

参加学生の内訳：

【所属】

所 属	第 1 グループ 人数 (名)	第 2 グループ 人数 (名)
文学部 1 回生		1
文学部人間科学科 2 回生	1	1
文学部言語文化学科 3 回生		1
文学部人文社会学科 3 回生		1
理学部数物科学科 2 回生	1	1
理学部化学生物環境学科 2 回生		2
生活環境学部心身健康学科 2 回生	1	
生活環境学部文化情報学科 2 回生		1
生活環境学部情報衣環境学科 3 回生		2
工学部工学科 1 回生		1
奈良教育大学 教育学部	1	2
合 計	4	13

3.1. 夏休み海外オンライン研修

■ 研修概要

夏休みにオンライン研修を実施し、のべ 35 名が参加した。いずれも、本学の海外留学の基準である 22.5 時間以上（オンラインプログラムの場合、オンラインでの授業が 15 時間以上あれば、自主学習時間を合わせて 22.5 時間）を満たすものであり、新型コロナウイルスの影響により海外渡航が困難な状況においても学生の海外派遣を促進すべく、大学がプログラム費用の 7~8 割を補助することとした。また、キャリアデザインゼミナール B (54)「国際チャレンジ活動」として申請者には単位を認定した。

各研修の詳細は以下のとおりである。

①セブ

提携先：QQ English

期間 A：8 月 28 日（月）～ 9 月 1 日（金）（5 日間）

期間 B：9 月 11 日（月）～ 9 月 15 日（金）（5 日間）

内容：マンツーマンクラス（15 時間）、小グループレッスン（5 時間）、自習（2.5 時間）

参加人数：A12 名、B13 名

②ニュージーランド

提携先：リンカーン大学

期間：8 月 28 日（月）～ 9 月 1 日（金）（5 日間）

内容:会話 (6 時間)、アカデミックライティング (6 時間)、ゲストレクチャー (1 時間)、その他 (2 時間)、自習 (7.5 時間)

参加人数:10 名

③自由枠

提携先:海外にある各教育機関

期間:夏休み中に修了できるもの

条件:15 時間以上のオンラインコース (自主学習時間含めて 22.5 時間以上) で、プログラムの詳細、支払いの記録、修了証明書等の受講した証明が出せるもの

参加人数:4 名

● 研修準備から実施までの日程

6 月 16 日 (金)	募集説明会 12:20~
7 月 6 日 (木)	募集締め切り
7 月 12 日 (水)	結果通知
7 月 12 日 (水) ~	各研修への参加手続き開始
8 月 28 日 (月)	セブ A、ニュージーランド研修開始
9 月 11 日 (月)	セブ B 研修開始

● 研修後アンケートの集計結果

各研修の終了後、参加学生に以下のアンケートを実施した。なお、自由記述部分の誤字・脱字については、軽微な修正を行っている。

①セブ

※参加者 25 名中、アンケート回答者 23 名

あなたの属性について

1-1. 所属学部

文学部	理学部	生活環境学部	工学部	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士前期)	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士後期)	計
10 名	6 名	3 名	2 名	2 名	0 名	23 名

1-2. 学年

1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	M1	M2	D1	D2	その他	計
9 名	8 名	1 名	3 名	1 名	1 名	0 名	0 名	0 名	23 名

参加動機

2－1. オンライン研修に参加しようと思った理由は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。

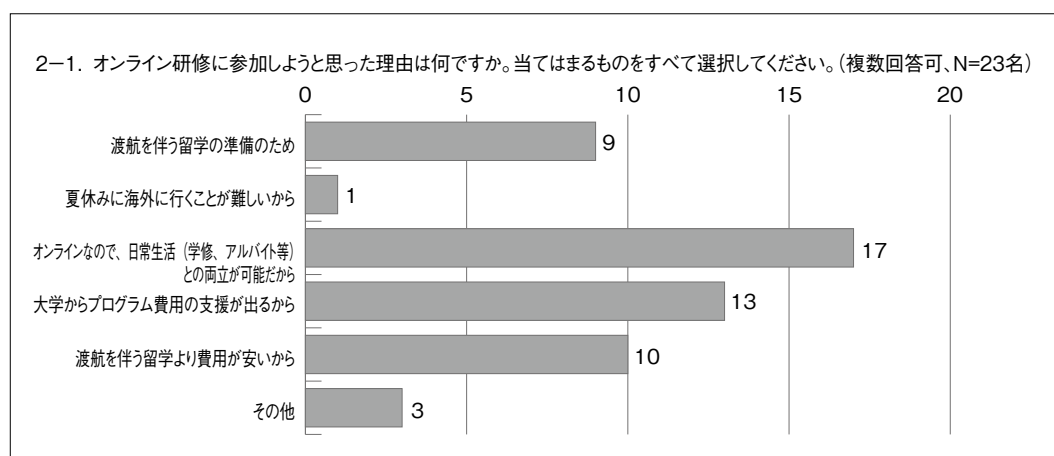
夏休みに海外に行くことが難しいから

オンラインなので、日常生活（学修、アルバイト等）との両立が可能だから

大学からプログラム費用の支援が出るから

渡航を伴う留学より費用が安いから

その他



2－2. 本研修を選んだ理由は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。

英語力を上げたかったから

マンツーマン英会話に興味があったから

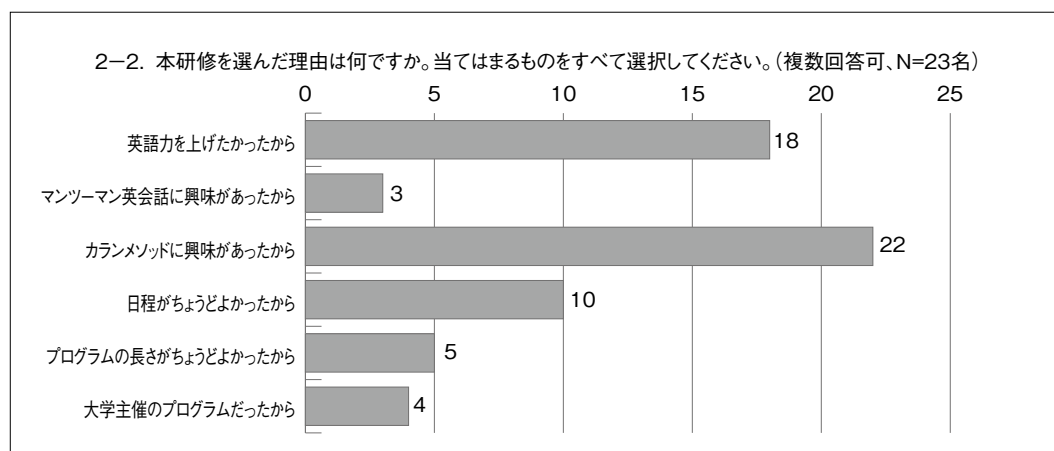
カランメソッドに興味があったから

日程がちょうどよかったから

プログラムの長さがちょうどよかったから

大学主催のプログラムだったから

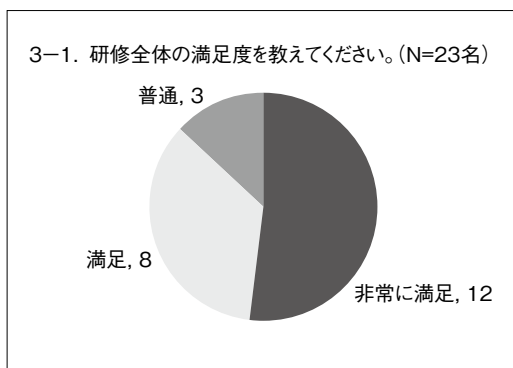
その他



研修評価

3－1. 研修全体の満足度を教えてください。

非常に満足
満足
普通
不満
非常に不満



3－2. (3－1. の回答について) 理由を教えてください。特に良かった内容、良くなかった内容があれば、それについても教えてください。(N=23)

- ・自分の英語力の低下を実感でき、勉強のモチベーションが向上した。また発音を教えてくれ、今までの自分が間違っていたことにも気がつけた。
- ・最初よりも英語で会話することを躊躇わなくなったから。
- ・日常的な会話表現やカランメソッドなど、複数の種類の研修があり広く英語を学ぶことができた。
- ・全てマンツーマンの英語レッスンではなく、グループレッスンがあったのがよかった。英語で苦労しているのは自分だけじゃないと安心できたし、自分ももっと頑張ろうと影響されるきっかけになった。
- ・英語を話して使う機会ができたこと。
- ・英語で世界の飢餓や貧困について考える授業はとてもためになったと思います。自分の意見を英語で主張する場が今まで無かったので非常に勉強になりました。
- ・自分でカリキュラムを選べると良かった。個人的にカランメソッドは合わなかったと思う。
- ・寄り添ってくれる先生もいれば、ミスを笑う先生もいて、個人差が激しかった。
- ・講師の先生方がとても丁寧に教えてくださったので、楽しく授業に参加することができたからです。
- ・ほとんどマンツーマンだったので、日に日に英語が多く聞き取れるようになっていくことが実感できたり、スムーズに会話ができたりして、自分の成長も感じられて楽しかった。
- ・特になし
- ・タイプの異なる英会話講座をみっちり受講したことで、かなり英語に慣れることができ、英会話能力が向上したように思う。
- ・とても楽しかったし、英語の単語を思い出したりわかる単語から意味を知っていったりするスピード感も早くとても勉強になった
- ・話題を広げながら話していただけたので、より実際の会話に近い形で学習できた。グループレッスンでは、上手な方の英語を聴いたり、他の人の意見を理解することで、もっと話せるようになりたいと意欲に繋がった。
- ・実際に英語を使ってコミュニケーションを取る練習をしたことで、英会話が以前よりも少しスムーズ

ズにできるようになったと感じます。マンツーマンレッスンが主だったので、話しやすかったです。グループレッスンには特に緊張しましたが、ほかの人の表現の仕方なども参考になり、良かったです。

- ・基礎文法以外の授業を増やしたほうがいいと思います。
- ・朝から昼までの一週間毎日行う事で、午後に復習できて良かった
- ・ずっと英語でしゃべり続けるというのが貴重な時間で、なおかつ楽しかったため。話しているトピックス（SDGs 関連）の中身というよりは授業形態自体がよかったと思います。ただカランメソッドは心が折れかけました。効果はもちろんあるのですが私には難しかったです。
- ・カランメソッド、SDGs トピックカンバセーションが、英語のスピーキング力向上に役立ったから。
- ・マンツーマン指導
- ・マンツーマンなので英語が出来なくても頑張れたから
- ・授業の構成上、あまり自主的に話すということが少なかったで、少し残念だった。
- ・海外の先生ということもあり、日本語から離れて学ぶことができ、英語で考えて英語で喋ることができたと感じたから。
- ・日常会話や、環境問題などをテーマにした会話、グループレッスンなどがバランスよくあったのが良かった。

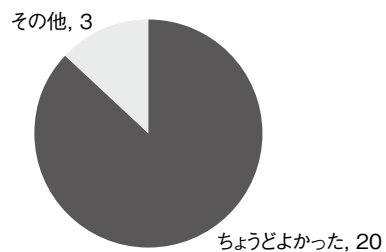
3-3. 研修期間（5日間）と時間数（3時間/日）について、どう思いますか？「その他」を選択された場合は、○日×○時間という形で、ちょうど良いと思われる期間と時間数をご記入ください。

ちょうどよかった

その他

- ・その他 3日×4時間、2日×3時間（SDGs Topic Conversation の調べもので結構時間を使うので）、5日×3時間、短い

3-3. 研修期間(5日間)と時間数(5時間/日)について、どう思いますか?(N=23名)



4. 今回の研修全体の感想を教えてください。また、要望や質問についても、あればご記入ください。

- ・マンツーマンということで緊張していたが、始めると5日間が一瞬で非常に受講してよかったと思う。一度受講した先生が次の日に再び担当だった時に覚えてくれていたのが嬉しかった。
- ・楽しかったです！！たった5日間でしたが、成長できた5日間だったと思います。
- ・オンラインという形ではありますが初めての留学だったので少し不安がありました。ですが講師の方も丁寧に教えてくださり、有意義な研修になりました。
- ・聞き取れない部分があったら先生がゆっくり話してくれたたり、自分の言いたいことを簡単な英語で言い直してくれ、自分が思っているよりも難しい英語を使う必要がないということが分かった。難しい単語を覚えることも大事だが、自分が言いたいことをできるだけ簡単な英語で簡潔に、相手にわかりやすく伝えることが大切だということが学べた。

- ・英語を実際に使う機会が普段ないため、使うことができ英語力がついたと思う。カランメゾットは初めての勉強法で戸惑ったが、後半の授業日には慣れてきたためまた受講してみたいと思った。
- ・優しく楽しい先生ばかりであつという間に 50 分が過ぎてしまう程集中して英語を話せたと思います。グループレッスンが 1 日のうちに 1 時間あることも他の学生が話す英語を聞けて刺激になり勉強になりました。
- ・このような機会がなければ英会話に挑戦しなかったと思うので、今後も続けてほしい。
- ・授業の時間割は学生が選べるとなると良いと思う。組まれていたクラスはそれぞれのレベル差が大きかった。
- ・私は英語が得意なわけでもないのに、とても不安でしたが、楽しんで参加することができました。また、間違えるのが怖くて英語での発表やプレゼンテーションは苦手だな、と感じていたのですが、今回の研修を通して英語で会話する楽しさや、話してみると英語が正しくなくても意思疎通はできるということが分かり、英語を話すことに対する怖さがあまりなくなりました。そして、今まで以上に英語を話せるようになりたい、もっと勉強を頑張ろう、という気持ちが大きくなりました。今回の研修はとても貴重な経験になりました。参加して本当によかったなと思います。ありがとうございました。
- ・とても楽しかったです。最初は、緊張したけれど、日本語で話しているかのように、英語で会話ができたり、SDGs について勉強出来たり、すごくいい経験になりました。今度は、実際の留学や、もう少し長い期間の研修にも挑戦したいです。
- ・対人で英語のコミュニケーションをとる機会が増え、改めて自身の英語能力と語彙力の低さを感じました。今後も長期的に勉強を続けていきます。
- ・また、日程の変更に対しても迅速な対応をさせていただき、とてもありがたかったです。
- ・予習・復習に、各日 1 時間半程度かけていました。これらの時間を含めると一日中英語に浸かっているような感覚があり、日常の場面でとっさに英語の表現を思いつくこともありました。英語に触れること、英語を話すことに、かなり慣れることができたと思います。
- ・とても楽しい研修で、時間が毎回とても楽しみでした。英語で話すことへの抵抗もだんだん薄れていき、どうにか話そうと思って話すことができたのがよかったです。
- ・カランメゾットのページ数を授業のはじめに言っていただけるとありがたいです。
- ・楽しく英会話の練習が出来ました。機会があったらまた参加したいです。
- ・ない
- ・カランメゾットの教科書を使った正しい授業の受け方についての説明がしっかり説明が欲しかった
- ・とても楽しかったですし、研修に参加してよかったと思いました。オンライン研修ってどうなんだろうと思っていましたが、これはこれでやる価値が絶対あると思います。
- ・質問なのですが、サイトを見るに QQEnglish は普通チケットを購入して自分の好きな時間・先生に授業をしてもらおう形だと思います。学内のオンライン研修でもそのように融通を聞かせて日時を自分で決めることができれば、もっと参加者が増えるだろうと思うのですがそれは難しいのでしょうか。
- ・QQ English の講師の方が優しく、分かりやすく教えてくれて、良かった。また、大学がテキストを貸し出してくれた事もありがたかった。

- ・スケジュールが少し分かりにくい部分はあったが、全体的に、連絡もこまめに送られてきて、スムーズだったので良かった。
- ・間違いを恐れず英語を口に出してみることの重要性を知ることが出来た。今回中止となったオーストラリア研修が第一希望だったため、今回は同年代の人とのグループワークなどが含まれた研修に参加したい
- ・英語が苦手なので研修中はしんどかったですが、この研修でたくさん英語を話すことが出来たので英語への抵抗は減らすことが出来ました。始まる前は不安しかなかったですがやってよかったと思いました。今回は予習をたくさんやってから挑みましたが、予習をしなくても瞬時に内容を理解して上手に喋れるぐらい英語力を上げたいと思いました。
- ・今度機会があれば、もっと自分で話す量を増やしたい
- ・渡航型に参加することができなかったため応募しましたが、研修自体の長さもちょうど良く、内容も現地で実際に受けるものと大きな差を感じませんでした。ただ、実際に対面で話すことにより伝わる感情であったり、発音といった面では現地に行って学びたいと改めて感じました。今回の研修を通して学習したことを実際に現地での研修に活かせるようもっと勉強していこうと改めて感じました。全体を通して大変満足することができました。
- ・大学生になり、ネイティブと会話する機会がかなり減っていたので英会話のトレーニングをしたと思い今回の研修に参加した。マンツーマンレッスンではカランメソッドと自分の意見を言うトレーニングが両方あった点が魅力的だった。グループレッソンは5日間同じメンバーで受講したため徐々に打ち解けていき、活発に意見が出るようになり充実した時間を過ごすことができた。留学のための良い準備になった。
- ・レッスン予定が連絡なしで急に変更になったので、もう少し早く変更を知ることができればありがたい。

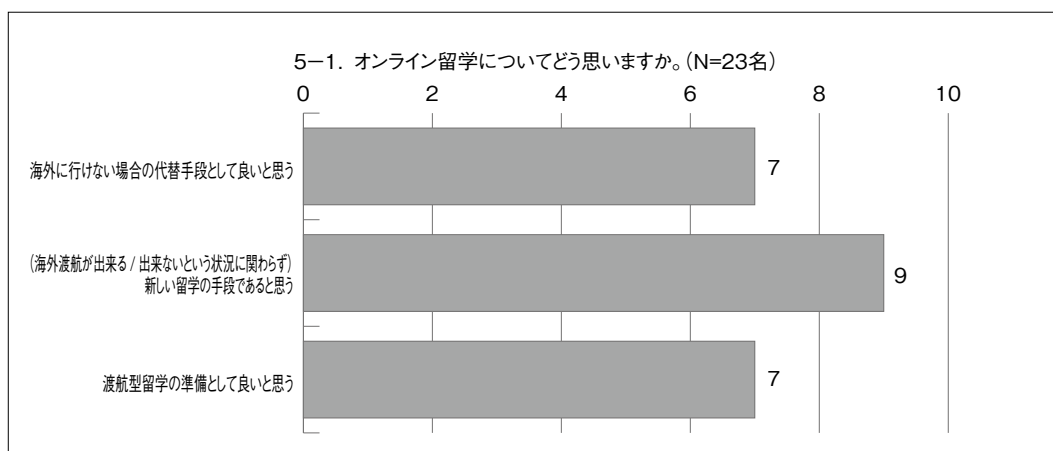
オンライン留学について

5-1. オンライン留学についてどう思いますか。

海外に行けない場合の代替手段として良いと思う

(海外渡航が出来る / 出来ないという状況に関わらず) 新しい留学の手段であると思う

渡航型留学の準備として良いと思う



5-2. オンライン留学（5日間）の費用負担として、どのくらいの金額が適当だと思いますか。

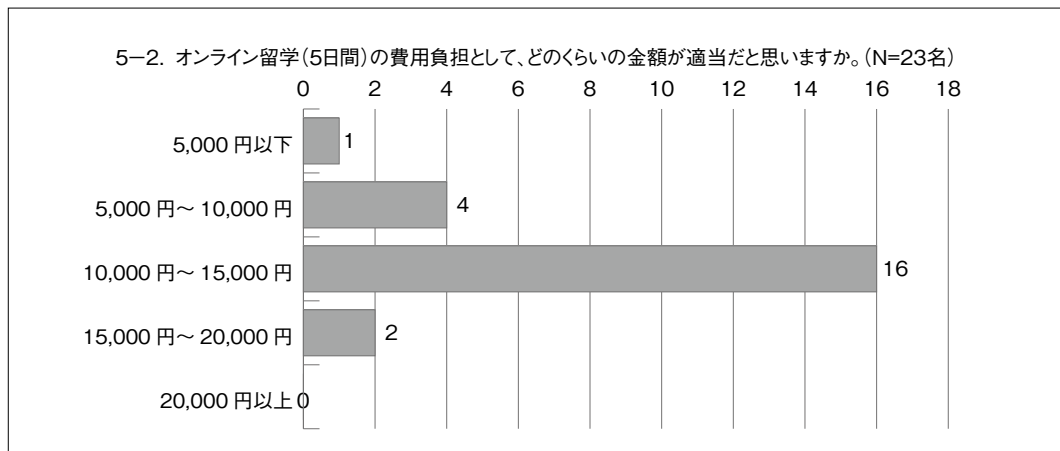
5,000 円以下

5,000 円～ 10,000 円

10,000 円～ 15,000 円

15,000 円～ 20,000 円

20,000 円以上



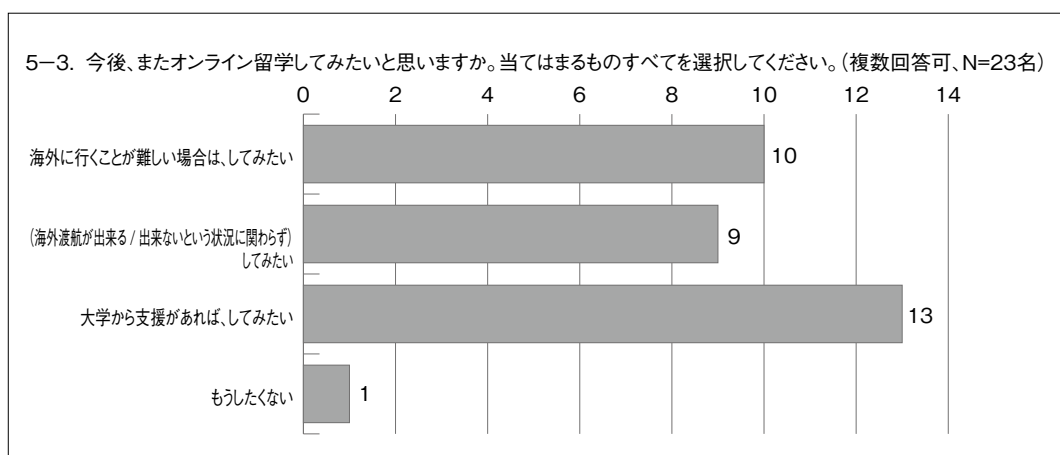
5-3. 今後、またオンライン留学してみたいと思いますか。当てはまるものすべてを選択してください。

海外に行くことが難しい場合は、してみたい

(海外渡航が出来る / 出来ないという状況に関わらず) してみたい

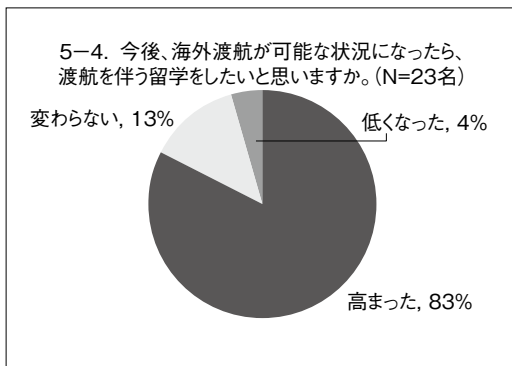
大学から支援があれば、してみたい

もうしたくない



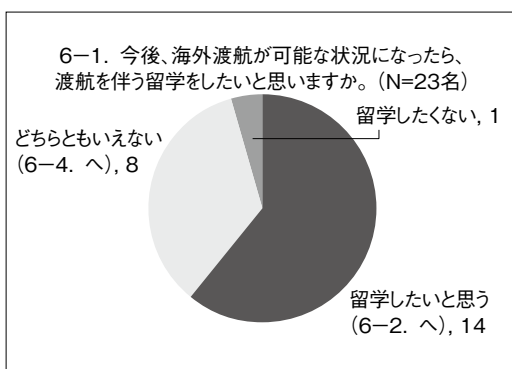
5－4. 今回のオンライン留学参加を通じて、次の留学（海外渡航を伴う留学、オンライン留学等の種類は問わない）への動機は高まりましたか。

高まった
変わらない
低くなった



6－1. 今後、海外渡航が可能な状況になったら、渡航を伴う留学をしたいと思いますか。

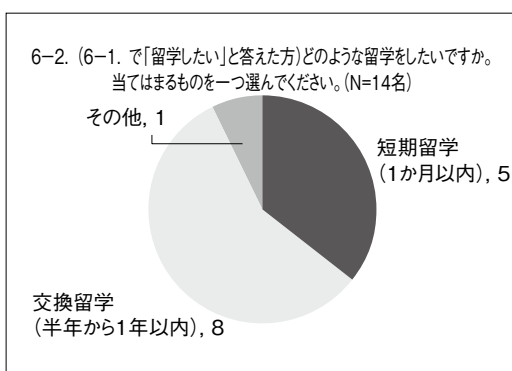
留学したいと思う（6－2. へ）
どちらともいえない（6－4. へ）
留学したくない（6－5. へ）



（6－1. で「留学したいと思う」を選択した 14 名に対して）

6－2. どのような留学をしたいですか。当てはまるものを 1つ 選んでください。

短期留学（1 か月以内）
交換留学（半年から 1 年以内）
私費留学（半年から 1 年以内）
大学院等への学位取得留学
その他
・その他 したい気持ちはあるも、気持ちのみ



6－3. （6－2. の回答に対して）理由を教えてください。

<短期留学（1 か月以内）>

- ・語学留学でなく、学部留学がしたい。
- ・海外の大学で単位を摂ることは出来ないと思うから。

- ・短期の留学では英語学習への意欲を高めることはできるが、英語力の向上という意味ではより長い期間が必要であると思うため。
- ・海外の授業を体験したり、自国との学生生活の違いなどを感じてみるのに適当な期間だと思う。
- ・ある程度の期間海外にすることで語学をより習熟し、学びを深めることが可能であると考えたため。
- ・まだ、長期の留学には少し不安があるので、まずは短期で挑戦したいと思ったから。
- ・特になし
- ・海外で暮らすのは日本とどう違うのか実際に暮らして知ってみたいことと、英語や違う言語で学ぶことは大変だけれど理解したいと思うから。
- ・海外に行って海外の文化に実際に触れてみたいから。長期の留学は短期留学を1度してから行きたいと思います。
- ・大学を長期期間開けるとなると自分の専門分野についての授業に遅れが出てしまうと感じたから
- ・見識をひろめたい、日本以外でも生活できる自信がほしい
- ・海外の大学で学びたい事があるから。
- ・こういった形の留学をするか決めきれているわけではありませんが、言語スキルを高めるとともに専門的な知識も学ぶことを考えると半年以上の留学を希望しているため。
- ・理系学部では、長期留学をすると留年する必要があるため。

(6-1. で「どちらともいえない」を選択した8名に対して)

6-4. (6-1. の回答に対して) 理由を教えてください。

- ・留学をしたい気持ちはあるが来年の春から就職するので時間的に厳しいから。
- ・長期の留学は費用や単位の面で少し難しいと思っていますが、短期の渡航型研修には参加したいと思っているからです。
- ・渡航を伴う留学は、費用・時間共に多くかかるため。卒業まであと一年半のため、就活・卒論等を考えると再び留学をすることは時間的に厳しいと思う。
- ・まだ詳しく調べていないため、不安が強い。
- ・だが、もっと英語と関わる機会は作りたいと思う。
- ・特になし
- ・留学費用が負担になりすぎるから
- ・一人で海外に行くことにまだ抵抗があるから
- ・あまり意欲はないが、やってみたいという気持ちもあるから

(6-1. で「留学したくない」を選択した1名に対して)

6-5. (6-1. の回答に対して) 理由を教えてください。

- ・英会話力のなさを思い知った。留学は難しいと思う。

②ニュージーランド

※参加者 10 名中、アンケート回答者 8 名

あなたの属性について

1－1. 所属学部

文学部	理学部	生活環境学部	工学部	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士前期)	大学院人間文化 総合科学研究科 (博士後期)	計
3 名	4 名	0 名	1 名	0 名	0 名	8 名

1－2. 学年

1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	M1	M2	D1	D2	その他	計
5 名	2 名	0 名	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	8 名

参加動機

2－1. オンライン研修に参加しようと思った理由は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。

渡航を伴う留学の準備のため

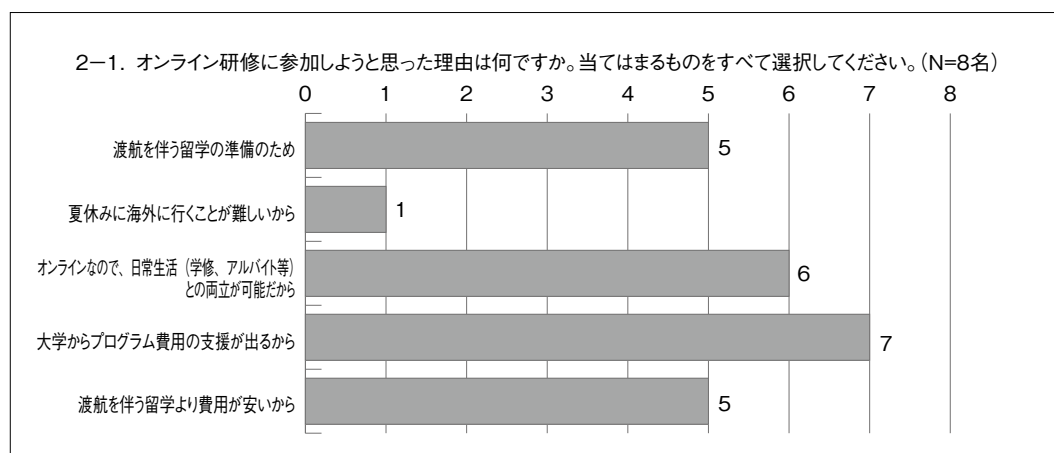
夏休みに海外に行くことが難しいから

オンラインなので、日常生活（学修、アルバイト等）との両立が可能だから

大学からプログラム費用の支援が出るから

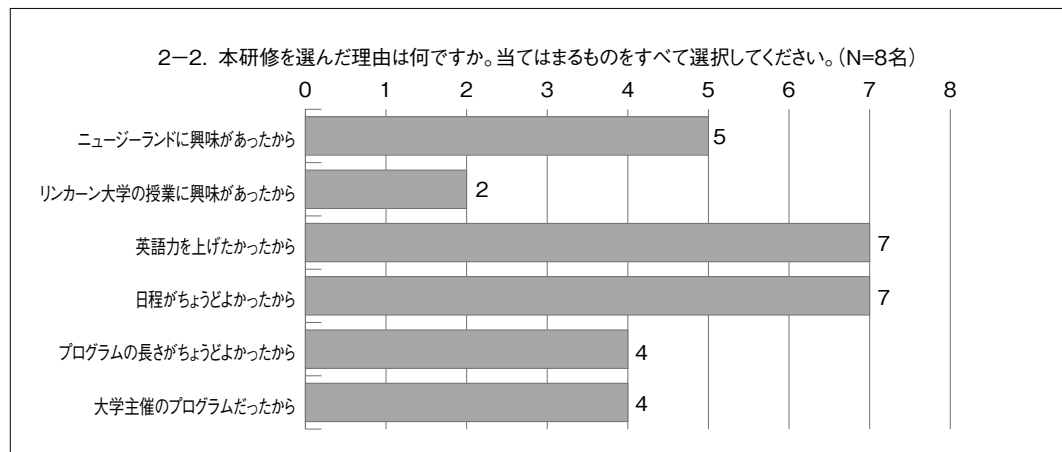
渡航を伴う留学より費用が安いから

その他



2－2. 本研修を選んだ理由は何ですか。当てはまるものをすべて選択してください。

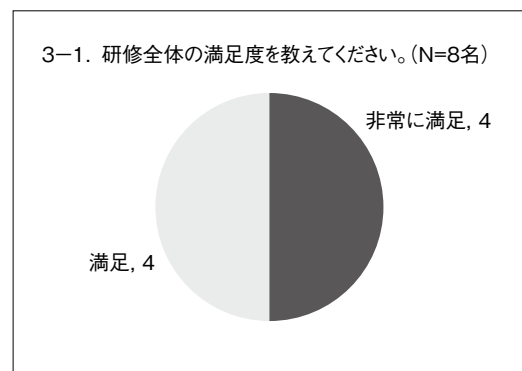
- ニュージーランドに興味があったから
- リンカーン大学の授業に興味があったから
- 英語力を上げたかったから
- 日程がちょうどよかったから
- プログラムの長さがちょうどよかったから
- 大学主催のプログラムだったから
- その他



研修評価

3－1. 研修全体の満足度を教えてください。

- 非常に満足
- 満足
- 普通
- 不満
- 非常に不満



3－2. (3－1. の回答について) 理由を教えてください。特に良かった内容、良くなかった内容があれば、それについても教えてください。(N=8)

- ・スポーツのジェンダーの話面白かったです
- ・アカデミックライティングの訓練という観点では非常に満足できるものであったが、英会話を含むコミュニケーションは全体的に難航していたように思う。パーティのようなテンションで授業を行う先生がおり、少し困惑した。

- ・ライティングに力を入れているプログラムで実際アカデミックライティングについて学ぶことができた。構成からボキャブラリー、文章の雰囲気などどうすれば良いかが理解できた。
- ・英語で長い文章をつくる経験ができたから。アカデミックライティングにふさわしい単語の選び方など、今までにないライティングのコツについて学ぶことができたから。
- ・英語の文章の書き方を、効果的に高められるようなプログラムが立てられていたから。
- ・英語を話す機会が多かった
- ・日本人の先生がいないという状況下において、自分たちでコミュニケーションをとっていかねばならないという緊張感があったから。アカデミックな内容を学べたから。英語で会話やプレゼンを行えたから。
- ・現地の方の生きた英語でアカデミックライティングについて学ぶことができたから

3-3. 研修期間（5日間）と時間数（3時間／日）について、どう思いますか？「その他」を選択された場合は、0日×0時間という形で、ちょうど良いと思われる期間と時間数をご記入ください。（N=8）

ちょうどよかった

その他

「ちょうどよかった」7名

「その他」1名

- ・もう少し長い方が英語が定着したと感じる。

4. 今回の研修全体の感想を教えてください。また、要望や質問についても、あればご記入ください。（N=8）

- ・特になし
- ・参加費の負担額を考えると、費用に見合うどころか想像以上に有意義な研修であったと思う。個人的にはプレゼンテーションも面白かったが、講師の演説を聞くだけの授業も、実際にリンカーン大学の講義を受けているようで、興味深いと感じた。ライティング課題に追われる5日間を経て、技術の向上を感じることができた。
- ・オンライン授業に慣れていなかったため最初は少し緊張しましたが、先生方が話しやすい雰囲気作りや発言するかどうか迷っているときに当ててくださったので、回数を重ねるつれリラックスして受けることができました。それぞれの課題に対するフィードバックも個人個人に書いてくださったり、全体的な傾向として教えてくださったりしてわかりやすかったです。これからも、今回の研修で学んだ書き方を実践していきたいです。
- ・ライティングの講義はとても満足度が高かったが、スピーキングに関しては、もっとマイクをオンにして話しやすい機会が欲しかった。最後ではなくて始めの方にもっとアイスブレイクになるものがあった方がよいと思う。
- ・今回のオンラインの授業で、ライティングやスピーキングの両方を効果的に鍛えることができた。また、今まで自分から積極的に英語を使って会話をしたことがなかったので、今回のような機会

を有効的に活用できてとても良かった。

- ・少し難しかったが楽しかった。実践的に英語を話すきっかけになった。
- ・ニュージーランド研修は初めてでしたが、とても楽しかったです。アカデミックな英語やプレゼン、英会話の学習はもちろんのこと、ニュージーランドという国についても学ぶことができ、とても勉強になりました。次は現地で直接授業を受けてみたいと思いました。
- ・参加者に英語が得意な方が多く、また先生方の話す英語のレベルも自分にとっては高かったため、ついて行くのが大変だったが、生の英語に触れる良い機会になったこの経験を今後の英語学習の糧としていきたい

オンライン留学について

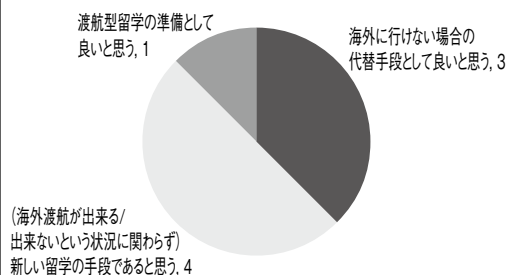
5－1. オンライン留学についてどう思いますか。

海外に行けない場合の代替手段として良いと思う

(海外渡航が出来る / 出来ないという状況に関わらず) 新しい留学の手段であると思う

渡航型留学の準備として良いと思う

5－1. オンライン留学についてどう思いますか。(N=8名)



5－2. オンライン留学(5日間)の費用負担として、どのくらいの金額が適当だと思いますか。

5,000 円以下

5,000 円～ 10,000 円

10,000 円～ 15,000 円

15,000 円～ 20,000 円

20,000 円以上

5－2. オンライン留学(5日間)の費用負担として、どのくらいの金額が適当だと思いますか。(N=8名)



5－3. 今後、またオンライン留学してみたいと思いますか。当てはまるものすべてを選択してください。

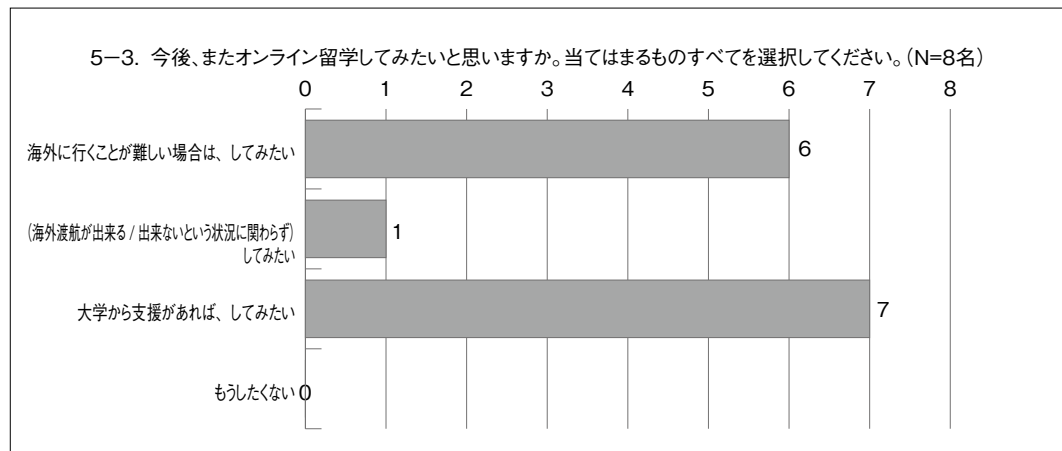
海外に行くことが難しい場合は、してみたい

(海外渡航が出来る / 出来ないという状況に関わらず) してみたい

大学から支援があれば、してみたい

もうしたくない

その他



5－4. 今回のオンライン留学参加を通じて、次の留学（海外渡航を伴う留学、オンライン留学等の種類は問わない）への動機は高まりましたか。

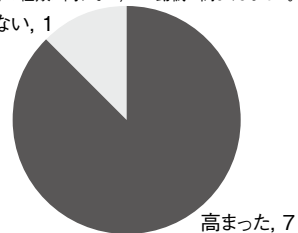
高まった

変わらない

低くなった

5-4. 今回のオンライン留学参加を通じて、次の留学（海外渡航を伴う留学、オンライン留学等の種類は問わない）への動機は高まりましたか。(N=8名)

変わらない, 1



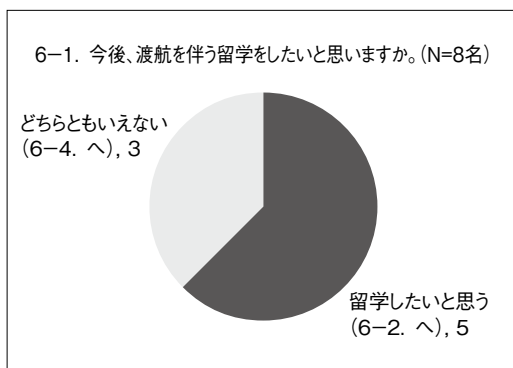
今後の留学について

6-1. 今後、渡航を伴う留学をしたいと思いますか。

留学したいと思う (6-2. へ)

どちらともいえない (6-4. へ)

留学したくない (6-5. へ)



(6-1. で「留学したいと思う」と答えた5名に対して)

6-2. どのような留学をしたいですか。当てはまるものを 1つ 選んでください。

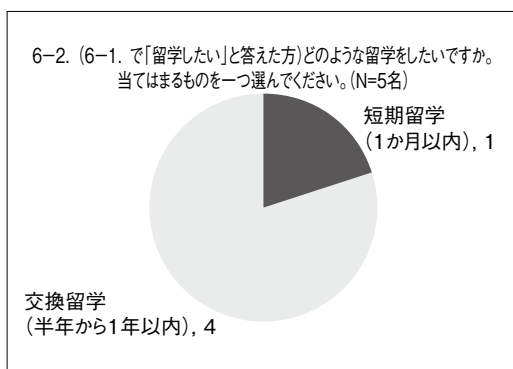
短期留学 (1 か月以内)

交換留学 (半年から1 年以内)

私費留学 (半年から1 年以内)

大学院等への学位取得留学

その他



6-3. (6-2. の回答に対して) 理由を教えてください。(N=5)

(短期留学)

- ・少しでも現地の雰囲気に触れて、英語しか使わない状況に身を置くことは自分のスキルアップにつながると思ったから。

(交換留学)

- ・自分の専門や興味がある分野を、日本より研究が盛んな国で学んだり話し合ったりすることで、それからの自分の選択肢や考え方の幅を広げたい。また、自分が育ってきた価値観とは違う価値観の中で長期間生活してみることで自分がどう感じるかを知りたい。
- ・交換留学なら私費よりも経済的に負担が少ないから。旅行気分ではなくそこに住む、という体験をしたい。
- ・長くないと一時的なものになって定着しないから
- ・単位互換制度があるほか、経済的な負担も減らせると思うから。

(6-1. で「どちらともいえない」を選択した3名に対して)

6-4. (6-1. の回答に対して) 理由を教えてください。(N=3)

- ・時間ない余裕がないため
- ・今回のようなライティング技術の向上を目的とした研修に関しては、リモートでできるのにわざわざ現地に向かう経済的及び時間的余裕がないため、渡航したいとは思わない。一方で、留学目的がコミュニケーション力の改善や研究である場合には必要だと感じる。
- ・渡航してみたい気持ちもあるが、海外には様々なリスクがある上、オンラインでも現地の方と十分交流出来ると思ったから

6-5. (6-1. の回答に対して) 理由を教えてください。

該当者なし

3.2. 春休み海外オンライン研修

■ 研修概要

春休みに国際戦略センター(Nara ISC)主催の研修として、奈良女子大学と奈良教育大学合同でオンライン研修を実施した。奈良女子大学から18名、奈良教育大8名の計26名が参加した。本学の海外留学の基準である22.5時間以上(オンラインプログラムの場合、オンラインでの授業が15時間以上あれば、自主学習時間を合わせて22.5時間)を満たすものであり、新型コロナウイルスの影響により海外渡航が困難な状況においても学生の海外派遣を促進すべく、奈良国立大学機構がプログラム費用の7~8割を補助することとした。

奈良女子大学生のみ対象に、キャリアデザインゼミナールB「国際チャレンジ活動」として申請者には単位を認定した

各研修の詳細は以下のとおりである。

①セブ

提携先: QQ English

期間A: 2024年2月26日(月)~3月1日(金)(5日間)

期間B: 2024年3月18日(月)~3月22日(金)(5日間)

内容: マンツーマンクラス(15時間)、小グループレッスン(5時間)、自習(2.5時間)

参加人数: A17名(奈良女子大学11名、奈良教育大学6名)、B9名(奈良女子大学7名、奈良教育大学2名)

● 研修準備から実施までの日程

月 日 曜	内 容
12月13日(水)	募集説明会
1月5日(金)	募集締め切り
1月11日(木)	結果通知
1月11日(木)～	各研修への参加手続き開始
2月26日(月)	セブA研修開始
3月18日(月)	セブB研修開始

4. 交換留学（派遣）

■ 交換留学（派遣）の概要

奈良女子大学と海外の大学が締結している、授業料等を不徴収とする学生交流協定に基づき、奈良女子大学の学部もしくは大学院に正規生として在学している学生が、在学したまま、海外の協定締結大学に留学する制度。留学先の大学で取得した単位は、本学で認定されれば、互換可能である。なお、本学の交換留学は、JASSOの海外留学支援制度に「New Silk Road Project: グローカル女性リーダー育成プログラム」として採択されている（本年度支援者：4名）。

学生交流協定を結ぶ海外協定校との交換留学制度を利用して、国際感覚を身に付け、自文化の個性を知り、将来日本と世界を舞台に産学官でグローバルに活躍することのできる女性リーダーを育成することを目的としている。

派遣に関しては、本学の教育目標に基づいて、深い専門性を身に付け地域社会・国際社会に貢献できる人材となるべく、自身の専門分野に関する知識を深めると共に、海外生活を通して国際感覚を身に付けることを目的とする。また地域社会への貢献のため、派遣学生は、奈良及び日本文化の伝播者として、留学先でその魅力を紹介するプロジェクトでもある。

● 留学期間について

留学期間は1年以内の1学期または2学期

● 交換留学（派遣）決定までのスケジュール

7月：交換留学生募集開始

10月初め：交換留学生申請期限

10月～11月初め：書類選考及び面接選考

12月～翌年6月：各協定校への出願書類準備 / 各協定校へ出願 / 入学の可否について通知

翌年度：各協定校へ留学開始

● 2023 年度交換留学（派遣）状況

交換留学派遣者数は合計 8 名。

（英国 1 名、韓国 2 名、台湾 2 名、アメリカ 2 名、ベルギー 1 名）

	所属	回生	国・地域	学校種 留学先学校名	留学時期	留学期間
1	博士前期課程 言語文化学専攻	1	アメリカ	ノースカロライナ大学	2023.8 – 2023.12	6 ヶ月未満
2	生活環境学部 生活文化学科	3	アメリカ	ノースカロライナ大学	2023.8 – 2023.12	6 ヶ月未満
3	文学部 人間科学科	3	台湾	台湾大学	2023.8 – 2024.7	1 年
4	文学部 人間科学科	4	ベルギー	ルーヴェン大学	2023.9 – 2024.8	6 ヶ月以上 1 年未満
5	文学部 人間科学科	3	韓国	梨花女子大学	2023.9 – 2024.6	6 ヶ月以上 1 年未満
6	生活環境学部 生活文化学科	3	韓国	梨花女子大学	2023.9 – 2023.12	6 ヶ月未満
7	文学部 人文社会学科	3	台湾	東海大学	2023.9 – 2024.6	6 ヶ月以上 1 年未満
8	博士前期課程 生活文化学専攻	2	英国	レスター大学	2023.9 – 2024.1	6 ヶ月未満

5. 官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」

■ 「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」の概要

官民協働海外留学支援制度である「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」は、日本再興戦略と産業界からの意向を踏まえ、実践的な学びを焦点に、学生の理系分野、複合・融合系分野における留学や、新興国への留学、諸外国のトップレベルの大学等への留学等を支援するプログラムである。国際交流センターは国際課と連携し、本学からこのプログラムを利用して留学する学生を応援し、プランを立てていく段階から細やかな留学相談に乗っている。

■ 2023 年度実績について

● トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムによる海外派遣

● 応募者数、採択者数

15 期生 全国 申請：2 名 採用：1 名

② 採択者の学部 / 研究科、専攻、学年、派遣先国、活動内容、派遣枠

15 期 所属：理学部 化学生物環境学科

回生：4 回生

派遣先国：スウェーデン

活動内容： インターンシップ

コース： STEAM コース

6. 奈良女子大学国際学術交流奨励事業（学生の国際学会等での発表）

■ 国際学術交流奨励事業概要

国際交流センターは、奈良女子大学大学院で学ぶ正規学生が、海外で開催される国際学会で発表する場合、航空運賃を支援する事業を行っている。本学は、国際舞台で活躍する高度専門職業人を育成することを大学の目標の一つにしており、上記事業もこの趣旨に添って国際交流センターが実施しているものである。募集は年3回行い、選考を経て採択された学生には、往復の航空運賃を支給する。

2023年度の採択者数は、第一期0名、第二期1名、第三期0名。

● 採択者詳細

◆第二期採択者

氏名	村山 エミ
所属学部等	大学院人間文化研究科博士前期課程 住環境学専攻 2回生
発表論文名	IIMPACT OF DAYLIGHT CHANGES ON PHYCHOLOGICAL AND PHYSIOLOGICAL ASPECTS OF RESIDENTS IN AN
国際学会等の名称及び概要	APARTMENT BUILDING
開催地	The 30th Quadrennial Session of the CIE
開催期間	参加・ポスターセッション
開催地	スロベニア・リュブリャナ
開催期間	2023年9月15日～2023年9月23日

◆発表概要

日照問題は長きにわたって議論の対象とされてきた一方で、近接する建物による日照条件の変化やそれに伴う周辺環境の変化は通風や温湿度、プライバシーなど多岐にわたり影響を及ぼすことから、これら複合的な観点で評価を行った研究は多くない。そのため、今回発表した研究では、集合住宅における日照量の変化が居住者の心理生理面にどのような影響を及ぼすのか、生理量、心理量、物理量の測定をもとに分析を行い、明らかにすることを目的とし実験を行った。

本研究では、既存の7階建てマンションの南面に近接した土地における8階建てマンションの建設により、実際に日照が遮られることが予想される状況下にて、7階建てマンションの居住者を

対象とした被験者実験を行った。本研究の実験はマンション建設初期から並行して行われ、2022年4～5月（春）、7～8月（夏）、12月（冬）、2023年3月（春）の計4回実施した。実験期間はそれぞれ1週間であり、被験者である20名の居住者が10名ずつ2週に分かれて実験に参加した。実験内容は、20名の被験者を対象に7つのアンケート調査による心理量の測定や睡眠内省の評価を実施、また活動量計の装着と心拍数の記録による睡眠変動等を含む生理量の測定、ストループ検査による注意や干渉の抑制機能の働きについての評価を行った。物理量測定では、調査期間中各被験者宅のバルコニーに面した2部屋の照度・温湿度を測定した。20名の被験者実験・物理量測定に加え、各調査期間中における工事による騒音の測定や、同マンションの全69世帯を対象としたアンケート調査による心理量の測定を行った。今回の発表ではこの中から、睡眠リズム（生理量）、印象評価（心理量）、照度測定（物理量）の結果を扱った。

◆成果及びその他参考となる事項

今回の国際学会への参加は、各国の研究者との交流の機会を得られただけでなく、自身の知見を広げる貴重な機会となった。本研究は近接する建物の影響による日照量の変化に着目している為、これまで参加した日本国内や日中韓が主体となった学会では、日本・アジア圏で多くみられる、集合住宅における日照問題の視点から研究助言を頂くことが多かったが、日照時間の短いヨーロッパや緯度の高い地域などでみられる冬期うつなどにも共通する観点を持つ研究であることから、今回様々な国の研究者からこれまでとは異なる新しい視点で教示を受けることができた。これまでにない質疑応答を経験することが出来たことは、今後の研究活動・修士論文の執筆にあたり大きな意味をもつと考えられ、多方面から研究を見直すきっかけにもなった。また、移動中にはスロベニアの街並みを見ることが出来たため、採光への工夫や日本と異なる住まいの在り方を感じられ、研究に活かすことのできる新しいアイディアを得られたように思う。

7. 全体評価

2023年度より奈良女子大学国際交流センターは奈良教育大学国際交流留学センターとともに奈良国立大学機構国際戦略センターとして新たなスタートを切った。短期派遣プログラムは、これまでの大学ごとの取り組みに加えて、両大学の学生を対象に夏休みにハワイ、オーストラリアの研修を、春休みにヨーロッパ、カンボジアの研修を開始したほか、奈良女子大学の協定校であるチェンマイ大学、奈良教育大学の協定校である香港教育大学にも両大学の学生を派遣するなど、非常に充実したプログラムメニューを組むことが出来た。各プログラムの詳細については、該当の頁を参照されたい。

奈良女子大学の2023年度派遣留学生数は、目標の実渡航80名、オンライン170名の計250名に対して、実渡航136名、オンライン139名の275名（うち日本人学生268名）であり、合計数では目標を達成した。オンライン研修の参加者は、2021年度が206名、2022年度が69名と、年によってばらつきがあるが、新型コロナウイルスの影響が限定的になったことに伴い、大きな流れとしてはオンラインよりも渡航プログラムへの参加を希望する学生が増えていると感じる。

2027年度までの目標数は、それぞれ実渡航、オンラインで数値を設定しており、いずれもオンライン参加者の方を多く見積もったが、来年度以降も渡航プログラムの参加者が増えそうだ。とはいえ、オンライン研修は、金銭的・時間的に留学が難しいという学生や留学準備あるいは留学後に語学力をキープしたいという学生に一定のニーズがあることから、今後も継続実施し、実渡航とオンラインの合計数で目標達成できるよう、来年度以降も新組織で協力し、充実したプログラムを提供していきたい。

Ⅱ．留学生の受入事業

1. 奈良女子大学サマープログラム

■ サマープログラム概要

海外交流協定大学の学生を対象としたサマープログラムは、参加学生が、日本の文化・歴史や奈良の魅力を学び、本学学生をはじめ地域の方々とも交流を深めることを目的としている。また本学の学生交流を促進するための事業としてきわめて重要な意義を持っている。新型コロナウイルスの世界的な流行により、2019年度実施して以降中止していたが、今年度より日本語プログラムのみ再開した。

1.1 日本語プログラム「万葉」

● 日程

2023年7月16日（日）～7月22日（土）の7日間実施された。今年度は『国際キャンパス奈良 Revolution』をテーマとして、全プログラムを日本語で実施した。

日付	内容	研修場所
7/16	来日	
7/17	【10：00 集合】 (午前) オリエンテーション (松永先生) 奈良女子大生によるキャンパスツアー (昼食) 歓迎会 【13：30～】 (午後) 留学生プレゼンテーション「私の Revolution」 7/20 開催の交流イベントの企画・準備	N101
7/18	【9：00 集合】 (午前) フィールドワーク「大和ハウス コトクリエ」(松永先生) 【15：00～16：30】 (午後) オンライン講義「下市について」(下市町 大西)	学外 国際セミナー室 (学術情報センター内)
7/19	【9：00 集合】 (終日) フィールドワーク「下市町 日本の源流と Revolution」 下市町見学、天誅組史跡関係見学 (下市町：大西一則氏、秋谷先生、松永先生)	学外
7/20	【9：00 集合】 (午前) 最終プレゼン準備 講義「奈良漬について」(森奈良漬店：森真理子氏) フィールドワーク「森奈良漬店と東大寺」(松永先生) 【13：00～】 (午後) 最終プレゼン準備 留学生企画学生交流イベント	国際セミナー室 学外 国際セミナー室 CotoQue
7/21	【9：00 集合】 (午前) 最終プレゼンテーション準備 【13：00～】 (午後) 最終プレゼンテーション・修了証授与 送別会	国際セミナー室 交流テラス CotoQue
7/22	帰国	

● 参加学生の出身国・大学

合計で5名の学生が参加した。参加大学は、東海大学（台湾）から2名、ハノイ大学（ベトナム）から2名、ルーヴェン大学（ベルギー）から1名であった。参加者の国籍の内訳は、台湾2名、ベトナム2名、ベルギー1名であった。

● 成果物

研修終了後、最終プレゼンテーションをもとに「万葉冊子」を作成した。

2. 奈良女子大学日本語オンラインプログラム「そらみつ」

■ 「そらみつ」プログラム 概要

海外協定校の女子学生を対象として実施してきたサマープログラム「MAHORоба」「万葉」の代替として、オンラインとオンデマンドのプログラム「そらみつ」を2020年度から実施してきた。2023年度は日本語プログラム「万葉」のみ再開したが、オンライン・オンデマンドでの短期プログラムでも参加学生の満足度が高く、日本語学習のモチベーション向上や、交換留学などその後の来日につながることから、夏と冬に引き続き実施した。

「そらみつ」プログラムの目的は、海外協定校で日本語を学習している学生を対象に、日本語能力と、奈良そして日本の伝統文化に対する理解を深めることであり、事前学習としてオンデマンドでの講義（日本語）を視聴したうえで、課題（LMSでの日本語での回答）に取り組み、オンライン授業時に課題の成果を発表する時間を設け、授業時間内にフィードバックを行った。また、奈良女子大学学生の作成した動画や資料、企画運営するイベントに参加することで、学生のレベルでの国際交流の機会を得ることになり、日本語能力向上と日本文化理解に集中して取り組めるプログラムとなった。

■ 「そらみつ」プログラム 内容詳細

<夏 日本語中上級コース「日本文化と地域社会 D (1)」>

● プログラムスケジュール（いずれも zoom で実施）

	日時	1 限目 15:00-16:30 (JST)	2 限目 16:30-18:00 (JST)	3 限目 18:00-19:30 (JST)
1 日目	2023 年 8月19日(土)	1. オリエンテーション	2. プレゼンテーション 事前課題の視聴を踏まえて、「わたしの大学生活」について発表。偏愛マップを使った自己紹介。	3. 奈良入門
2 日目	2023 年 8月20日(日)	4. 講義とプレゼンテーション 「すしはどこから来たか」 浅田 晴久先生 文化の伝わり方とローカル化についての講義の後、受講生が自国でローカル化された食べ物を紹介。		5. 学生交流企画① 「日本人の学生と会話してみよう!!」 奈良女子大学生

3 日目	2023 年 8月26日(土)	6. ディスカッション 「学校について」松永 光代先生 「ブラック校則」についてディスカッション。	7. 学生交流企画② 「ことばあそび」奈良女子大 学生 前半：早口ことば・しりとり・ ことばあてゲーム・ジェス チャーゲーム
4 日目	2023 年 8月27日(日)	8. 講義とグループワーク 「短歌と俳句」久岡 明穂先生 「万葉集」についての講義の後、「俳句を作ろう」で俳句 を作るグループワーク。	9. 修了式

● 事前学習

プログラム開始前に、事前学習として、2023 年度のキャリアデザイン・ゼミナール B (46) 受講生の作成した動画 2 本、講義動画 2 本をオンデマンドで視聴し、それぞれに対して課題（感想）を提出しておくことを課した。

- ・事前学習①：「学校紹介・部活動について」（キャリアデザイン・ゼミナール B (46) 受講生成成動画）
- ・事前学習②：「ある奈良女子生の一日」（キャリアデザイン・ゼミナール B (46) 受講生成成動画）
- ・事前学習③：「すしはどこからきたか」
- ・事前学習④：「ブラック校則」

● 受講状況

20 名の受講生に対して 2 単位を授与した。単位は、プログラム期間中の全ての活動に参加し、各授業に対して出された事後課題を期日までに解答し提出した受講生に授与した。

修了者の在籍大学	修了者数
ハノイ大学 / Hanoi University	9 名
トリーア大学 / Trier University	3 名
蘇州大学 / Soochow University	2 名
東呉大学 / Soochow University	2 名
ハノイ国家大学 外国語大学 / University of Languages and International Studies, Hanoi	1 名
インドネシア大学 / University of Indonesia	1 名
梨花女子大学 / Ewha Womans University	1 名
パリ大学 / Université de Paris	1 名
合 計 20 名	

<冬 日本語中上級コース「日本文化と地域社会 D (2)」>

● プログラムスケジュール (いずれも zoom で実施)

	日時	1 限目 15:00-15:30 (JST)	2 限目 15:30-16:30 (JST)	3 限目 16:30-18:00 (JST)	4 限目 18:00-19:30 (JST)
1 日目	2024 年 1 月 6 日 (土)	1. オリエンテーション	2. 日本語 TALK	3. 学生交流企画① 「自分たちのお弁当を作ろう!」奈良女子大学生 日本のお弁当について紹介後、グループに分かれてお弁当作り。	4. 年賀状について
2 日目	2024 年 1 月 7 日 (日)	5. 講義① 「花と日本文化」樽井 由紀先生 華道文化についての講義の後、受講生が「私が好きな日本文化」を紹介。		6. 講義② 「スポーツと日本」石坂 友司先生 ラジオ体操と甲子園野球、駅伝についての講義の後、私の国で人気のあるスポーツを紹介。	
3 日目	2024 年 1 月 20 日 (土)	7. 講義③ 「地域の味覚」橋田 力先生 和食文化について講義後、私の国の代表的料理などを発表。			8. 学生交流企画② 「新しい日本語作ろう!」奈良女子大学生 オノマトペ、最新の日本語について紹介後、受講者で新しい日本語の作成に挑戦する。
4 日目	2024 年 1 月 27 日 (土)	9. 講義④ 「短歌と俳句」久岡 明穂先生 「万葉集」についての講義の後、「俳句を作ろう」で俳句を作るグループワーク。			10. 修了式 日本語でスピーチ 「一番印象的な授業とその理由」

● 事前学習

プログラム開始前に、事前学習として、2023 年度キャリアデザイン・ゼミナール B (70) 受講生の作成した動画 5 本をオンデマンドで視聴し、それぞれに対して課題（感想）を提出しておくことを課した。

- ・事前学習①:「偏愛マップ」で自己紹介
- ・事前学習②:「あなたの国のおすすめの食べ物」
- ・事前学習③:「わたしが好きな日本文化」
- ・事前学習④:「わたしの国で人気のあるスポーツ、伝統的なスポーツ、有名な選手」
- ・事前学習⑤:「わたしの国の代表的な料理、住んでいる地域の郷土料理、好きな料理」

● 受講状況

19 名の受講生に対して 2 単位を授与した。単位は、プログラム期間中の全ての活動に参加し、各授業に対して出された事後課題を期日までに解答し提出した受講生に授与した。

修了者の在籍大学	修了者数
ハノイ大学 / Hanoi University	10 名
大連理工大学 / Dalian University of Technology	3 名

インドネシア大学 / University of Indonesia	2 名
東呉大学 / Soochow University	1 名
ルーヴェン大学 / KU Leuven	1 名
トリーア大学 / Trier University	1 名
奈良女子大学 / Nara Women's University	1 名
合 計 19 名	

<アンケート結果>

プログラム最終日に、プログラム内容についてのアンケートを実施した。その結果を以下にまとめる。

①そらみつ 夏 アンケート結果 (20 名中 18 名が回答)

Q1 「すしはどこから来たか」について、あなたの感想を教えてください。また、浅田先生へのメッセージや質問もこちらに書いてください。(Please write your comments on the Lecture and Presentation "Where Sushi Came From". You can also write your messages and questions to Asada-Sensei here.) (N=18 名)

- ・奈良寿司は知らなかったのですが、先生が実物を用意して下さったので分かりやすく美味しそうですね。また、詳しい説明があって興味深くて面白かったです。ありがとうございました
- ・授業の前寿司はどこから来たか全然知らなかったのも面白かったです。浅田先生の講義もわかりやすかったし興味深かったです。
- ・授業はとても楽しかったです。寿司の歴史が面白かったです。元は寿司の生まれた場所知りませんでした。
- ・浅田先生は寿司の伝来のついて、詳しく紹介されました。とても面白くて分かりやすいです。去年この講義受けたことがあります。もう一度聞いても、やっぱり興味津々です。
- ・新しいことを聞いて、ローカライズの違った側面も知りました。ベトナムの特別なサンドイッチはおいしそうです。ありがとうございました。勉強になりました。
- ・面白かったです。浅田先生のおかげですしについてもっと知りました。浅田先生がゆっくり話して、わかりやすいです。先生、ありがとうございます。
- ・実はこのレッスンは昨年も受講したのですが、今年は新たな情報も加えられてとても面白かったです！最初は寿司にこれほど奥深く複雑な歴史があるとは思いませんでしたし、思った以上に寿司の種類もたくさんあります。
- ・「すしはどこから来たか」の授業はすごく面白かったと思います。自分の国の料理はどこから来たについて考えなければなりませんが、自分の料理が新しい方法でわかると思います。浅田先生へ：面白い授業を教えてくださいありがとうございました。
- ・浅田先生の説明は非常に詳細で理解しやすいです。寿司の歴史や始まり、さまざまな種類の寿司についてさらに理解が深まりました。
- ・料理や文字、楽器などがどのようなルーツで生まれたのかはあまり気にしていませんでしたが、今回の講義を経て興味を持つようになりました。ドイツのケバプがすごく豪華で驚きました。ベ

トナムの方々が何人もパインミーを紹介してくれましたので、今度食べてみようと思います。

- ・寿司は日本発祥ではなく東南アジア発祥だと知りました。寿司の作り方も学び、さまざまな種類の寿司を紹介されました。浅田先生がゆっくり教えてくれて、分かりやすかったので、すぐに吸収できました。ありがとうございました。
- ・講義のおかげで、たくさん新しい情報を受けて、特に本の奈良の柿の葉寿司を見せてもらって、すごく素晴らしいと思います。みんなのプレゼンテーションもとても面白いです。浅田先生は教えてくださって、本当にありがとうございました。
- ・お寿司に関する役立つ知識をたくさん学びました。以前は寿司の種類は 1 種類しか知りませんでしたが、今では日本にはたくさんの種類の寿司があることが分かりました。勉強した後、私は浅田先生からあるテーマについてプレゼンテーションを行う方法を知りました。他の国の食べ物についてもっと学びました。私の知らない珍しい料理もたくさんあります。浅田先生、ご講演ありがとうございました。
- ・異なる地域や時代の要素が結びついて、多様な寿司のバリエーションが生まれたのだと思います。その過程には興味深いストーリーが詰まっているように感じますね。初めて聞いたので、奈良の柿の葉すしがすごく印象です！
- ・先生の講義は寿司のバリエーションについてとても興味深かったです。先生の説明はとても分かりやすかったです。
- ・文化のローカル化と伝わり方について色々勉強になりました。先生にご丁寧に教えていただいたので、寿司の歴史や種類などが知りました。それに、先生の動画のおかげで、母国の独自ローカル化されたものを考えて、調べ始めました（例えばベトナムの漢字に基にして作られたチュノム）。誠にありがとうございました。
- ・素晴らしい授業でした。たくさん勉強しました。でも、新しい単語はたくさんあり、ちょっと難しかったです。
- ・この授業のおかげで、すしはどこから来たか納得しただけでなく、多くの国の有名品は別の国のものに由来することをわかりました。ありがとうございました。

Q2 学生交流企画① Activity with NWU Students「日本語で話そう」について、あなたの感想を教えてください。また、このイベントを企画・運営した奈良女子大学の学生のみなさんへのメッセージもこちらに書いてください。(Please write your comments on the student exchange project ① Activity with NWU Students "Let's talk in Japanese". You can also write a message to NWU students, who organised and managed this event, here.) (N=18 名)

- ・学生のみなさんが話すテーマを用意して下さったので、スムーズに話せました。さらに、時間が過ぎるのが早く感じて面白かったです。ありがとうございました。
- ・自分で勉強するのもいいですけどやはり実際日本人と会話するのが一番効率的だと思いました。奈良女子大学のみんなもとてもやさしかったし誘導してくれるのもすごく助かりました。
- ・凄く楽しかったです。たくさんの人たちと知り合うことができました。たくさん日本語で話せて、楽しい時間がありました。
- ・この交流企画では、奈良女子大の学生たちと色々交流できて、本当に嬉しかったです。奈良女

子大の学生は、色々な話題を事前に用意してくれて、交流の時はとても順調でした。

- ・楽しかったです。出身地を話題として、以外と旅行と風習のはなしになって、盛り上がりました。こういう雑談になった愉快的な雰囲気が好きです。 ありがとうございます。面白いイベントをきかしてくれて！
- ・楽しかったです。大学とか出身地とか話しました。運営した奈良女子大学の学生のみなさんが優しいので、緊張がなくて、自然にしゃべりました。 このイベントを行ってくれて、ありがとうございます。
- ・日本人の学生たちと話すのはとても楽しい時間を過ごしました。その中には先月奈良で会ったことがある人々もいたので嬉しかったです。 自国の有名なことについて話し合っ、いい勉強になりました。
- ・奈良女子大学の大学生のイベントは楽しかったです。もっと話したいです。
- ・とても楽しいセッションでした。奈良女子大学の学生と知り合い、会話することができて嬉しかったです。このセッションを通じて、自分の出身国について紹介したり、逆に相手にも紹介することができました。
- ・授業外では誰かと日本語で話すことは滅多になく、今回のイベントでは日本語を沢山話せたし、色々な国についてもより理解を深めることができ、すごく有意義な時間でした。すごく緊張していましたが、みなさんの親切さで緊張をほぐすことができました。すごく楽しかったです。
- ・日本語で様々なトピックについて話しました。日本の学生さんの一日とか、文化、それに好きなものです。困ったこともあります、みんな手伝ってくれたので楽しかったです。
- ・たくさん話す機会があって、本当にありがたいです。でも、ずっと同じ留学生さんとブレイクアウトルームに入ってはちょっと残念だと思います。しかしながら、奈良女子大学の学生のみなさん、みかんさん（つぐみさん？）、みほさん、あやねさん、こむぎさん、とても可愛くて、楽しかったです。本当にありがとうございました。
- ・奈良の女子学生たちと話しすると、みんなとてもオープンでフレンドリーでした。 みんなとてもかわいいです。皆さんと話して、たくさん興味深いことを学びました。 また奈良の女の子たちにお会いできる機会があれば嬉しいです。
- ・まず奈良女子大学の学生のみなさんは優しく可愛いです。そして、最初は緊張しましたが、このイベントは私に世界の違う国から来た文化を知らせてくれました、すごく楽しかったです。
- ・それはプログラムの中で私の一番好きな部分です。奈良女子大学の学生たちは会議を非常にうまく運営し、参加者に対して快適な雰囲気を作り出しました。学生たちと直接に話すおかげで、会話の能力での欠点を見つけて、練習し続けます。
- ・奈良女子大学の学生たちと交流して嬉しかったです！私が見知りなので、最初は少しはづかしかったんですけど、皆さんと色々な共通点（特に趣味）を持つのは気に入ってから楽しかったです。もし貸したら NWU に行くチャンスがあったら、皆さんに会いたいです！
- ・とても楽しかったです。でも、喋る時間はちょっと短ったと思います。
- ・このプログラムに参加するのは会話の練習をしたいという理由もあったので先生がたの授業を受けられるだけでなく、若い日本人の学生と話されるのはありがたいです。日本人の学生も他の国の学生もとても親切してくれてありがとうございました。とても楽しかったんです。

Q3 「学校について」について、あなたの感想を教えてください。(Please write your comments on the Discussion "Schools"?) (N=18 名)

- ・ヨーロッパの学校に比べてアジアの学校は校則や授業が多くて大変だと知っていましたが、改めてもっと自由を欲しがる人や大変と思う人がいると知りました。しかし、フランスには学生が運営する文化祭がないのでどちらの学校も良いところと悪いところがあることに気が付きました。ありがとうございました。
- ・色々な国の学校についてお話が聞けたのは非常に良かったです。自分の国とまるで別世界だと思いました。
- ・たくさん新しい語彙を学んだので、ちょっと難しかったですけど、とても面白かったです。そして、留学生たちから色々な視点を聞こえたのが良かったと思います。
- ・マヒルちゃんと私は同じグループです。私の日本語がそんなに流暢でなくても、マヒルちゃんはいつも親切に聞いてくれて、とても感動しました。この Discussion では、メンバー全員各々の国について紹介して、色々な情報を得られて、勉強になりました。
- ・ヨーロッパと東アジアの違いを痛感しました。異文化コミュニケーションの時、同じ言葉の定義は違った国で意味が変わるという点に注意していきます。
- ・私はグループの全体報告者なので、めっちゃ緊張しました。でも、グループのサポートのおかげで、完成できて、ありがたいです。また、みんなさんの異なる意見を聞いて、知識が広がると思います。
- ・他の参加者と理想の学校について話し合うことができて、他の国の学校のルールの違いが分かって、とても面白かったです。
- ・「学校について」は面白かったと思います。皆さんの国の学校生活についてたくさん学びました。「ブラック校則」についてのビデオは少し難しかったです。
- ・最初は、ブラックボックスに関する内容を理解するのが少し難しかったです。しかし、徐々に他の参加者とのディスカッションやさまざまな説明を通じて理解し始めました。そして、それによって私の知識もさらに深まりました。
- ・アジア圏の学生たちが考える理想の学校がフランスの学校に限りなく近いことが一番印象に残っています。文化祭など学校全体で何かをするイベントがおもしろいと思ったこともあります。あれあなさんがそのようなイベントがフランスの学校にもあったらいいなと言っていたことで、楽しい記憶が蘇り懐かしい気持ちになりました。
- ・みんなが自分の学校について教えてくれました。ブラック校則について話して、変だなと思いました。でも、ほかには色々な面白いことがあります。みんなの理想な学校に聞かせてもらいました。
- ・そうですね、みんなの国の学校を教えてもらって、めっちゃ面白いと思います。ヨーロッパの留学生さんの生活が私のと本当に違いますから、新しい情報を受けました。ぜひみんなさんの大学とか学校とかのイベントに参加したいと思います。
- ・その日に議論されたトピックは非常に興味深いものでした。先生が入れるとは思っていなかった話題もあります。ブラックルールについては私は詳しく知っています。これをきっかけに日本の社会状況にさらに興味が湧きました。
- ・「学校について」時、突然、討論方式で発表すると言われました。特に別の国のと一緒にディスカッションをすることは私にとって特別な経験です。ディスカッションのやり方はすごく勉強

しました。ありがとうございます。

- ・「学校について」について、それも面白い部分です。ディスカッションを主導した教師は、子供自身の準備しておき、発展させた非常に良い質問をしました。
- ・私にとって結構難しかったです。学校の責任などに関する話題が、確かに社会知識が必要なので、自分の意見を表すのが思ったより難しかったですけど、貴校の「ブラック校則」と皆さんの話が本当に面白かったですし、色々なことについてもう一度考慮に入れなくていいと思いました。
- ・他の国の学校がよく分かるようになって、嬉しかったです。
- ・日本の学校についてもっと聞かせてもらいました。前から、日本の学校の規則が厳しくて、変なものもあると聞いたんですが、ブラック校則は本当に驚かせました。ありがとうございました。

Q4 学生交流企画② Activity with NWU Students「ことばあそび」について、あなたの感想を教えてください。また、このイベントを企画・運営した奈良女子大学の学生のみなさんへのメッセージもこちらに書いてください。(Please write your comments on the student exchange project (2) Activity with NWU Students "kotoba asobi". You can also write a message to NWU students, who organised and managed this event, here.) (N=18名)

- ・ゲームが面白かったです。対面ではなくZOOMで遠く離れた各国に学生がいるにもかかわらず、チーム戦だったので、仲の良い友人のようにメンバーを身近に感じられ楽しかったです。 ありがとうございます。
- ・この企画が一番良かったと思いました。日本の面白い早口言葉を学ぶことができたので発音とかにも勉強になりました。しりとりも最高に楽しかったし沢山の単語を学びました。言葉宛てゲームも大変いい練習になりました。この企画のすべてが最高に良かったと思いました。
- ・早口言葉は無理だったけど、楽しかったです。ブレイクアウトルームでたくさん話したし、ゲーム中でいっぱい笑いました。
- ・早口言葉としりとりゲームはとても楽しかったです。 普通交流企画と言えば、皆チャットやアイスブレイクをやります。 今回の交流企画の発想はすごく新鮮で面白いです
- ・早口言葉は面白いですね。早口言葉に関する面白い話も聞かせてくれればもっと楽しくなると思っています。 このあとのゲームはちょっと説明不足のせいでトラブルがあって、全体の流れはまとまっていって、いろいろ面白い表現とジェスチャーを見ました。 ありがとうございます。
- ・とても楽しかったです。「早口言葉」が難しいですが、面白いです。「しりとり」を遊んだ時はちょっと緊張になりました。でも、「しりとり」のおかげで新しい単語をたくさん知りました。 このイベントを行ってくれて、ありがとうございます。
- ・ゲームは楽しかったし、このようなゲームを日本語でやるのは初めてでしたが、驚いたことに数回は成功しました。 これは日本語を話すためのいい練習にもなると思います。
- ・言葉遊びは学生たちからのイベントの一番楽しかったイベントだと思います。でも早口は本当に難しいです。たぶんマジカルバナナというのゲームはもいいと思います。
- ・とても楽しい別のセッションでした。行われた様々なゲームもとても魅力的でした。開催されたゲームは私にとってはすでに馴染み深いものでしたが、日本語を使って遊ぶ新しい経験となりました。

- ・早口言葉をミュートで何回も練習しましたが、滑舌が悪くどう足掻いても噛んでしまうのでチャレンジすることから逃げてしまいました。すごく悔しいです。一生懸命言葉を絞り出して説明し、体を張ってジェスチャーゲームを挑むみなさんの勇姿も最高でした。面白い企画をありがとうございました。
- ・「ことばあそび」は私の一番好きな活動です。みなさんと一緒にゲームしたり、話したりすることができました。新しい言葉も勉強になりました。
- ・ゲームはめっちゃ面白いですwwwみんながとてもすごくて、ゲームもめっちゃ上手だと思います。本当にありがとうございました、奈良女子大学の学生のみんなさん（名前全部覚えていないごめんなさい（〒_~_〒））、楽しかったです。
- ・その日はゲームをして楽しかったです。ベトナムでプレイしたゲームはありますが、ルールは少し異なります。奈良の女の子はとてもかわいいです。みなさんはいつも笑顔でとても元気そうです。
- ・「ことばあそび」はとても面白いです。みんな一緒に一生懸命話しています。
- ・学生たちはゲームをとてもうまくデザインしました。みんながフレンドリーな人です。ほとんどのゲームを楽しんでいましたが、しりとりゲームはかなり時間がかかりました。
- ・色々なゲームを使ってくれてありがとうございました！早口言葉ゲームを聞いたことがあります、難易度がだんだん高くなってきて本当にびっくりしました。しりとりも日本人学生に対して普及しているゲームということはNWU学生に教えてもらいました。楽しかったですが、多分オンラインでやるので、雰囲気が少し落ち着いてきたそうと思います。
- ・面白いゲームでした。たくさん新しい単語を勉強しました。
- ・このプログラムはオンラインで行われるから、言葉遊びを楽しめるのはちょっと難しいかなと思いましたが、楽しかったです。ありがとうございました。

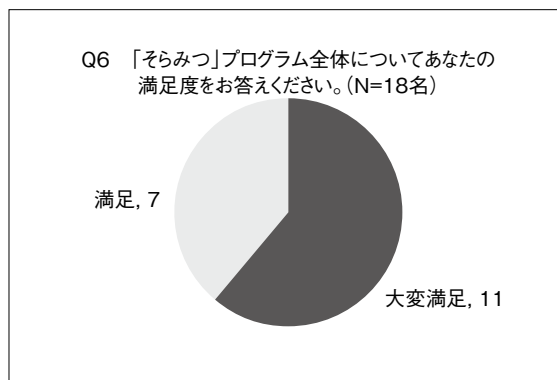
Q5 「短歌と俳句」「俳句を作ろう」について、あなたの感想を教えてください。また、久岡先生へのメッセージや質問もこちらに書いてください。(Please write your comments on the Lecture:"Tanka and Haiku" and Groupwork:"Let's Make Haiku"? You can also write your messages and questions to Hisaoka-Sensei here.) (N=18名)

- ・奈良の俳句は長い歴史があることを知りました。また、写真からインスピレーションを受けて俳句を作るのが面白くて楽しかったです。ありがとうございました。
- ・まさかプログラムの後俳句を詠めるようになるとは思いませんでした。しかもこんなに楽しいことだとも驚きました。久岡の和歌の講義もとても興味深いと思いました。いい経験になりました。
- ・久岡先生のレクチャーがとても面白くて、楽しかったです。たくさん勉強しました。皆さんは俳句を作るのが本当に上手いだと思います。
- ・短歌と俳句が好きです。久岡先生の講義は内容が豊富で、とても勉強になりました。自分で「俳句を作ろう」の時はワクワクしました。自分が作った俳句は他人に褒められるのは嬉しいです。
- ・面白いです。自分の作品をみんなのまえて詠めなかったのは残念ですが、俳句を作るのはけっこう楽しかったです。奥の細道のルートも巡りまわってみたいと思っています。挙句の説明面白かったです。ありがとうございました。いろいろ勉強になりました。

- ・面白かったです。久岡先生のおかげで俳句についてもっと知りました。先生、ありがとうございます。俳句を作るのが初めてなので、「俳句を作ろう」はちょっと難しいかなと思っていましたが、みなさんの俳句がすごく良くて、びっくりしました。ちなみに、面白い活動だと思います。
- ・私は以前から日本の俳句に興味があったので、このレッスンは私にとってすごく楽しくて興味深かったです。レッスンを受けたあとで、自分で俳句を作ることができるようになって嬉しいです。
- ・それはプログラムから一番楽しいの授業と思います。久岡先生へ：楽しかった授業を教えてありがとうございます。
- ・非常に興味深い学習です。私は大学で短歌や俳句について少し学んだことがありますが、このセッションを通じて私の見識が深まりました。
- ・最初は本当に詠めるのかと心配でしたが、完成した時は達成感と不思議な面白さを感じて貴重な経験を得ました。みなさんの俳句から夏を感じてとても素敵でした（バーベキューの俳句が気になってしょうがないです）。狂歌が面白すぎて笑ってしまいました。後で調べてもっと読みたいです。
- ・日本の短歌と俳句は面白くて、ちゃんと作り方を学びました。久岡先生の教え方も詳しく、わかりやすく、いい時間を過ごしました。ありがとうございます。
- ・最初が「難しいな」と思いましたが、どんどん面白くなると感じます。俳句を作るのは今回が初めてですけど、面白いと思います。久岡先生、教えてくださって、本当にありがとうございます。ちなみに、「夜の秋」のメッセージが私（ビー）からです。私の俳句をコメントくださって、ありがとうございました。
- ・今日は俳句の作り方を学びました。最初は美穂さんの講義を聞いていてよくわかりませんでしたが、練習してみるとうまくできて良かったと思いました。他の人たちは俳句を書くのがとても上手です。今後もこのような授業が増えていきたいと思っています。
- ・短い言葉で深い意味を込めることができるのが俳句の魅力であり、自分の感じたことをシンプルに伝える力を養う良い方法だと思います。みんなの俳句はすごく素敵です！！
- ・「短歌と俳句」についての講義は非常に長く、私のレベルでは理解するのが難しい単語がたくさん含まれていました。しかし、俳句を作るルールは分かりやすく良かったです。グループで俳句を共有するのもとても楽しいかったです。久岡先生への質問：俳句にはなぜ季語があるのでしょうか？日本の思想と何か関係があるのでしょうか？ありがとうございます。
- ・ひさおか先生が丁寧にご丁寧に教えていただき、ありがとうございます。「俳句」を聞いたことがあります、和歌、俳句といった様々な韻文を紹介していただき、今回は初めてでした。文学だけではなく、代表的な作品の歴史背景についても勉強になりました。
- ・とても面白い授業でした。俳句が書けないと思いましたが、授業の後できました。嬉しいです。
- ・これは一番好きな部分です。日本の韻文、俳句などを教えてもらい、俳句を作るのも体験できました。皆さんは会話だけでなく、日本語の言葉を使い方も上手ですね。まつなが先生、まつばな先生、ひさおか先生、ありがとうございました。

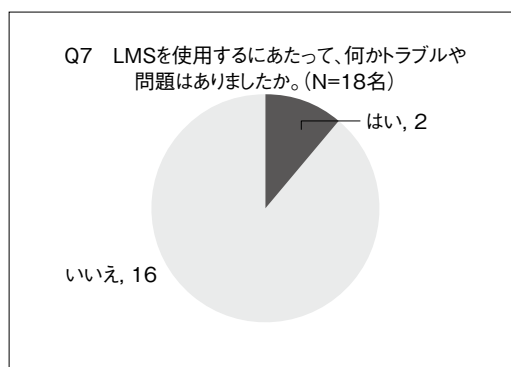
Q6 「そらみつ」プログラム全体についてあなたの満足度をお答えください。(Please indicate your level of satisfaction with the "Sorimitsu" program as a whole.)

1. 大変満足 (Extremely Satisfied)
2. 満足 (Satisfied)
3. 普通 (Neither Satisfied nor Dissatisfied)
4. 不満 (Dissatisfied)
5. 非常に不満 (Extremely Dissatisfied)



Q7 LMSを使用するにあたって、何かトラブルや問題がありましたか。(Did you have any trouble using LMS?)

1. はい (Yes)
2. いいえ (No)



Q8 Q7の問いで、LMSの使用に問題があったと回答した方にのみおうかがいします。どのようなトラブルがありましたか。(If you answered "Yes I had trouble using LMS", tell us what kind of troubles you had.) (N=2名)

- ・最初は、最初に提出する課題をアップロードするのに苦
- ・ファイルを添付できないバグがあったようです。

Q9 そらみつプログラムについて、その他にあなたにとって良かったことや、楽しかったこと、満足したこと、学んだこと、気づいたこと、伝えたいことなどあれば、ぜひ教えてください。(Write comments about SORAMITSU program freely! Tell us what was useful for you, you enjoyed most, you have learned, or you noticed etc.) (N=18名)

- ・今回のそらみつプログラムでは奈良女子大学の建物は綺麗で長い歴史があると知りました。また、各国の学生と話しが出来て楽しかったです。さらに、奈良の有名な食べ物や歴史や俳句が学べて興味深かったです。今後、奈良の情報をもっと集めて、いつか奈良に行きたいと思います。
- ・アンケートにも答えたように「言葉遊び」の企画が一番良かったと思います。日本語本当に大好きなのであいうえお日本語についてもっと学べるげーむとかはすごく楽しいです。 色んな国の人と話す機会もめったにないので非常に貴重な経験でした。 なお奈良女子大学の生徒教員も素晴

らしい仕事をしてくれたと強く感じました。本当に参加してよかったと思います。運営してくれた皆様に感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました！

- ・ズーム会議の前にレクチャー動画をもらったのが良かったと思います。準備に役に立ちました。課題はそれほど難しかったです。仕事量が良かったと思います。 奈良県に行ったことがありませんから、たくさん勉強して、新しいのこ紹介されました。 このプログラムで日本語だけ話したのは手伝いました。少し日本語力上がったかもしれません。 参加させていただき、本当にありがとうございました。すごく楽しかったです。
- ・楽しかったことは、色々な国の学生とお話できることに違いないです。 日本語学科の学生と言えども、いつも自国の日本語人ばかりと交流しています。 異国のカルチャ体験はほとんどなかったんです。 ですので、今回はプログラムで、好きなだけ交流できて、本当に嬉しかったです。 また、今回のそらみつは、去年と比べると、講義の少なくなって、交流・発表の時間が多くなりました。とても感心しました。これはいいことだと思っています。ちょっと疲れますが、個人的には好きです。
- ・松永先生と松原先生のサポートはほんとに素晴らしいです。あたたかい言葉ありがとうございました。 会話練習のチャンスがたくさんで、ほかの国の人と会話ができて良かったです。母国語ですら話すのが苦手な私にとって、良い挑戦になりました。うれしいです。奈良についても、いろいろ知りました。こういう観光とかかわる歴史と文化遺産のことに興味を持っています。ありがとうございました。また奈良でお会いできるのを楽しみにしております。
- ・浅田先生と久岡先生の講義が私に有益です。また、奈良女子大学の学生が行った活動がとても面白かったです。そらみつのおかげですしや俳句など日本の文化的特徴をもっと知りました。 奈良県も教わりました。奈良がいいなあと思います。いつか奈良県と奈良女子大学にいきたいです。最後に、松原先生と松永先が熱血に教えてくれて、ありがとうございました。
- ・"そらみつ"のプログラムに参加してとても楽しい時間を過ごさせていただきました。 昨年も参加したことがありますが、今回は他の参加者や先生とたくさん自由に話すことができたので、レッスンやディスカッションがさらに楽しくなった気がします。 全体的にとっても良かったので、来年に奈良女子大学の先生と学生たちと一緒に勉強できることを心から願っています。 どうもありがとうございました！
- ・そらみつプログラムはすごく楽しかったと思います。日本についてもっと勉強しましたから、すごく嬉しいです。料理について今まで知りません物もいっぱい学びました。そして今日の俳句授業の後でこのテーマについてもっと勉強したいです。 本当にありがとうございました。
- ・私はソラミツのプログラムに参加することは、私にとって貴重な経験の一つです。さまざまな国から来た講師やプログラムの参加者と知り合うことができて、とても嬉しく思っています。このソラミツのプログラムを通じて、たくさんのことを学ぶことができました。将来的に日本を訪れたり、直接プログラムの参加者や講師と会う機会が持てればいいなと思っています。
- ・自分が思う「当たり前」がいい意味で書き換えられた気がします。奈良と世界の素敵なところに触れることもでき、本当に参加して良かったです。みなさんとまたいつか、どこかでお会いすることができたらいいですね。
- ・四日間のプログラムでしたが、日本の友達と他の国の人話すことができました。お寿司の期限と

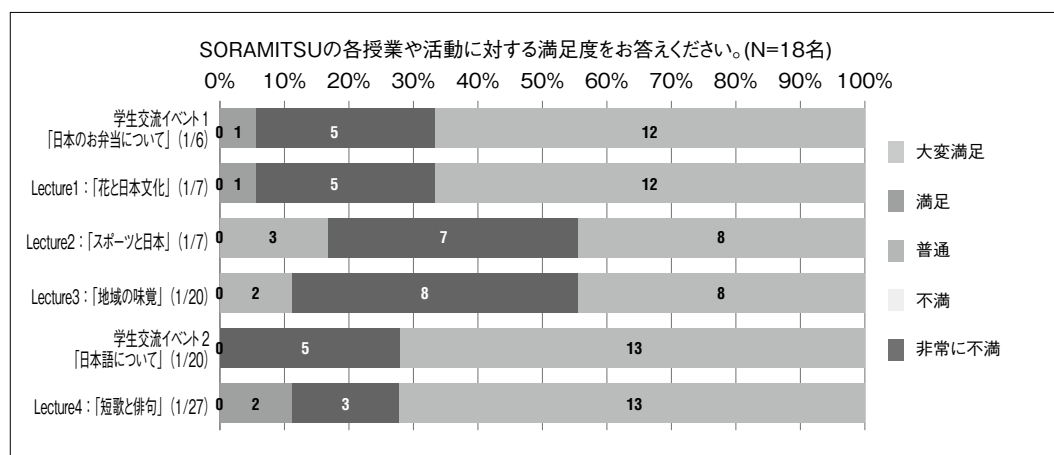
俳句の作り方など、新しいこともたくさん勉強になりました。本当に楽しく有意義な時間を過ごさせていただきました。松原先生と松永先生もとても熱心なので何も困ることはありません。ありがとうございます。

- ・たくさんことを学ぶことができました。みんなが日本語上手で、とてもすごいですね。そして、みんなが可愛くて、優しいです。感動しています。連絡の方法とか交換してほしいなと思いますが、残念ながらね（≥_≤） はい、みんなさん、お疲れ様でした。心から感謝いたします。ありがとうございました。
- ・授業で一番楽しいのは、とても良い講義です。先生たちはとても一生懸命で、決して休むことはありません。私だったらとっくの昔に疲労で気を失っていただろう。本当に熱心に教えているのが分かります。また、色々な国の友達と話しているときに日本語の会話力が上達するととても嬉しいです。次の講座開設が楽しみです。ぜひもう一度参加したいです。最後に、他の地域の文化についてももっと講義を構成してもらえませんか？ 他県の美しい景色、名物、物などをもっと知りたいです。日本には多様で豊かな文化を持つ地域がたくさんあるのに、奈良県の文化だけを知るのはもったいないと思うからです。
- ・今まで一緒に過ごして本当にありがとうございました。みんなと別れたのも悲しいです。留学の機会があれば、またお会いできるのを楽しみにしています～
- ・このプログラムに参加することで、日本語で会話するのが向上している意識があります。レベルが限られているので最初は参加するべきかと考えて、悩みました。しかし、先生も奈良女子大学の学生たちも参加者も皆とてもフレンドリーで熱心です。そのおかげで、自分の考えを表現するのが難しいこともありますが、日本語を話すことができるようになります。素晴らしいプログラムを作成してくれて、誠にありがとうございました。
- ・今回のプログラムに全体で満足しました。先生方にご丁寧に教えていただいたおかげで、文化の伝わり方、校則、様々な韻文について勉強になりました。奈良女子大学の学生たちだけでなく、色々な国の皆さんと交流できてとても楽しかったです。自己紹介の時に、私は少し人見知りなので、最初は恥ずかしかったんですけど、だんだん話せるようになりました。言葉遊びゲームも面白かったです。気づいたことがたくさんあるんですが、最も面白かったのは、思ったより皆さんと共通点を色々持つことです（趣味とか、習慣など） 奈良県についてもたくさん勉強になりました。チャンスがあったら、奈良に行きたいです。 今回のそらみつプログラムに参加できて楽しかったです。先生たちと学生さんたちも、誠にありがとうございました！
- ・そらみつプログラムに参加するのは二回目です。一回目と似て、とても楽しかったです。新しいことがたくさん勉強できました。
- ・日本文化はもちろん、他の国について色々なことをもっと知って、色々な人と話して、楽しかったです。最後にありがとうございました。

②そらみつ 冬 アンケート結果

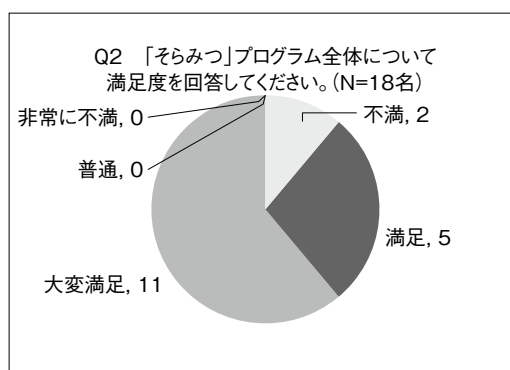
Q1 SORAMITSU の各授業や活動に対する満足度をお答えください。(Please indicate your level of satisfaction with each classes and activities in SORAMITSU.)

1. 大変満足 (Extremely Satisfied)
2. 満足 (Satisfied)
3. 普通 (Neither Satisfied nor Dissatisfied)
4. 不満 (Dissatisfied)
5. 非常に不満 (Extremely Dissatisfied)



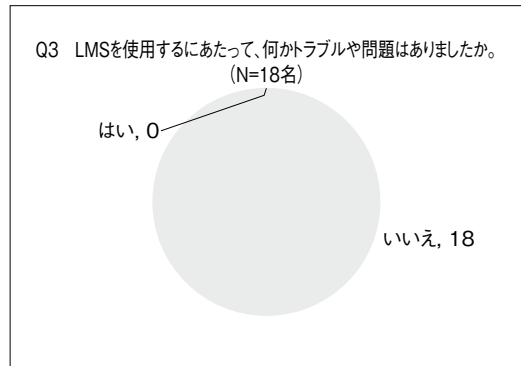
Q2 「そらみつ」プログラム全体についての満足度を回答してください。(Please indicate your level of satisfaction with the "SORAMITSU" program as a whole.)

1. 大変満足 (Extremely Satisfied)
2. 満足 (Satisfied)
3. 普通 (Neither Satisfied nor Dissatisfied)
4. 不満 (Dissatisfied)
5. 非常に不満 (Extremely Dissatisfied)



Q3 LMS を使用するにあたって、何かトラブルや問題はありましたか。(Did you have any trouble using LMS?)

1. はい (Yes)
2. いいえ (No)



Q4 3の問いで、LMSの使用に問題があったと回答した方のみおうかがいします。どのようなトラブルがありましたか。(If you answered ""Yes I had trouble using LMS"" , tell us what kind of troubles you had.) (N=0名)

該当者なし

Q5 「そらみつ」プログラム全体に対する感想を教えてください！よかったこと、楽しかったこと、満足したこと、学んだこと、感想などぜひ教えてください。(Write comments about "SORAMITSU program" freely! Tell us what was useful for you, you enjoyed most, what you have learned etc.)

- ・俳句をつくるのがとても楽しかったです！！ 普段聞けない話をいっぱい聞けて、本当に参加して良かったなと思いました！ あと、おしゃべりするのが好きなので、みなさんとお話ができて嬉しいです！
- ・日本文化についていろいろなことが勉強できて楽しかったです。さらに、多くの国の学生さんと話すことができただけでなく、日本人の先生と奈良女子大学の学生さんとも話すことができて大変勉強になりました。また機会があったら、ぜひ参加させていただければと思います。
- ・「そらみつ」プログラムに参加できて、とても嬉しく思います。いろいろな授業と交流活動で日本について知識を得て、日本語能力が高められました。とても勉強になりました。特に日本の学生や他の国の学生と日常を分け合い、交流するのが楽しかったです。もし花と日本文化の授業で先生が生け花をやってみせることができたならさらにいいかもしれないと思います。
- ・「そらみつ」に参加するのは初めてなのですが、とても楽しかったです。色々なものを勉強できて嬉しいです。先生方や奈良女子大学の学生さんたちや他の参加者のみんなはとても優しいので違和感とか全然なかったのです。ありがとうございます。
- ・全部が楽しかったです。ありがとうございます！♥ 奈良大学生たちと皆さんと一緒に弁当と日本語を作るのがすごく楽しかったです。授業も面白くて、楽しかったです。もっと深く生け花、野球、和食、俳句などを学びました。そらみつだから、今回の学期休みの間にたくさんことを学びになりました。嬉しいです。
- ・このプロジェクトを通じて、日本の料理、文化、俳句などのいろんなことを勉強しました。また、異なる国の人と交流して、彼らの国の情報とか料理とかも勉強しました。とても楽しかったです。

- ・プロジェクトを通じて、日本に関する文化、料理、俳句などのいろんなことを勉強しました。また、異なる国の人と交流して、彼らの国の文化とか料理とかを知り、とても楽しかったです。
- ・「そらみつ」プログラムに出会った先生と友達はとても可愛くて親切です！このプログラムに日本美食や文化など、色々なことを勉強できました。すべての授業は面白いですが、一番印象を残る授業は俳句の授業と新しい日本語を作ることです。お世話になりました。どうもありがとうございます！！
- ・前回は今回もとても楽しかったです！特に今回は、会話できる機会が増えて、個人的に大満足しました！授業を受けて、自分も日本文化の知らないことがまだたくさんあるんだなと改めて思いました！ありがとうございました！
- ・ありがとうございました。そらみつプログラムに参加するとき、たくさん話すチャンスがあり、他の国の友達と相談しました。私は日本語を話すのが苦手なので、これは練習する良い機会だと思います。いろいろなことを教えてくれました。私の一番好きな授業は花と日本文化の授業です。生け花についていろいろなこと詳しく教えてくれた。いつか日本に来たら、生け花をやりたいと思います。また、先生が支援を賜り、ありがとうございました。「そらみつ」プログラムに参加し、とても楽しいと思います。私にとって、これはとても役立つプログラムです。
- ・そらみつプログラムは毎回楽しいです、そして毎回新しい物を学びます。授業は毎回面白いと楽しいです。一番好きなのはたぶん俳句と地域の味覚の授業でしたが、全部の授業は面白かったです。このオンラインプログラムで参加するができるはすごく特権（？ privilege）と思います。松原先生と松永先生は本当にありがとうございます。
- ・そらみつプログラムは役に立つプログラムです。いろいろな新しいことが勉強できて、外国人と話せるチャンスがあって、とても楽しかったです。他の人と日本語が話せますので、感謝します。新しい日本語の言葉を作る授業が一番楽しかったです。ありがとうございました。
- ・「そらみつ」は私にとっては役に立つプログラムです。
- ・たくさんの新しい友達ができて、日本文化について学びました。とても面白いと思います。どうもありがとうございました。
- ・SORAMITSU は面白いプログラムだと思います。一番楽しかった授業はお弁当を作り方の授業だと思います。いろいろなが勉強できます。例えば、日本の文化やスポーツや新し言葉を作り方など。とても役に立ちです。それに、新し友達ができます。先生は懐っこいとすごいです。「そらみつ」プログラムを勉強するのは忘れられない記念です。
- ・講義はとても面白い、先生も親切です。いろいろな事を学ぶです。ほんとにありがとうございます
- ・たくさんの面白いことを学べましたが、その中で一番気に入ったのは花と日本文化についての授業でした。先生方は皆さんとても熱心で、ありがとうございました。
- ・ソラミツプログラムに登録して本当によかったです。どの講義も楽しくて、日本人の講師も生徒もとても好きです。「日本のお弁当について」と「日本語について」と「短歌と俳句」の講座がとても好きです。日本語はとても難しいと思っていましたが、「日本語について」という授業を勉強してみるととても面白く感じました。この講座は「日本のお弁当について」と「地域の味覚」という料理に関する講座が2つあるのでとても気に入っています。日本語を話す機会がたくさんありました。私の日本語はとても下手ですが、人の言うことは大体理解できます。このプログラムのおかげで私の日本語は少しずつ上達していると思います。ありがとうございます。

3. 交換留学（受入）

● 交換留学（受入）の概要

本学と学生交流に関する協定を締結する海外の大学に在籍する学生は、1年以内の短期間、本学において勉強や研究を行うことができる。受入れ開始時期は、通常4月1日と10月1日の年2回である。

2023年度の受入れ状況は下記一覧になる。なお、本学の交換留学は、JASSOの海外留学支援制度に「New Silk Road Project: グローカル女性リーダー育成プログラム」として採択されている（本年度支援者：3名）。

学生交流協定を結ぶ海外協定校との交換留学制度を利用して、国際感覚を身に付け、自文化の個性を知り、将来日本と世界を舞台に産学官でグローバルに活躍することのできる女性リーダーを育成することを目的としている。

留学生と日本人学生が共にその歴史・文化を学ぶことで、時代を超えて日本とその国際交流の在り方を理解し、その魅力を海外に発信することの出来る人材が育ち、観光都市としての整備を進め、外国人観光客の誘致に力を入れる奈良の国際化に一役買う地域貢献型のプロジェクトでもある。

● 2023年度交換留学（受入）状況

交換留学受入者数は合計26名。

（台湾9名、中国3名、韓国1名、ベトナム7名、インドネシア1名、オーストリア1名、フランス1名、ベルギー1名、イタリア1名、イギリス1名）

	国・地域	協定校大学名	受入時期	所属
1	ベトナム	ハノイ貿易大学	2023.4-2023.9	文学部 人文社会学科
2	ベトナム	ハノイ貿易大学	2023.4-2023.9	文学部 言語文化学科
3	ベトナム	ハノイ貿易大学	2023.4-2023.9	文学部 言語文化学科
4	台湾	東海大学	2023.4-2023.9	文学部 人文社会学科
5	インドネシア	インドネシア大学	2023.4-2023.9	文学部 言語文化学科
6	台湾	東呉大学	2023.4-2023.9	文学部 人文社会学科
7	中国	武漢大学	2023.4-2024.3	文学部 言語文化学科
8	オーストリア	グラーツ大学	2023.4-2023.9	博士前期課程 人間科学専攻
9	ベトナム	トゥイロイ大学	2023.4-2023.9	理学部 化学生物環境学科
10	ベルギー	ルーヴェン大学	2023.10-2024.9	博士前期課程 人間科学専攻
11	ドイツ	トリアー大学	2023.10-2024.9	博士前期課程 言語文化学専攻
12	台湾	台湾大学	2023.10-2024.3	文学部 人文社会学専攻
13	台湾	台湾大学	2023.10-2024.9	文学部 人間科学科
14	韓国	梨花女子大学	2023.10-2024.3	理学部 化学生物環境学科

15	イギリス	レスター大学	2023.10-2024.9	理学部 化学生物環境学科
16	中国	蘇州大学	2023.10-2024.3	文学部 言語文化学科
17	中国	大連理工大学	2023.10-2024.3	博士前期課程 人間科学専攻
18	台湾	東海大学	2023.10-2024.3	文学部 人間科学科
19	ベトナム	トゥイロイ大学	2023.10-2024.3	理学部 化学生物環境学科
20	ベトナム	トゥイロイ大学	2023.10-2024.3	理学部 化学生物環境学科
21	台湾	東呉大学	2023.10-2024.3	博士前期課程 言語文化学専攻
22	台湾	東呉大学	2023.10-2024.3	博士前期課程 人文社会学専攻
23	台湾	東呉大学	2023.10-2024.3	文学部 言語文化学科
24	台湾	東呉大学	2023.10-2024.3	文学部 人文社会学科
25	ベトナム	ハノイ外国語大学	2023.10-2024.9	生活環境学部 文化情報学科
26	フランス	パリ大学	2023.10-2024.9	文学部 言語文化学科

4. 日本語・日本文化研修留学生

■ 概要

日本政府（文部科学省）奨学金により、日本の大学において日本語能力及び日本事情、日本文化の理解の向上のための教育を受ける外国人留学生である。日本以外の国の大学で、学部在学し、原則、日本語・日本文化に関する分野を主専攻として専攻している者が対象となる。文学部言語文化学科日本アジア言語文化学コースと国際交流センターが連携して、コースを運営している。

● 2023 年度 受入学生 2 名（研修期間：2023 年 10 月 1 日から 2024 年 8 月 31 日まで）

氏名（フリガナ）	国籍	所属
Nguyen Anh Duong（グエン アイン ズオン）	ベトナム	文学部
Hwang Inhye（ファン インヘ）	韓国	文学部

● 2023 年度 修了学生（研修期間：2022 年 10 月 1 日から 2023 年 8 月 31 日まで）

氏名（フリガナ）	国籍	所属
Nguyen Huong Thao（グエン フォン タオ） 「アニメの『聖地巡礼』が日本の観光産業に与えている影響 —新型コロナ禍以後の地域活性化の取り組み—」	ベトナム	文学部

● 修了レポート

P143 ～ P150 のとおり

アニメの「聖地巡礼」が日本の観光産業に与えている影響 —新型コロナ禍以後の地域活性化の取り組み—

ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学東洋学部日本学科
奈良女子大学科目等履修生

グエン・フオン・タオ
NGUYEN HUONG THAO

目 次

はじめに	144
第一章 概念	144
1 アニメとは	144
2 聖地巡礼とは	144
3 アニメ放映後聖地巡礼の新たな意味	145
4 地域活性化とは	145
第二章 日本に来る観光客の現状	145
1 コロナ禍事前・以後の現状	145
2 観光客の訪日旅行目的	146
第三章 新型コロナ禍以後の地域活性化の取り組み	148
1 聖地巡礼が「地域活性化」の一つの答えとなる	148
2 アニメで地域活性化を試みた地方自治体事例	148
おわりに	149
参考文献	150
参考ウェブサイト	150

はじめに

アニメ・マンガは日本の日常生活に欠かせないものとなっている。これらは、個人的なエンターテインメントのニーズに応えるものから公共事業サービスに至るまで、あらゆる場所に登場している。「ワンピース」や「ナルト」などの人気のアニメシリーズは、日本文化に関心を寄せる国を越えたコミュニティを形成させた。このことは、政府や観光団体がアニメを観光客誘致や観光産業の強化のツールとして利用するのに有利な条件となった。

この方法のおかげで、日本の多くの地域は世界中のアニメのファンにとって魅力的な目的地となっている。アニメ聖地巡礼から観光産業の発展は、観光客の誘致や売上の増加だけでなく、日本独自のイメージや文化を世界に発信することにもつながる。

本レポートでは、人々が日本文化にどのように近付いているのかを調べて、それを通じて、アニメ聖地巡礼ツーリズムが地域活性化に与える影響を明らかにすることを目的としている。

第一章 概念

1 アニメとは

「アニメ」は「アニメーション」の略語であり、日本のアニメーション作品のことを指す。アニメの歴史はマンガと密接な関係があり、人気マンガからのアニメ化作品が数多く存在する。一般的に、手描きまたはコンピューターグラフィックス（CG¹）を用いて制作され、テレビ番組、映画、オリジナルビデオアニメーション（OVA²）、ウェブ配信などで放映される。アニメは、幅広いジャンルやターゲット層を持ち、子供向けから大人向けまで様々な作品が存在する。

戦後から 21 世紀にかけて、アニメは活発に発展している。共通点は、アニメは SF ジャンルであり、ロボット、特に魂を持ったロボットに関する物語のモチーフで有名であるということだ。これは最も影響力のあるジャンルでもあり、日本のアニメーション産業の発展に関連している (Susan Napier, 2011)。アニメやマンガをハッピーエンドの多いアメリカ映画と比較したときの違いは、心理的なリアリズム、悲しみ、人間や世界の悲劇を受け入れる意欲にある。インターネットの発展により、アニメやマンガも世界的に広がった。それ以来、マンガとアニメのファンダムは世界的に拡大した。

2 聖地巡礼とは

聖地巡礼とは宗教上の聖地・霊場などを参拝して回ること。（デジタル大辞泉より <https://www.weblio.jp/content/%E8%81%96%E5%9C%B0%E5%B7%A1%E7%A4%BC?dictCode=SGKDJ>）参拝した寺院では、人々は参拝の証としてノートに御朱印を押す。

1 コンピューターを使用して描かれた画像や図形のこと。または、それらを作成する技術のこと。グラフィック・ソフトを使用して、本物そっくりの 2 次元や 3 次元のコンピューター・グラフィックスを作成できる。

2 《original video animation》テレビ放映や映画公開用ではなく、セルビデオ向けに制作されたアニメーション作品の通称。

3 アニメ放映後聖地巡礼の新たな意味

アニメ放映後、聖地巡礼とは、アニメや漫画、小説、映画などの作品に登場する架空の場所や実在する場所を、ファンや愛好者が実際に訪れることという新たな意味である。

FNN プライムオンライン新聞に掲載された岡本健教授へのインタビューによると、聖地巡礼は1990年代から存在していたと考えているという（FNN プライムオンライン、2019年3月19日、「なぜ、訪日外国人がアニメ・映画の『聖地巡礼』にハマっているのか?」、<https://www.fnn.jp/articles/-/7713>）。作品でいうと「究極超人あ〜る」（1991年）「美少女戦士セーラームーン」（1992年）「天地無用! 魍皇鬼」（1992年）などが挙げられる。

インターネットの普及にともない、アニメを知る人が急激に増えてきた。したがって、アニメの舞台となった場所を旅行するというトレンドが始まった。それらの場所はすぐに「聖地」な場所になった。

4 地域活性化とは

地域活性化とは、ある特定の地域の経済、社会、文化などの面で、活力を取り戻すことや新たな活動を促進することを指す。地域活性化の目的は、その地域の魅力を引き出し、持続的な成長や発展を促進することである。

地域活性化の重要性は、以下の点によって示される：

経済発展：地域活性化は、地域内の事業や産業の活性化を促進し、雇用の創出や所得向上など経済的な面でプラスの効果をもたらす。

観光振興：地域の歴史や文化、自然の魅力を活用することで、観光業が振興される。観光客の増加は、地域の経済に大きく貢献することがある。

地域への定住促進：活気がある地域は魅力的な居住地となり、人々の定住を促進する。これにより、地域の人口減少を防ぎ、地域社会の活性化を図ることができる。

地域の資源活用：地域活性化は、地域内の資源を有効活用することにより、地域の持続可能性を高めることを目指す。

第二章 日本に来る観光客の現状

1 コロナ禍以前・以後の現状

新型コロナウイルス感染拡大による打撃は、世界中の多くの国や地域に影響を与えた。日本も例外ではない。

観光庁が2022年に実施した右図1の「訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移」の結果によると、2003年から2019年まで、海外へ行く日本人の数は年ごとに大きな変化はなかった。注目すべきは日本への観光客数が急増しており、2003年には521万人、2019年には3188万人となった。し

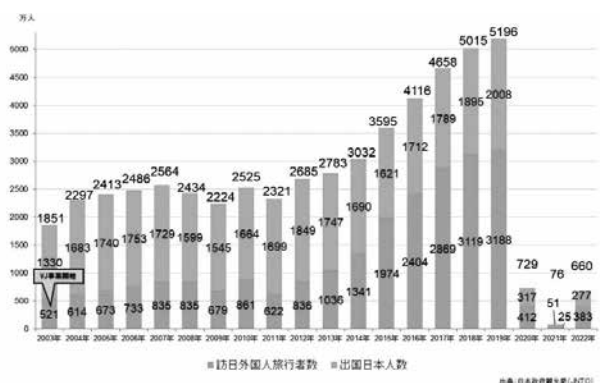


図1 訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移
(出所: https://www.mlit.go.jp/kankochou/siryou/toukei/in_out.html より)

しかし、新型コロナ流行以降、その数は急激に減少した。旅行が制限されているので、2020 年から 2022 年の間、データは最下位に達した。観光目的で訪れる外国人の数は 25 万人、海外に行く日本人の数は 51 万人というデータがある。

この新型コロナの発生は日本の観光産業に大きな被害額を与えた。例えば、観光庁が 2020 年に実施した右図 2 の「宿泊業の年間倒産件数」の結果によると、感染拡大以降、2020 年 1 年間で宿泊業者の倒産は 2019 年対比約 1.5 倍の 118 件と大幅に増加した。

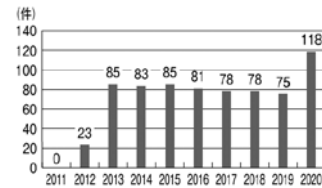


図 2 宿泊業の年間倒産件数

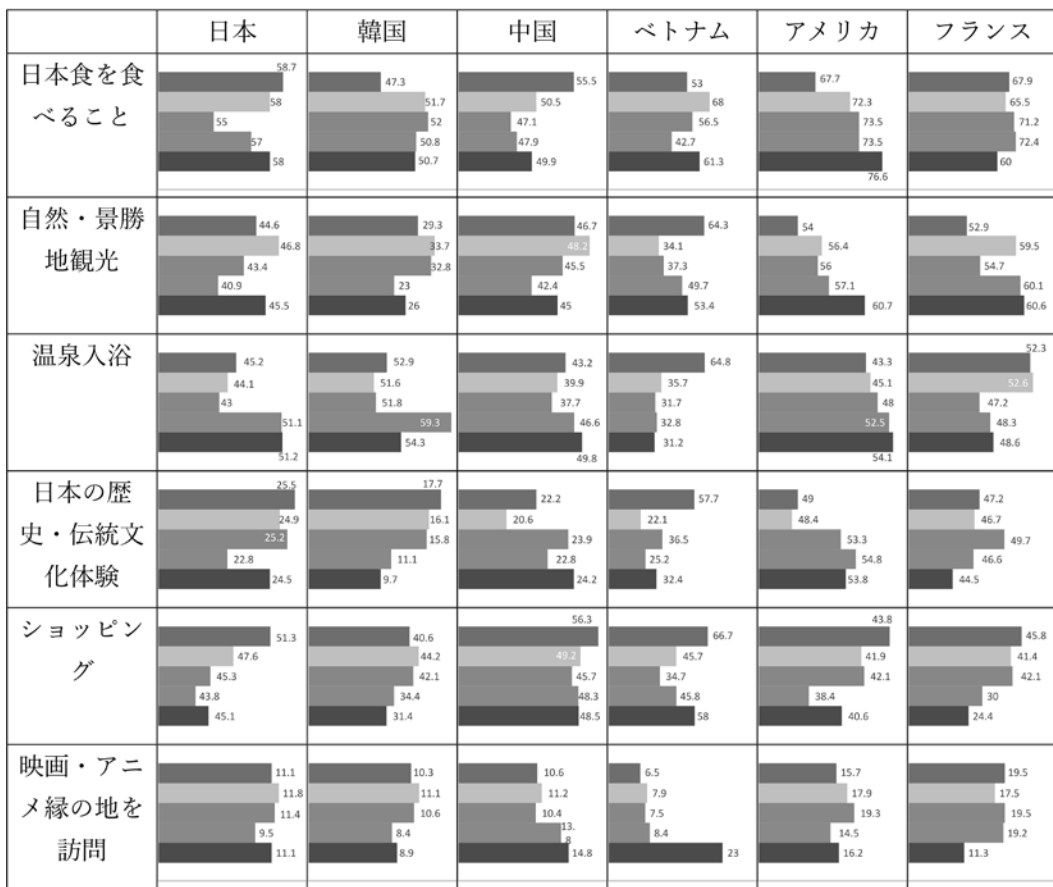
(出所：https://www.mof.go.jp/public_relations/finance/202110/202110j.pdf より)

新型コロナの影響は目に見えて明らかであり、同時に国全体の経済発展に多くの余波を与えている。

2 観光客の訪日旅行目的

調べている間で、そして日本政府観光局 (JNTO) 発行の「訪日旅行データハンドブック」(2022 年版) を基に、2015 年から 2019 年の間、外国人観光客 (一部の国) の訪日旅行目的をまとめたと思う。(目的はいろいろあったが、最も一般的な理由を選択する。)

■ 2019 年 ■ 2018 年 ■ 2017 年 ■ 2016 年 ■ 2015 年 単位：%



外国人観光客の訪日旅行目的

以上のデータによると、観光客が日本を訪れる際の日本の歴史・伝統文化体験や日本食を食べることなどの身近な目的が見える。しかし、この10年でSNSの普及にともない、アニメやマンガはより受け入れられ、人気になった。そのため、アニメファンのコミュニティにも聖地巡礼と呼ばれる観光形態の存在が知られている。データから見ると、他の身近な目的ほどではないが、かなり高い数値を示している。たとえば、23%（2015年）のベトナム人または19.5%（2019年）のフランス人が映画やアニメアニメ縁の地を訪問したいと考えている。

また、日本人約40名（奈良女子大学の学生と他の日本人）、外国人40名を対象に小規模なアンケートも実施した。

外国人の日本へのアプローチ方法に関するアンケート（右図3）では、主にインターネットを通じて日本のことを知っている人が47.5%を占める。2位の結果は主にアニメやマンガなどを通じて日本を知っている人（32.5%）が得られた。また、日本への旅行の目的（外国人の場合、図4）とその場所への旅行の目的（日本人の場合、図5）についても、JINTOのデータと比べて差のあるものは多くない結果となっている。

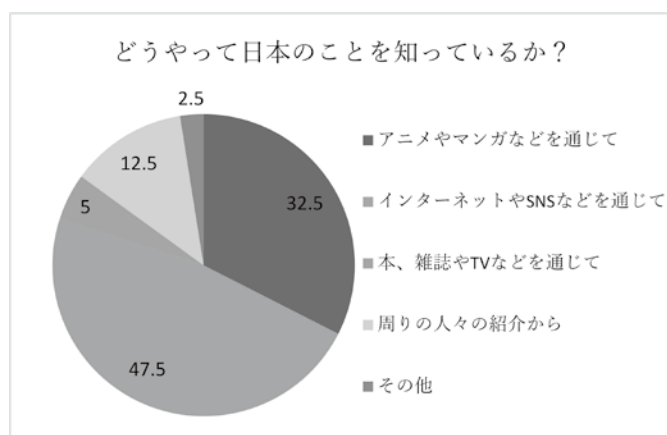


図3 どうやって日本のことを知っているか？

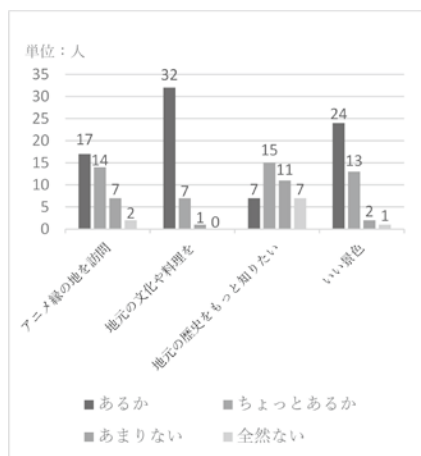


図4 日本への旅行の目的（外国人の場合）

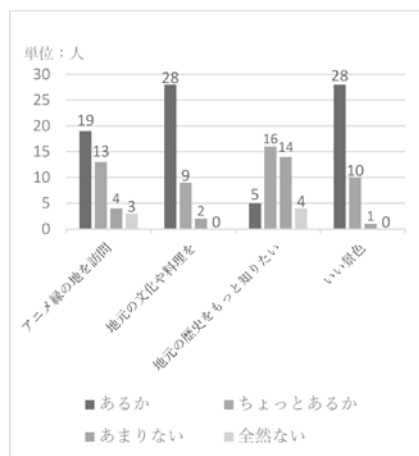


図5 その場所への旅行の目的（日本人の場合）

以上のことから、日本人と外国人の観光目的には共通点があることが分かる。また、多くの日本人がアニメに縁のある地に行くことに興味を持っていることも見える。

第三章 新型コロナ禍以後の地域活性化の取り組み

1 聖地巡礼が「地域活性化」の一つの答えとなる

地域活性化には、いろいろな方法がある。例えば、教育・文化の振興し、地域の特色を活かしたフェスティバルやイベントを開催し、地域の魅力をアピールするためのブランディング活動を行い、地域の観光名所や文化、伝統を活用して観光資源に活用するという方法である。地域の観光資源が充実している場合は、特別な努力をしなくても観光客を誘致できる可能性がある。それに、観光資源がなくても文化的に貴重なものがあれば、それを地域のシンボルとしてイベントなどを企画し、地域の活性化に寄与することができるかもしれない。しかし、観光資源も文化的資源も持たない地域ではこれらの選択肢がないという課題がある。一方、アニメ聖地巡礼では、特に有名でないスポットであっても、アニメに登場すれば聖地となることがある（牧 和生、2019）。第2章で述べたように、新型コロナは観光産業と地域経済に深刻な影響を与えた。そこで、コロナ禍後の経済を回復させるため、アニメに登場する場所を活用して地域活性化を図る政策の一つが各地で行われている。

アニメでは、作者は伝統的な衣装、食べ物、お祭りからライフスタイル、思想、行動、音楽などに至るまでの日本文化を作品に統合した。そのおかげで、日本文化がより多くの人に知られるようになった。そのため、彼らはそれを家で座って画面越しに見るだけでなく、日本に行って体験したいと考える

株式会社JTB 総合研究所、株式会社バルクが2015年に実施した図6の「漫画・アニメに登場する場所・風景に興味を持ったきっかけ」の結果によると、「自然風景」「街並み」「歴史的文化的な見どころ」は選ぶ人が多い。

以上の観察から、アニメは日本の文化と国を世界に宣伝するのに役立つツールとして機能すると言える。おそらく訪日客の元々の目的は、好きなアニメシリーズに登場する場所を訪れることだけだが、日本に来ると、その場所だけでなく文化的な体験にも惹かれるのである。そのような聖地巡礼はアニメファンによって生まれた。もちろん、たくさんのアニメファンの観光客が来てくれるのは地方にとって良いことだ。しかし、これは一時的なブームと考えられており、アニメツーリズムのような地域の持続可能な発展につなげる方法を見つけなければ、観光客の数は急速に減少する可能性がある。それが各地方の地域活性化の課題である。

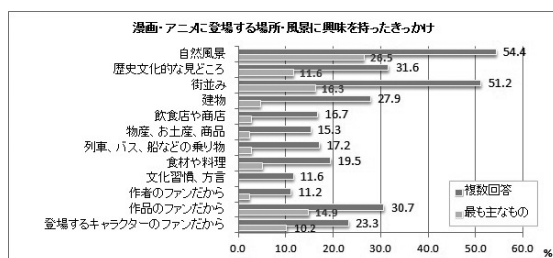


図6 漫画・アニメに登場する場所・風景に興味を持ったきっかけ
(出所: <https://www.tourism.jp/tourism-database/column/2015/05/manga-anime/> より)

2 アニメで地域活性化を試みた地方自治体事例

● 岐阜県・「君の名は」

「君の名は」は2016年に公開された映画で、すぐに有名になった。日本での興行収入は250.3億円を超え、そして日本歴代興行収入ランキングでは「千と千尋の神隠し」「タイタニック」「アナと雪の女王」に次いで第4位となった。2020年に「劇場版 鬼滅の刃 無限列車編」が初公開された後、その順位は5位に下がった。(出所: CINEMA ランキング通信、2023年7月23日、歴代ランキ

ング「歴代興収ベスト100」、<http://www.kogyotsushin.com/archives/alltime/>)。

作品の舞台となった飛騨地方では、「君の名は。」による経済効果が見られる。劇中では「糸守町」という架空の都市名となっているが、監督が飛騨地方をイメージにしたことや公開前から岐阜県飛騨市とのタイアップによるプロモーション活動が行われていたことから、飛騨市が聖地巡礼のメッカとなっている。「君の名は。」展が開催され、訪日外国人観光客が数万円分のオフィシャルグッズを購入するなど、作品による経済効果が顕著に現れている。

● 北海道・ゴールデンカムイ AR スタンプラリー

北海道を舞台にしたアニメ・漫画「ゴールデンカムイ」のARスタンプラリーが、実際の北海道で開催された。北海道観光振興機構が、2018年から実施しているテレビアニメ「ゴールデンカムイ」とのタイアップキャンペーンである。このキャンペーンでは、スマホアプリ「舞台めぐり」を利用したスタンプラリーが行われている。北海道の開拓の歴史やアイヌ文化を伝える博物館や資料館をはじめ、様々な観光施設にチェックインポスターが掲示されている。なお、アニメや漫画の人気キャラクターやシーンをAR（拡張現実）技術を活用して実際の風景と結びつけるイベントである。

参加者は北海道各地に設置されたARスタンプポイントを巡り、スマートフォンやタブレットを使ってキャラクターやアイテムが登場するARスタンプを集める。このようなスタンプラリーは、地域振興や観光促進に大きな効果をもたらすことができ、アニメや漫画のファンだけでなく、観光客や地元の方々も楽しむことができる。ITmedia Newsの掲載情報によると、北海道観光推進機構も「スタンプの実演を通じて、町内にはまだまだ多くの観光名所や施設があることを知ってもらいたい。まだ多くの人に知られていない北海道」と説明している。（出所：ITmedia News、2020年03月02日、「「距離感がぶっ飛んでる」北海道を巡る「ゴールデンカムイ」のARスタンプラリーが話題、移動直線距離800km超の理由は？」、<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2003/02/news021.html>）。

最近の第4戦は2022年8月1日から2023年3月31日までの「ゴールデンカムイ」のARスタンプラリーが北海道で開催されたことで、立ち寄りチェックインスポットは札幌、小樽、旭川、日高、空知、道東エリアの網走、弟子屈、釧路、阿寒湖に点在している。全てのスポットを直線で結ぶと、800kmを超えるようである。



撮影場所：小樽市総合博物館（本館）



スタンプの設置場所

おわりに

このレポートは、アニメの「聖地巡礼」が日本の観光産業にどのような影響を与えているかを明

らかにした。同時に、アニメ聖地巡礼は地域だけでなく、訪日観光客にとっても多くの「きっかけ」をもたらすものであるとも言える。その「きっかけ」は地域の活性化・発展に貢献し、地域特産品を知り、特産品を目的に地域を訪れ、他のファンとつながることなどである。

筆者も日本に留学している外国人であり、アニメにも興味があり、新しい経験を楽しんでいる。私も日本各地に旅行する経験を通じて、巡礼観光がその地域にもたらす影響の大きさを感じている。

参考文献

Susan Napier, 2011 『Part III Cool Japan: Manga and Anime: Entertainment, Big Business, and Art in Japan』、Routledge Handbook of Japanese Culture and Society

JNTO 訪日旅行データハンドブック、2022

牧 和生、2019 『コンテンツツーリズムへの批判と展望』、現代ビジネス学会「九州国際大学国際・経済論集」第3号

参考ウェブサイト

<https://www.fnn.jp/articles/-/7713>、FNN プライムオンライン、「なぜ、訪日外国人がアニメ・映画の『聖地巡礼』にハマっているのか?」、2019年3月19日（最後閲覧日 2023年7月28日）

https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryoutoukei/in_out.html、観光庁、「訪日外国人旅行者数・出国日本人数」（最後閲覧日 2023年7月28日）

https://www.mof.go.jp/public_relations/finance/202110/202110j.pdf、財務省、「日本の観光の現状と今後の展望」（最後閲覧日 2023年7月28日）

<https://www.tourism.jp/tourism-database/column/2015/05/manga-anime/>、JTB 総合研究所、「漫画・アニメを活用した地域活性化の可能性」2015年05月15日（最後閲覧日 2023年7月28日）

<http://www.kogyotsushin.com/archives/alltime/>、CINEMA ランキング通信、歴代ランキング「歴代興収ベスト100」、2023年7月23日（最後閲覧日 2023年7月29日）

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2003/02/news021.html>、ITmedia News、「「距離感がぶっ飛んでる」北海道を巡る「ゴールデンカムイ」のARスタンプラリーが話題、移動直線距離800km超の理由は?」、2020年03月02日（最後閲覧日 2023年7月29日）

<https://gushio.site/anime-manga-region/>、MVR 経営・動画・地域活性、「アニメ・漫画で地域活性化を試みた地方自治体事例まとめ6選」（最後閲覧日 2023年7月29日）

5. 修士ダブルディグリープログラム（受入）

■ 修士ダブルディグリープログラム概要

奈良女子大学は、ハノイ大学（ベトナム）、ルーヴェン大学（ベルギー）、南京大学（中国）の3校とダブルディグリープログラムの協定を締結している。奈良女子大学および締結先大学において、学生が二つの学位の取得を目指すプログラム。

● 2023 年度 受入学生 ハノイ大学（ベトナム）

氏名	所属
Le Thuy Trinh (レー トゥイ チン)	人間文化総合科学研究科博士前期課程 言語文化学専攻

● 2023 年度 受入学生 南京大学（中国）

氏名	所属
牛 万莉 (ギュウ バンリ)	人間文化総合科学研究科博士前期課程 人文社会学専攻
李 金潞 (リ キンロ)	人間文化総合科学研究科博士前期課程 人文社会学専攻

● 2023 年度 修了学生

氏名	所属
簡 子珊 (カン スサン)	人間文化総合科学研究科博士前期課程 人文社会学専攻
徐 蘊儀 (ジョ ウンギ)	人間文化総合科学研究科博士前期課程 言語文化学専攻

6. 全体評価

2023 年度の受入れは、正規学生、交換留学生、研究生等が 200 名、短期オンラインプログラム修了者 90 名の合計 290 名という目標に対して、前者が 185 名、後者が 45 名（うち、学籍を与えていないプログラム 26 名）の合計 230 名という結果だった。2022 年の留学生数は、正規学生、交換留学生、研究生等が 167 名、短期オンラインプログラム修了者が 94 名（うち、学籍を与えていないプログラム 10 名）だったので、渡航出来る状況になり、オンラインプログラム参加者が半減したことが分かる。

ただ、今年度よりコロナ後はじめて対面の受入プログラムを再開し、日本語サマープログラム「万葉」5 名、理学部による「SSPM」6 名、さくらサイエンス 20 名（2 プログラム）を受け入れることが出来た。規模は小さいものの、各プログラムの満足度は非常に高いものとなった。来年度以降本格的に対面の受入れプログラムを実施する足掛かりにしていきたい。

修士ダブルディグリーでは、ハノイ大学から1名、南京大学から2名の学生を新たに迎えたほか、南京大学からの2名が無事に本学を修了した。また、特待留学生制度に基づき、ダッカ大学（バングラデシュ）から学生1名を受入れたほか、1名が修了した。

今年度は、8月に国際戦略センターのキックオフシンポジウムを行い、奈良女子大学との関係として南京大学の教員およびベトナム佐保会から元留学生OGに、奈良教育大学との関係からストラスブール大学の教員にご参加いただいた。南京大学とは、教員派遣事業の再開および大学院ダブルディグリーの拡充について協議した。また、ベトナム佐保会については、若い世代の加入がうまくいっていなかったため、こちらで近年の卒業生への意向を確認し、80名が新たに加入した。活躍しているOGも多いので、ベトナム国内での同窓会活動を通じて新たな人脈作りに役立ててもらおうとともに、本学のPRおよび留学生獲得にもご協力いただけることを期待している。ストラスブール大学についても、本学にも共同研究等ですでに交流のある教員がいることから、今後協定を締結することを検討している。国際戦略センターとして、協定校の拡充や留学生受入促進についても、両大学で協力して進めていきたい。

Ⅲ．その他事業

1. 国際戦略センター開講科目

■ 開講科目一覧

キャリアデザイン・ゼミナール	TOEFL 対策講座
	国際グループワーク A / B (前 / 後期)
	学生による海外協定大学学生向けの交流企画運営 (前 / 後期)
	国際チャレンジ活動 (前 / 後期)
	ビジネス日本語 A / B (前 / 後期)
	留学生インターンシップ
教養科目	アジア学入門 (前期)
	ベトナムの言語と文化 (後期)
	アラビアの言語と文化 (後期)
	Modern Japanese Literature and Media A / B (前 / 後期)
	Japanese Culture and History A / B (前 / 後期)
	Contemporary Japanese Society A / B (前 / 後期)
	Traditional Japanese Culture A / B (前 / 後期)
外国語科目	Global Studies and Communication A / B (前 / 後期)
	スペイン語初級 I / II (前 / 後期)
日本語科目	スペイン語中級 I / II (前 / 後期)
	日本語 F I (1) / (2) (前 / 後期)
	日本語 F II (1) / (2) (前 / 後期)
	日本語 F III (前期)
	日本語 F IV (後期)
	日本語 J I / J II (前 / 後期)
	日本事情 A / B (前 / 後期)

キャリアデザイン・ゼミナール A (16) TOEFL 対策講座

◆ 授業概要

TOEFL 対策講座。英語圏への留学や大学院受験で TOEFL 対策が必要な学生向けの講座。TOEFL とはどのような試験なのか？というところから、四技能 (Reading, Listening, Writing, Speaking) や語彙などの自律的な学習方法、問題の解き方や注意点を短期間で集中的に紹介する。最終日に授業内試験を実施するが、目的はあくまでも紹介した学習方法や問題の解き方の確認と現在の自分の力を把握することであり、試験の結果が成績評価に反映されるということではない。実践を交えて行うので、積極的な参加態度を求める。

◆ 学習到達目標

TOEFL 試験で高得点をとるための英語学習法を短期間で会得する。将来の留学や大学院入試に備え、自律的な英語学習法を身につける。

キャリアデザイン・ゼミナール B (37) (38) 国際グループワーク A/B

◆授業概要

異なる国・地域出身の学生が協同的に課題を発見し、自主企画を検討・実践する国際グループワーク。全 8 回の授業のなかで、学生がお互いの文化・言語に触れながら、どのようにすれば国際交流が可能になるかについてディスカッションを行い、最終的には学内・学外に向けて国際交流や異文化理解につながるような企画を検討・実践する。(具体的には、国際空間 CotoQue における掲示物作成／学内・学外に公開する動画作成など) 基本的に日本語で行うが、日本語が得意なメンバーもいるので、様々な翻訳ツールを活用するといった工夫をグループ内で行うこと。

◆学習到達目標

- ・様々な文化的背景をもつ学生同士が共同で課題設定および解決方法の提案を行う力をつける
- ・積極性、協調性、コミュニケーション能力を高める
- ・立案・実施にあたって困難な状況においても自ら工夫する力を身につける。

キャリアデザイン・ゼミナール B (46) (70) 短期留学生との学生交流企画 (立案・実行)

◆授業概要

国際戦略センター主催で、海外の協定大学留学生を対象とし、オンラインまたは対面で実施する短期研修において、運営補助および留学生との交流活動企画の立案・実行をする。

◆学習到達目標

学生交流企画の立案・実行を通じて主体性・実行性を身につけるとともに、留学生との交流を通じて奈良や日本をより深く理解し、発信する力を養う。また、様々な国の学生と交流することで、視野を広げ、世界に目を向け、国際理解と国際交流への興味・関心を持つことで、語学力向上や海外留学への契機とする。

キャリアデザイン・ゼミナール B (54) (71) ～ (74) 国際チャレンジ活動

◆授業概要

キャリアデザイン・ゼミナール B (54) (71) ～ (74) 「国際チャレンジ活動 A ～ E」。科目化されていない大学等主催の海外研修や、個人で計画した海外における活動 (留学、インターンシップ等) の中で、キャリア形成に有益であると認められるものについて単位を認定する。海外における活動時間は 22.5 時間以上必要 (オンライン留学の場合は、オンライン授業 15 時間以上に自主学習時間を含めて 22.5 時間を満たせば申請可)。なお、事前に履修登録を行う必要はない。卒業・修了年度の学生は、活動終了日が 10 月 1 日以降の計画については申請不可。留学計画を立てる際は、当該科目のウェブサイト「海外渡航の際の注意点」を必ず確認すること。

◆学習到達目標

海外における活動 (留学、インターンシップ等) を通じて、チャレンジ精神、実践力を養うとともに、コミュニケーション能力の向上および自他文化に対する理解を深め、グローバルに活躍できる人材としての要素を涵養する。

キャリアデザイン・ゼミナール A (19) (20) ビジネス日本語 A/B

◆授業概要

日本での就職や母国の日系企業への就職を考える留学生が対象。ビジネスマナーや敬語について学習する他、実践的なシチュエーションを交えてビジネスメールを書く練習や就職活動時に必要となる自己PRの練習を行う。また、併せて日本の企業文化や日本人のコミュニケーションについても考える機会とする。座学ではなく多くの練習を行うため、積極的な参加態度を求める。

◆学習到達目標

日本で就職する留学生や日系企業で働くことを考えている留学生の就職活動が容易となり、進路の幅が広がることが期待される。

キャリアデザイン・ゼミナール B (65) 留学生インターンシップ

◆授業概要

国際戦略センター主催または共催・協力の、企業や地方自治体の事業での研修など、科目化されていないインターンシッププログラムの中で活動を行い、その中でキャリア形成に有益であると認められるものについて単位を認定する。活動時間は22.5時間以上必要。なお、事前に履修登録を行う必要はない。(留学生のみ対象。4回生は、活動終了日が年内の計画について申請可) 具体的な授業の概要については、国際戦略センターが開く説明会で指示する。

◆学習到達目標

インターンシップ活動を通じて、実践的な日本語運用能力の向上を図り、チャレンジ精神、実践力を養うとともに、コミュニケーション能力の向上および母国文化と日本文化との違いなど文化に対する理解を深め、グローバルに活躍できる人材としての要素を涵養する。

アジア学入門

◆授業概要

現代世界におけるアジアのプレゼンスは近年ますます大きくなっており、今後もその重要性が増していくことは疑いない。その理解にはアジア各地の文化や社会の多様性を把握することが必要不可欠である。幸い本学には、アジアの広い地域をカバーできるだけの研究者が存在する。本講義では、それら専門家のオムニバス形式で、アジア諸国の基本情報からより深く突っ込んだ研究成果まで、様々な角度から教授する。本学はアジア諸国の大学と交流が盛んなので、新たな交流の担い手を育てたい。

◆学習到達目標

アジア諸地域についての最新の知識を身につけ、自らのキャリアパス形成に役立てる。

ベトナムの言語と文化

◆授業概要

初めてベトナム文化・ベトナム語に触れる学生を対象に、ベトナム語の発音、文法の基礎の習得を目的とした授業を行います。挨拶や自己紹介などの言語表現を通して、そこに表れるベトナムの文化や習慣等を解説します。

◆学習到達目標

- ・ ベトナム語の文字と音の対応を知り、読み上げることができる
- ・ 基本構文を用いて挨拶や自己紹介などを行うことができる
- ・ ベトナム人の考え方やベトナムにおける風習について理解し、尊重することができる

アラビア語の言語と文化

◆授業概要

標準アラビア語（フスハー）の入門授業を行う。特にリーディングに重点を置く。文字と発音から始めて、簡単な文章が理解できるようになることを目指す。

◆学習到達目標

アラビア語の基礎を身に付ける（知識・理解）。

Modern Japanese Literature and Media A

◆授業概要

This course provides students with a general survey of modern Japanese literature from late 19th to mid-20th century. Through the analysis of major works it examines how Japanese literature has evolved during this period. Particular attention is given to its interconnectedness with cinema and other media.

◆学習到達目標

The objective of this class is to get a basic understanding of the history of Japanese literature since late 19th century.

By the end of the course students will be acquainted with some of the major texts and issues of modern Japanese literature and its development in media- and socio-historical context.

Modern Japanese Literature and Media B

◆授業概要

This course provides students with a general survey of modern Japanese literature from mid-20th century until today. Through the analysis of major works it examines how Japanese literature has evolved during this period. Particular attention is given to its interconnectedness with cinema and other media.

◆学習到達目標

The objective of this class is to get a basic understanding of the history of Japanese literature since late 19th century.

By the end of the course students will be acquainted with some of the major texts and issues of modern Japanese literature and its development in media- and socio-historical context.

Japanese Culture and History A/B

◆授業概要

This course focuses on the process of modernization in Japan and examines Japan's encounter with the international scene. The second semester provides a broad overview of Japanese history from the Great Kanto Earthquake to the beginning of the 'bubble'. The cultural introduction to the period will focus on literary works, but the students will peruse a wide range of other sources also (literary and cultural criticism, news paper articles, manga, films, etc.) . These sources will be examined in their historical, social, literary and cultural contexts from a comparative perspective.

◆学習到達目標

By the end of the course, the students will have:

- acquired an understanding of how Japanese society and Japan's role in the world have changed in the modern era, (knowledge; understanding)
- learned how to tackle with stereotypes concerning Japan, (attitude; intentionality)
- gained a better understanding of the origins of Japan's present social and culture environment. (knowledge; understanding)

Contemporary Japanese Society A

◆授業概要

This class introduces the contemporary Japanese society for international students. Packed with explanations and dynamic images, it ranges from the popular culture to the latest trend.

◆学習到達目標

This course introduces the contemporary Japanese society not only in classes but also by field trips from time to time. At the end of this course, it will open your mind to the real Japanese society, and make you want to learn more.

Contemporary Japanese Society B

◆授業概要

This class reinvents Contemporary Japanese society for the international students. Classes are developed to pop cultural genres, with attention to the star, idols, and urban subcultural genres — Otakus, Gals, Lolitas, and Cosplay.

◆学習到達目標

This course introduces the Contemporary Japanese society not only in classes but also by field trips from time to time. At the end of this course, it will open your mind to another aspects of the Japanese culture, and make you want to learn more.

Traditional Japanese Culture A

◆授業概要

In this class we deal with the general information needed for studying in Japan. In the early part of the class, I explain the various themes concerning Japan such as the religion and the history. In the latter part, we investigate the characteristics of Japanese mind through the classic Japanology works. For the time being, I'd like to read "Iki no kozo" by Kuki Shuzo. I'd like to introduce the discussion between students who take the course and compare the respective cultures.

◆学習到達目標

This class is intended to broaden the knowledge of Japanese culture, history and mentality. Furthermore, the goal setting is to grasp the perspective of Japanese, through reading Japanese classic texts.

Traditional Japanese Culture B

◆授業概要

In this class we deal with the Japanese social movement,, especially focusing on 1960's student movement.

◆学習到達目標

The goal setting is to grasp the student movement in 1960's.

Global Studies and Communication A / B

◆授業概要

This class is intended as an intermediate-level communication course for students preparing to study abroad. Specifically, the course will focus on developing the communication and listening skills so important in today's world. Each week the students will be given many opportunities to practice using English in a variety of situations. Pair, group and individual activities focusing on National Geographic video clips will inspire students to talk about their experiences as they learn about the world. An important component of the course is communication with overseas ESL instructors via Skype. The course will be limited to 24 students.

◆学習到達目標

The primary goals of this course are the development of English communication skills and awareness of our global connections. Through a wide variety of activities, students will work towards expressing themselves naturally in English. Authentic listening and visual materials on fascinating real-world topics will stimulate the students to speak out and to exchange ideas with their classmates. It is hoped that the students will become more effective communicators and enjoy collaborating with the group.

スペイン語初級Ⅰ

◆授業概要

初学者を対象として、初級文法を軸にした学習を行いつつ、あわせて基礎的な語彙や表現についても学ぶ。それらの学習を通して、平易なスペイン語を理解・表現する（具体的には、発音と綴りのルール、性数一致、動詞活用、人称代名詞などの文法事項を理解・記憶し運用する、簡単な会話や文章を理解する等の）力を養成する。

◆学習到達目標

スペイン語を正しく発音し綴ることができる、名詞や形容詞の語尾変化と性数一致、あるいは動詞活用、人称代名詞などの文法事項を正しく運用できる、簡潔な会話や文章を文法的に正しく理解できる能力を身につける（汎用的技能）。

日本語や英語とは異なる構造の言語を学習することにより多文化理解力を高める（知識・理解）。

スペイン語初級Ⅱ

◆授業概要

スペイン語初級Ⅰを修得済みの学生を対象として、初級文法の学習をさらに進め、あわせて基礎的な語彙や表現についても学ぶ。それらの学習を通して、スペイン語を理解・表現する（具体的には、直説法および接続法の各時制の動詞活用と用法、あるいは、関係詞や比較表現などの文法事項を理解・記憶し運用する、様々な文法・語彙・表現が登場する会話や文章を理解する等の）力を養成する。

◆学習到達目標

初級Ⅰ・Ⅱで学習する基礎的な文法事項全般を正しく運用できる、種々の文法・語彙・表現が登場する会話や文章を文法的に正しく理解し和訳できる能力を身につける（汎用的技能）。

日本語や英語とは異なる構造の言語を学習することにより多文化理解力を高める（知識・理解）。

スペイン語中級Ⅰ

◆授業概要

スペイン語初級Ⅰ・Ⅱを修得済みの学生を対象として、より高度な文法・語彙・表現を学習する。同時に、それらを駆使してスペイン語を理解・表現する（具体的には、スペイン語の会話を理解する、スペイン語で作文する、スペイン語で書かれた長文を読解し和訳する）力を養成する。

◆学習到達目標

中級レベルの文法・語彙・表現を習得し、ある程度まとまった長さの文章や会話を理解し和訳できる、また短い日本語を西訳できる能力を身につける（汎用的技能）。

日本語や英語とは異なる構造の言語の学習を通して、また、様々な観点からスペインを紹介しているテキスト内容を通して多文化理解力を高める（知識・理解）。

スペイン語中級Ⅱ

◆授業概要

スペイン語初級Ⅰ・Ⅱおよび中級Ⅰを修得済みの学生を対象として、より高度な文法・語彙・表

現を学習する。同時に、それらを駆使してスペイン語を理解・表現する（具体的には、スペイン語の会話を理解する、スペイン語で作文する、スペイン語で書かれた長文を読解し和訳する）力を養成する。

中級Ⅱで学習する事柄は、接続法過去をはじめとして一層高難易度のものとなる。

◆学習到達目標

中級レベルの文法・語彙・表現を習得し、ある程度まとまった長さの文章や会話を理解し和訳できる、また短い日本語を西訳できる能力を身につける（汎用的技能）。

日本語や英語とは異なる構造の言語の学習を通して、また、様々な観点からスペインを紹介しているテキスト内容を通して多文化理解力を高める（知識・理解）。

日本語 FⅠ (1) (2) / FⅡ (1) (2) / FⅢ / FⅣ

◆授業概要

This course is designed for beginner students in the study of the Japanese language. Students will be introduced to reading, writing, and speaking modern Japanese. The fundamentals of grammar, pronunciation, vocabulary and conversation will be established if students take Japanese FⅠ -FⅣ.

◆学習到達目標

The course aims to:

- 1) learn how to read and write hiragana, katakana, and simple kanji
- 2) have a basic understanding of sentence structures, grammar and vocabulary of Japanese
- 3) be familiar with commonly used phrases in daily communication with the university community

日本語 JⅠ / JⅡ

◆授業概要

中級程度（日本語能力試験 N4、N3 受験レベル）の日本語能力を持つものを対象に、留学生活を送る上で日常生活や、大学での学習研究活動に必要となる、基礎的な日本語能力の養成を目的とする。中級レベルの文法学習を通じて、基本的な語彙や漢字を使って書かれた文章を読んで理解することができるようにする。また、聴解練習や、短文作文、会話練習などを通して総合的な日本語運用能力の着実な基礎力を養成する。適宜読解の副教材を用いる。ほぼ毎回宿題を課す。授業はテキストにしたがってすすめる。テキストは「TRY! 日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語（改定版）」を予定しているが、1 回目の授業の説明を聞いてから購入すること。

◆学習到達目標

留学生活を送る上で、毎日の生活や、大学での学習に必要な、基本的な日本語の能力を身につける。中級レベルの文法の学習を通して、基本的な言葉や漢字を使って書かれた文章を、確実に読んだり、聞いたり、書いたりできるようになることを目標とする。テキストは、1 回目の授業の説明を聞いてから購入すること。

日本事情 A

◆授業概要

日本文学には、日本人の生活と心があらわれている。

日本の古典文学作品を読むことによって、日本文学の基礎的な知識や作品が書かれた当時の社会について学ぶ。

日本文学を学びながら、日本語で意見を発表し、文章を書く能力を高めることを目的とする。

◆学習到達目標

日本の文学作品について、作者、成立、表現の特色、文学的意義（作品の背景、魅力、作者の伝えたいこと）を日本語で述べることができるようになる。

日本事情 B

◆授業概要

日本文化の特質と歴史的変遷を理解することを目的に、文化・歴史・風土を学びます。

現代日本文化の多くは近世（江戸時代）に確立しました。そこでこの授業では、演劇・煎茶道などを素材に、江戸時代の文化についての理解を深めます。

また、奈良には、日本最初の本格的な都があったので、寺院・仏像をはじめとして様々な文化遺産があります。奈良の文化遺産についても学びます。

留学生の理解度に応じて、日本語によるペアワーク・ディスカッションなどによって発信力を高める指導を行います。

◆学習到達目標

日本の文化・歴史・風土を理解する。

奈良の文化遺産についての知識を身につける。

日本の文化について、日本語で述べられるようになる。

2. 奈良女子大学国際空間 CotoQue（ことーく）

■ 2023 年度の国際空間 CotoQue（ことーく）について

2023 年度は、奈良女子大学国際空間 CotoQue で 41 件のイベントを開催した。イベントの参加者数は、奈良女子大学が延べ 411 名、奈良教育大学が 10 名、本学の協定大学であるチッタゴン大学の学生が 10 名（7 月 26 日「English Open Talk」に参加）である。また、2023 年度は放送大学奈良学習センターの学生や地域の一般の方にも参加者を募集した（7 月 26 日「English Open Talk」3 名、8 月 10 日「みんなでわいわい！世界の願いを読み解こう！～七夕の短冊にこめられたもの～」5 名）。

学生がイベントの企画や運営を担ったイベントは 29 件、企画・運営にかかわった学生の延べ人数は 37 名である。学生は、街歩きイベントのルート決定や案内、ゲームイベントの企画と進行、外国語のオープントークにおける「学生先生」としての会話のリードや話題提供、文化紹介イベントでのレクチャーなどを主体的におこなった。

2023 年度の特徴は、①留学生による文化紹介のイベントが多かったこと、②地域とのかかわり、の 2 点である。①「Christmas Talk」「台湾奇人軼事附飲料」「留学生が伝えたい、他では聞けない韓国のリアルな話」では、留学生が、出身地の文化について資料を作りレクチャーをおこなった。「セルビア:伝統、食事、芸術」「春節を祝おう!」では、留学生がセルビアの伝統的な飾り (licidersko srce (リチデルスコ・スルツェ)) や中国の春節の飾り (倒福) の作り方を指導し、参加者はイベント内で実際に制作を体験した。②地域とのかかわりについては、先に述べた、放送大学の学生や地域の方にも参加者を募ったイベントに加え、「Valentine's Day with BRIDAL COSTUMES」では、地元企業に協力してもらい、学生たちが日本の伝統的な婚礼儀式について学び、実際に婚礼衣装に触れることができるイベントを開催した。

■ 2023 年度奈良女子大学国際空間 CotoQue イベント一覧

日時	イベント名
4 月 26 日 (水) 16:30-18:00	Let's トーク アニメ
5 月 11 日 (木) 16:30-17:30	おしえて! 交換留学体験談 (レスター大学)
5 月 12 日 (金) 16:20-17:30	Naramachi Walk (まちあるきイベント)
5 月 18 日 (木) 16:30-17:30	韓国語オープントーク
5 月 29 日 (月) 16:30-17:30	韓国語オープントーク
5 月 30 日 (火) 16:30-17:30	中国語オープントーク
6 月 7 日 (水) 16:30-18:00	茶道教室
6 月 12 日 (月) 16:30-17:30	English Open Talk
6 月 20 日 (火) 16:30-18:30	English Open Talk
6 月 21 日 (水) 16:30-18:00	いけばな教室
6 月 26 日 (月) 16:30-17:30	韓国語オープントーク
6 月 28 日 (水) 16:30-17:30	English Open Talk
6 月 29 日 (木) 16:30-17:30	韓国語オープントーク
7 月 3 日 (月) 16:20-17:30	Nigatsudo Walk
7 月 10 日 (月) 16:30-17:30	English Open Talk
7 月 11 日 (火) 16:30-17:30	中国語オープントーク

7月12日(水) 16:30-18:00	茶道教室
7月24日(月) 16:30-18:00	Differences between Germany and Austria: English/German Open Talk
7月26日(水) 17:30-19:00	English Open Talk
8月2日(水) 16:30-17:30	English Open Talk
8月10日(木) 14:00-16:00	みんなでわいわい！世界の願いを読み解こう！～七夕の短冊にこめられたもの～
8月23日(水) 14:00-17:00	着て学んで楽しむ浴衣の会
10月11日(水) 16:30-18:00	万国御菓子博覧会（新入留学生歓迎イベント）
10月18日(水) 16:30-17:30	韓国語オープントーク
10月25日(水) 16:30-17:30	中国語オープントーク
10月26日(木) 16:30-17:30	韓国語オープントーク
10月30日(月) 16:30-17:30	中国語オープントーク
11月15日(水) 16:30-18:00	茶道教室
11月21日(火) 16:30-18:00	韓国語オープントーク
11月28日(火) 16:30-17:30	おしえて！交換留学体験談（トリアー大学）
11月29日(水) 16:30-18:00	いけばな教室
11月30日(木) 16:30-17:30	韓国語オープントーク
12月4日(月) 16:30-17:30	Christmas Talk
12月11日(月) 16:30-18:00	台湾奇人軼事附飲料
12月14日(木) 16:30-17:30	おしえて！交換留学体験談（梨花女子大大学）
1月18日(木) 16:30-17:30	おしえて！交換留学体験談（国立台湾大学）
1月25日(木) 16:30-17:30	THAI 入門 文化とタイ語のワークショップ by チェンマイ大学
2月9日(金) 16:30-18:00	留学生が伝えたい、他では聞けない韓国のリアルな話
2月14日(水) 13:00-15:00	Valentine's Day with BRIDAL COSTUMES

2月15日(木) 13:00-14:30	セルビア：伝統、食事、芸術
2月16日(金) 14:00-15:30	春節を祝おう！

3. 留学生のための実地見学旅行

国際戦略センターは、留学生に日本文化・社会を学ぶ場を提供するために研修旅行を行っている。
2023年度は、下記事業を実施した。

開催日	事業名	参加学生数(名)
5月27日(土)	留学生実地見学旅行(菜の花館と彦根城)	奈良女子40名 奈良教育大3名
11月1日(水)	留学生実地見学旅行(グリコピア神戸と明石市立天文科学館)	奈良女子35名 奈良教育大4名

4. 日本語学習ボランティア

● 日本語学習ボランティア概要

日本語学習を通じた国際交流を目的に本学に在籍している交換留学生、日本語・日本文化研修留学生およびその他の国費留学生等が、日本人学生ボランティアと一緒に日本語を勉強する制度である。

● 日本人ボランティアメンバーについて

日本人ボランティアのメンバーは、本センターが主催する短期研修に参加した学生が多く活躍している。海外留学に興味のある学生や、外国語を積極的に習得したい学生などがメンバーに登録しており、日本語学習支援を通じた国際交流を行っている。

● 人数概要

2023年度に日本語学習ボランティアに登録した学生は下記のとおり。

◆留学生のべ36名

◆日本人ボランティア生のべ39名

5. 留学生のための就職支援

● 留学生のための就職活動スタートアップガイダンス(留学生対象)

2023年12月21日(木曜)、学生生活課就職係との共催で、「留学生のための就職活動スタートアッ

「ガイダンス」を開催した。8名の留学生が参加し、学内ツアーで就職係を訪れ、就職活動の支援を利用する方法について説明を受けた。その後、日本での就職活動の特徴やスケジュールのほか、企業分析をする際に求人情報の何に注目するか、また、学内ツアーなどガイダンスの内容を振り返る動画を視聴するなど、詳しいレクチャーを受けた。

●【JETRO 奈良連携】国際交流インターンシップ（中国人留学生・日本人学生対象）

2023年8月21日から9月21日の間、日本貿易振興機構（ジェトロ）奈良事務所と連携し、中国または台湾からの留学生4名と、日本人学生3名のインターンシップを実施した。今回のインターンシップでは、日本人と留学生のペアまたはトリオになるよう3チームに分かれて、奈良のものづくりのトップランナー企業3社（「有限会社井上企画・幡」「株式会社呉竹」「株式会社キタイ」）に取材を行い、中国のSNSで情報を配信するための動画や文章を作成した。ジェトロ奈良事務所・上海事務所スタッフより、業務内容や作業の進捗について丁寧なフォローが行われ、フィードバックの機会も複数回設けられた。最終日には対面で協力企業とともに報告会を実施し、その後1社の商品については、学生が作成したSNSコンテンツがきっかけで新規の顧客開拓の動きもあり、またインターンシップ自体がNHKニュースや奈良新聞などのメディアでも紹介されるなど、新しい取り組みとして注目されている。

●【H.I.S サポート】奈良女子大学学生のための、課題解決型インターンシップ（留学生・日本人学生対象）

株式会社エイチ・アイ・エスのサポートのもと、2023年9月12日から15日、19日から20日の計6日間で、株式会社空土（くうど：奈良県奈良市水間町）での実地研修を含むインターンシップを実施する予定だったが、留学生の参加者数が足りなかったため実施を見送った。

【注意：インターンシップという名称について】

上述の研修は留学生の日本での就業促進や連携・サポート先の団体の意向から、いずれも学部1・2年生や交換留学生・特別聴講生などが参加できるようにデザインしているため、文部科学省、厚生労働省及び経済産業省によって2022年6月に改正された、インターンシップに関する基本的認識や推進方策を取りまとめた「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（就職活動前年度以降学生対象の就業体験を規定日数含むものをインターンシップと呼ぶ）には対応していない。2025年度より名称を変更予定である。

6. 留学サポート制度

■ 留学サポート制度の概要

中長期留学を予定している学生への支援（現地の情報提供、留学準備支援等）を更に充実して行うため、元留学生をサポーターとして希望者に割り当てる制度である。

海外渡航の半年前からサポートを開始する取り組みであるが、渡航実現の予測がつかない状況にあることから、留学予定の5名にサポーターの割り当てを行い支援を開始した。

7. 国際戦略センターキックオフシンポジウム

令和5年9月28日、奈良女子大学講堂において国際戦略センターキックオフシンポジウムを開催した。本シンポジウムは、奈良教育大学の「国際交流留学センター」と奈良女子大学の「国際交流センター」を統合した「国際戦略センター（Nara International Strategy Center）」の設立を記念するものであり、教職員・学生・市民など約100人が参加した。

第一部において、本機構の榊 裕之理事長は、昨年度の法人統合を踏まえて両大学が知見を共有し、機構として国際化を推進することを開会のあいさつとして述べた後、吉村 雅仁国際戦略センター長は、学生の留学促進や国際交流体験プログラムなど多彩な取組を展開する「国際キャンパス奈良」の形成に向けた国際戦略の骨子案について説明した。続いて、文部科学省高等教育局の小林 洋介参事官（国際担当）は、高等教育の国際化における最新の動きと好事例を紹介した後、大学内の国際化ではなく地域の国際化に貢献できる大学が今後、注目されていくことを強調した。

第二部において、「大学教育と国際化のネクストステージ」をテーマに両大学の海外協定校等からの招へい者4名による講演が行われ、中国の南京大学日本語科講師の黄 一丁（コウ・イッテイ）氏、奈良女子大学「佐保会」ベトナム支部から科学技術アカデミー環境ゲノム研究室長のキム・オアン（KIM Oanh）氏と天然資源環境省科学技術・国際協力部長のグエン・ハン（NGUYEN Hang）氏、フランスのストラスブール大学国際関係・言語政策部次長のアンドレア・ヤング（Andrea YOUNG）氏らが登壇した。講演を通じて、海外大学の国際化に関する現状や最新の取組が参加者と共有した。

第三部において、「今後の奈良国立大学機構の目指すべき国際化とは」と題するパネルディスカッションが行われ、パネリスト4名とモデレーターの高須 夫悟国際戦略副センター長が登壇した。最初に、本機構アドバイザリーボードのメンバーで米国ライス大学電子・計算機学科教授の河野 淳一郎氏は、自身の経験も踏まえて多様なバックグラウンドを持った人と海外で学び研究することの重要性を力説した。次に、本機構奈良カレッジズ連携推進センターの寺岡 伸悟副センター長は、2つの世界遺産を持つ奈良の文化等を海外の方にも学んでもらう機会を地域との連携強化によって増やし、奈良の国際化に貢献する前向きな姿勢を示した。その後、パネリスト全員により奈良の地でどのような「国際化」が可能か、また「国際化」の先に実現される社会について活発な議論が行われた。

本シンポジウムは、大学が目指すべき国際化のネクストステージについて、また、「日本文化の原点」奈良の地にある本機構・両大学に期待される役割などについて構想を深める好機となった。

開催日	事業名	参加学生数（名）
9月26日（火）	キックオフシンポジウムプレイベント「フランスの言語政策・教育・教員養成一言語意識・複言語教育の視点から」ストラスブール大学（フランス）アンドレア・ヤング博士	約30名
9月28日（木）	国際戦略センターキックオフシンポジウム	約100名

8. 外務省対日理解促進交流プログラム「MIRAI」 第7グループ(文化・地方発見) オンライン交流プログラム

令和5年10月17日、外務省が推進する対日理解促進交流プログラム「MIRAI (Mutual-understanding, Intellectual Relations and Academic Exchange Initiative)」において、日本各地をオンラインで巡る第7グループと「日本文化の原点、奈良について」と題するセッションを行った。両地域19か国(アルバニア、アンドラ、イタリア、オーストリア、コソボ、キルギス、ノルウェー、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、セルビア、タジキスタン、デンマーク、ブルガリア、ベルギー、マルタ、ラトビア、リトアニア)から大学生・大学院生22名と奈良女子大学の学生8名の合計30名が参加した。オンラインセッションでは、本機構および奈良教育大学・奈良女子大学の紹介の後、奈良のユネスコ世界遺産について概説がなされ、著名なドイツ人建築家ブルーノ・タウトによる奈良に関する考察および貴族文化・武士文化の二元論について講義を行った。続いて、学生30名が4つのチームに分かれ、ブルーノ・タウトの考察などを起点に古都・奈良と日本文化について活発な議論がなされ、オンラインツールを駆使したプレゼンテーションが行われた。参加した学生たちは、日本文化の特長や多様性、欧州文化との相違などについて相互に学びを深めた。

開催日	事業名	参加学生数(名)
10月17日(火)	対日理解促進交流プログラム「MIRAI」 第7グループ(文化・地方発見) オンライン訪日(交流)プログラム	8名



資 料

■ 国際戦略センター奈良女子大学部会 2023 年度活動一覧

4 月

4 日 (火) ～ 10 日 (月)	履修登録
6 日 (木)	新入留学生オリエンテーション

5 月

10 日 (水)	グローバル女性人材養成プログラム (フィリピン) 説明会
12 日 (金)	Nara ISC 海外合同研修 (ハワイ・オーストラリア) 説明会
27 日 (土)	留学生実地見学旅行 (菜の花館見学と彦根城)

6 月

14 日 (水)	本学留学説明会
15 日 (木)	JSAF 主催 留学 /IELTS 説明会
16 日 (金)	夏休み! 海外オンライン研修説明会
19 日 (月)	外国人留学生による日本語スピーチ大会

7 月

17 日 (月) ～ 21 日 (金)	日本語サマープログラム「万葉」
---------------------	-----------------

8 月

19 日 (土)、20 日 (日)、26 日 (土)、27 日 (日)	日本語オンラインプログラム「そらみつ」中上級日本語コース
20 日 (日) ～ 9 月 2 日 (土)	グローバル女性人材養成プログラム (フィリピン)
21 日 (月)、9 月 22 日 (金)	留学生のための国際交流インターンシップ
21 日 (月)、22 日 (火)	TOEFL 対策講座
27 日 (日) ～ 9 月 10 日 (日)	Nara ISC 海外合同研修 (ハワイ)
28 日 (月) ～ 9 月 1 日 (金)	夏休み海外オンライン研修 (フィリピン セブ A)
28 日 (月) ～ 9 月 1 日 (金)	夏休み海外オンライン研修 (ニュージーランド)

9 月

11 日 (月) ～ 15 日 (金)	夏休み海外オンライン研修 (フィリピン セブ B)
25 日 (月) ～ 29 日 (金)	履修登録
28 日 (木)	Nara ISC キックオフシンポジウム

10 月

3 日 (火)	新入留学生オリエンテーション
18 日 (水)	グローバル女性人材養成プログラム (ニュージーランド) 第一回説明会

11 月

1 日 (水)	留学生実地見学旅行 (グリコピア神戸と明石市天文科学館)
22 日 (水)	グローバル女性人材養成プログラム (ニュージーランド) 説明会
29 日 (水)	JSAF 主催 留学 /IELTS 説明会

12 月

13 日 (水)	春休み海外オンライン研修説明会
20 日 (水)	グローバル女性人材養成プログラム (ニュージーランド) 説明会
21 日 (木)	留学生のための就職活動スタートアップガイダンス

1 月

7日(日)、8日(祝月)、20日(土)、27日(土)	日本語オンラインプログラム「そらみつ」中上級日本語コース
----------------------------	------------------------------

2 月

1 (木)	奈良女子大学日本語授業発表会「奈良女留学生が見た「奈良」
16日(金)～3月11日(月)	グローバル女性人材養成プログラム (ニュージーランド)
26日(月)～3月1日(金)	春休み！海外オンライン研修 (フィリピン セブ A)

3 月

3 日 (日)～ 14 日 (木)	Nara ISC ヨーロッパ研修
18日(月)～22日(金)	春休み！海外オンライン研修 (フィリピン セブ B)

CotoQue イベントについては、本年報 P.108 ～ P.110 を参照

■ 2023 年度 外国人留学生数

学部学生	大学院 博士前期課程	大学院 博士後期課程	研究生等			計
			研究生	特別聴講学生等	(小計)	
45	28	22	18	111 (50)	129	224

** () 内は短期プログラムによる受入留学生 (学籍を与えていないプログラム参加者を含む)

■ 大学間交流協定一覧

No	国 名	大 学 名	締結年月日
1	中国 China	西安工程大学 Xi'an Polytechnic University	1988.2.1
2	中国 China	南京大学 Nanjing University	1994.10.1
3	中国 China	香港理工大学 Hong Kong Polytechnic University	1996.1.1
4	ベトナム Vietnam	ベトナム国家大学 Vietnam National University, Hanoi	1996.9.5
5	オーストラリア Australia	キャンベラ大学 University of Canberra	1997.2.10
6	韓国 Korea	梨花女子大学 Ewha Womans University	1997.2.28
7	中国 China	蘇州大学 Soochow University	1998.4.2
8	中国 China	西安交通大学 Xian Jiaotong University	1999.3.15
9	英国 United Kingdom	クィーンマーガレット・ユニバーシティコレッジ Queen Margaret University College	1999.3.18
10	ポーランド Poland	キャロル・マルチンコウスキー・ポズナン医科学大学 Karol Marcinkowski Poznan University of Medical Sciences	1999.4.26
11	オーストリア Austria	グラーツ大学 Karl Franzens University of Graz	1999.12.16
12	アメリカ U.S.A.	ノースイースタン大学ミルズカレッジ Mills College at Northeastern University	2000.3.30

13	ベルギー Belgium	ルーヴェン・カトリック大学 Katholieke Universiteit Leuven	2000.11.28
14	ロシア Russia	ロシア人民友好大学 Peoples' Friendship University of Russia	2001.5.29
15	ベトナム Vietnam	ハノイ教育大学 Hanoi National University of Education	2001.9.26
16	中国 China	新疆大学 Xinjiang University	2002.3.26
17	アフガニスタン Afghanistan	カブール大学 Kabul University	2003.3.28
18	アフガニスタン Afghanistan	アフガニスタン教育大学 Afghanistan University of Education	2003.3.28
19	バングラデシュ Bangladesh	バングラデシュ農科大学 Bangladesh Agricultural University	2003.8.20
20	中国 China	武漢大学 Wuhan University	2003.10.15
21	フランス France	パリ大学 University Paris Diderot	2005.10.17
22	英国 United Kingdom	レスター大学 University of Leicester	2006.7.5
23	ベトナム Vietnam	ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学 The University of Languages and International Studies, Vietnam National University-Hanoi	2009.3.12
24	ベトナム Vietnam	ベトナム国家大学ハノイ 人文社会科学大学 The University of Social Sciences and Humanities-Hanoi	2009.6.4
25	台湾 Taiwan	東海大学 Tunghai University	2009.9.14
26	ベトナム Vietnam	ハノイ貿易大学 Foreign Trade University (Socialist Republic of Vietnam)	2010.3.29
27	ベトナム Vietnam	ハノイ大学 Hanoi University (Socialist Republic of Vietnam)	2010.3.30
28	中国 China	大連理工大学 Dalian University of Technology	2011.3.16
29	インドネシア Indonesia	ガジヤマダ大学 Universitas Gadjah Mada	2013.7.11
30	バングラデシュ Bangladesh	チッタゴン大学 Chittagong University	2014.9.26
31	ニュージーランド New Zealand	リンカーン大学 Lincoln University	2015.8.25
32	ベトナム Vietnam	ベトナム国家大学ハノイ 自然科学大学 VNU University of Science	2016.8.5
33	ベトナム Vietnam	トゥイロイ大学 Thuyloi University	2017.10.30
34	タイ Thailand	チェンマイ大学 Chiang Mai University	2017.11.30
35	バングラデシュ Bangladesh	ダッカ大学 University of Dhaka	2017.12.4

36	インドネシア Indonesia	インドネシア大学 Universitas Indonesia	2019.3.1
37	トルコ Turkey	アクデニス大学 Akdeniz University	2019.3.29
38	フィリピン Philippines	フィリピン大学ディリマン校 University of the Philippines	2019.7.3
39	台湾 Taiwan	東呉大学 Soochow University	2021.11.5
40	アメリカ U.S.A	リーハイ大学 Lehigh University	2022.2.2

計 40 校

■ 部局間交流協定一覧

	国名	大学名等	締結年月日	学部名等
1	中国 China	東華大学繊維学部 Donghua University College of textiles	2000.10.5	生活環境学部
2	韓国 Korea	ソウル大学生活科学部 Seoul National University College of Human Ecology	2001.3.7	生活環境学部及び 大学院人間文化研究科
3	イタリア Italy	ボローニャ大学文学部 University of Bologna Faculty of Letters and Philosophy	2005.3.24	文学部及び 大学院人間文化研究科
4	ドイツ Germany	トリアー大学第二文学部 University Trier Department II	2006.3.30	文学部及び 大学院人間文化研究科
5	中国 China	内蒙古大学蒙古学学院 College of Mongolian Studies Inner Mongolia University	2007.12.25	生活環境学部及び 大学院人間文化研究科
6	ベトナム Vietnam	ハノイ理工科大学応用数学情報学部 The School of Applied Mathematics and Informatics at Hanoi University of Science and Technology	2016.8.17	理学部及び 大学院人間文化研究科
7	ベトナム Vietnam	ベトナム高等数学研究所 Vietnam Institute for Advanced Study in Mathematics	2016.9.5	理学部及び 大学院人間文化研究科
8	台湾 Taiwan	台湾大学文學院 National Taiwan University College of Liberal Arts	2017.3.21	文学部及び 大学院人間文化研究科
9	ベトナム Vietnam	ベトナム科学技術アカデミーゲノム研究所 The Institute of Genome Research, Vietnam Academy of Science and Technology	2017.5.29	理学部及び 大学院人間文化研究科
10	インドネシア Indonesia	アイランガ大学人文学部 The Faculty of Humanities Universitas Airlangga	2017.8.9	文学部、生活環境学部 及び 大学院人間文化研究科
11	台湾 Taiwan	朝陽科技大学設計学院 College of Design, and Department of Landscape and Urban Design Chaoyang University of Technology	2018.10.1	生活環境学部及び 大学院人間文化研究科
12	フィリピン Philippines	デ・ラ・サール・リパ学園 De La Salle Lipa	2019.2.18	文学部及び 大学院人間文化研究科

13	タイ Thailand	タマサート大学理工学部 Faculty of Science and Technology, Thammasat University	2019.3.28	理学部及び 大学院人間文化研究科
14	ニュージーランド New Zealand	オークランド大学理学部 The Faculty of Science of The University of Auckland	2020.10.2	理学部及び 大学院人間文化総合科 学研究科
15	インドネシア Indonesia	アイルランガ大学理工学部 The Faculty of Science and Engineering, Universitas Airlangga	2023.5.4	理学部及び 大学院人間文化総合科 学研究科
16	韓国 Korea	忠南大学工学部 Chungnam National University College of Engineering	2023.7.21	生活環境学部

計 16校

■ ダブルディグリープログラム協定（大学院人間文化総合科学研究科）締結一覧

	国名	大学名等	締結年月日
1	ベトナム Vietna	ハノイ大学 Hanoi University (Socialist Republic of Vietnam)	2013.4.26
2	ベルギー Belgium	ルーヴェン・カトリック大学 Katholieke Universiteit Leuven	2013.12.2
3	中国 China	南京大学 Nanjing University	2019.11.9

※ゲッチンゲン大学除く 計 3校

■ 教員派遣事業締結一覧

	国名	大学名等	締結年月日
1	中国 China	南京大学 Nanjing University	2016.4.5
2	中国 China	蘇州大学 Soochow University	—
3	ベトナム Vietnam	ハノイ大学 Hanoi University (Socialist Republic of Vietnam)	2013.8.19
4	ベトナム Vietnam	ベトナム国家大学ハノイ 人文社会科学大学 The University of Social Sciences and Humanities-Hanoi	2013.10.10
5	ベトナム Vietnam	ハノイ 貿易大学 Foreign Trade University (Socialist Republic of Vietnam)	2013.10.4
6	ベトナム Vietnam	ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学 The University of Languages and International Studies, Vietnam National University-Hanoi	2010.10.22

■ 研究協力協定書締結一覧

	国名	大学名等	締結年月日
1	日本	EUインスティテュート関西 EU Institute in Japan, Kansai	2013.8.2

■ 国際戦略センター

			氏 名	任 期	任 期	
一	センター長	1	吉村 雅仁	奈良教育大学 教育連携講座教授	R5.4.1-R7.3.31	センター長
二	センター員	2	前田 康二	奈良教育大学 教職開発講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		3	和泉元 千春	奈良教育大学 教育連携講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		4	山岸 公基	奈良教育大学 美術教育講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		5	劉 麟玉	奈良教育大学 音楽教育講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		6	アムンルド トーマス マーティン	奈良教育大学 英語教育講座准教授	R5.4.1-R7.3.31	
		7	橋崎 頼子	奈良教育大学 学校教育講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		8	佐藤 臨太郎	奈良教育大学 英語教育講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		9	小村 明子	奈良教育大学 教育連携講座特任講師	R5.4.1-R5.9.30	
		10	ヤナセ ペーテル	奈良教育大学 教育連携講座特任講師	R5.10.1-R7.3.31	
		11	南雲 勇多	奈良教育大学 教育連携講座専任講師	R5.9.1-R7.3.31	
		12	阪上 彩子	奈良教育大学 教育連携講座特任講師	R5.4.1-R7.3.31	
		13	高須 夫悟	奈良女子大学 研究院自然科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	副センター長
		14	須賀 あゆみ	奈良女子大学 研究院人文科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	
		15	橋田 力	奈良女子大学 国際戦略センター教授	R5.8.1-R7.3.31	
		16	松永 光代	奈良女子大学 国際戦略センター准教授	R5.4.1-R7.3.31	
		17	森田 俊吾	奈良女子大学 研究院人文科学系専任講師	R5.4.1-R7.3.31	
		18	鍵和田 聡	奈良女子大学 研究院自然科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	
		19	伊藤 美奈子	奈良女子大学 研究院生活環境科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	
		20	大高 千明	奈良女子大学 研究院工学系専任講師	R5.4.1-R7.3.31	
		21	吉川 仁子	奈良女子大学 研究院人文科学系准教授	R5.4.1-R7.3.31	

■ 国際戦略センター運営委員会

			氏 名	任 期	任 期	
一	センター長	1	吉村 雅仁	奈良教育大学 教育連携講座教授	R5.4.1-R7.3.31	センター長
二	副センター長	2	高須 夫悟	奈良女子大学 研究院自然科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	副センター長

三	国際交流を担当する副学長	3	前田 康二	奈良教育大学 教職開発講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		4	藤原 素子	奈良女子大学 研究院生活環境科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	
四	センター業務を専らとするセンター員	5	和泉元 千春	奈良教育大学 教育連携講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		6	南雲 勇多	奈良教育大学 教育連携講座専任講師	R5.9.1-R7.3.31	
		7	橋田 力	奈良女子大学 国際戦略センター教授	R5.8.1-R7.3.31	
		8	松永 光代	奈良女子大学 国際戦略センター准教授	R5.4.1-R7.3.31	
五	その他委員長が必要と認めた者	9	阿部 香織	奈良教育大学 学生支援課長	R5.4.1-R7.3.31	
		10	濱田 憲人	奈良女子大学 国際課長	R5.4.1-R7.3.31	

■ 国際戦略センター 奈良女子大学部会

			氏 名	任 期	任 期	備考 1
一	部会長	1	高須 夫悟	研究院自然科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	部会長
二	副部会長	2	須賀 あゆみ	研究院人文科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	副部会長
三	センター員	3	橋田 力	国際戦略センター教授	R5.8.1-R7.3.31	センター業務を専らとするセンター員
		4	松永 光代	国際戦略センター准教授	R5.4.1-R7.3.31	センター業務を専らとするセンター員
		5	森田 俊吾	研究院人文科学系専任講師	R5.4.1-R7.3.31	
		6	鍵和田 聡	研究院自然科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	
		7	伊藤 美奈子	研究院生活環境科学系教授	R5.4.1-R7.3.31	
		8	大高 千明	研究院工学系専任講師	R5.4.1-R7.3.31	
		9	吉川 仁子	研究院人文科学系准教授	R5.4.1-R7.3.31	
		10	松原 千恵	国際戦略センター特任助教	R5.4.1-R7.3.31	
		11	濱田 憲人	国際課長	R5.4.1-R7.3.31	

■ 国際戦略センター 奈良教育大学部会

			氏 名	任 期	任 期	備考 1
一	部会長	1	前田 康二	副学長 (国際交流・地域連携担当)	R5.4.1-R7.3.31	部会長
二	センター員	2	吉村 雅仁	教育連携講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		3	和泉元 千春	教育連携講座教授	R5.4.1-R7.3.31	センター業務を専らとするセンター員
		4	山岸 公基	美術教育講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		5	劉 麟玉	音楽教育講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		6	アムンルド トーマス マーティン	英語教育講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		7	橋崎 頼子	学校教育講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		8	佐藤 臨太郎	英語教育講座教授	R5.4.1-R7.3.31	
		9	小村 明子	教育連携講座特任講師	R5.4.1-R5.9.30	
		10	ヤナセ ペーテル	教育連携講座特任講師	R5.10.1-R7.3.31	
		11	南雲 勇多	教育連携講座専任講師	R5.9.1-R7.3.31	センター業務を専らとするセンター員
		12	阪上 彩子	教育連携講座特任講師	R5.4.1-R7.3.31	
		13	阿部 香織	学生支援課長	R5.4.1-R7.3.31	

奈良国立大学機構
国際戦略センター年報
2023

奈良教育大学・奈良女子大学
2025 年 3 月発行

編集者
発行者

奈良国立大学機構 国際戦略センター

